

# 阿波市国民保護計画

平成30年3月

阿 波 市

## 目 次

第1編 総論	1
第1章 市の責務、計画の位置づけ、構成等	1
第1 市の責務及び市国民保護計画の位置づけ	1
1 市の責務	1
2 市国民保護計画の位置づけ	1
3 市国民保護計画に定める事項	1
第2 市国民保護計画の構成	1
第3 市国民保護計画の見直し、変更手続	2
1 市国民保護計画の見直し	2
2 市国民保護計画の変更手続	2
第2章 国民保護措置に関する基本方針	3
第1 基本的人権の尊重	3
第2 市民の権利利益の迅速な救済	3
第3 市民に対する情報提供	3
第4 関係機関相互の連携協力の確保	3
第5 市民の協力	3
第6 高齢者、障がい者等への配慮及び国際人道法の的確な実施	3
第7 指定公共機関及び指定地方公共機関の自主性の尊重	3
第8 国民保護措置に従事する者等の安全の確保	4
第9 外国人への国民保護措置の適用	4
第10 地域防災計画の活用	4
第3章 関係機関の事務又は業務の大綱等	5
第1 国民保護に関する措置の仕組み	5
第2 関係機関の事務又は業務の大綱	6
第4章 市の地理的、社会的特徴	8
第1 地 形	8
第2 気 候	9
第3 人口の推移	10
第4 世帯構成の推移	11
第5 要介護認定者数	11
第6 道路の位置等	12
第5章 市国民保護計画が対象とする事態	13
第1 武力攻撃事態	13
第2 緊急対処事態	14
第3 N B C 攻撃の場合	15

第2編 平素からの備えや予防	18
第1章 組織・体制の整備等	18
第1 市における組織・体制の整備	18
1 市の各部課室における平素の業務	18
2 市職員の参集基準等	19
3 消防機関の体制	21
4 国民の権利利益の救済に係る手続等	22
第2 関係機関との連携体制の整備	23
1 基本的考え方	23
2 県との連携	23
3 隣接市町との連携	24
4 指定公共機関等との連携	24
5 ボランティア団体等に対する支援	25
第3 通信の確保	25
1 非常通信体制の整備	25
2 非常通信体制の確保	25
3 情報通信機器等の活用	25
第4 情報収集・提供等の体制整備	26
1 基本的考え方	26
2 警報等の伝達に必要な準備	27
3 安否情報の収集、整理及び提供に必要な準備	28
4 被災情報の収集・報告に必要な準備	29
第5 災害医療体制の承知等	30
1 初期医療体制の整備	30
2 県が行う災害医療体制の承知	30
第6 研修及び訓練	31
1 研修	31
2 訓練	32
第2章 避難、救援及び武力攻撃災害への対処に関する平素からの備え	33
第1 避難に関する基本的事項	33
1 基礎的資料の収集	33
2 隣接する市町との連携の確保	34
3 民間事業者からの協力の確保	34
4 学校や事業所との連携	34
第2 避難実施要領パターンの作成	34
第3 救援に関する基本的事項	34
1 県との調整	34
2 基礎的資料の準備等	34
第4 輸送事業者の輸送力・輸送施設の把握等	34
1 輸送事業者の輸送力・輸送施設の把握等	34
2 輸送経路の把握等	35

第5	避難施設の指定への協力	35
第6	生活関連等施設の把握等	36
1	生活関連等施設の把握等	36
2	生活関連等施設の種類及び所管官庁	36
3	市が管理する公共施設等における警戒	36
第3章	要配慮者（避難行動要支援者）支援に関する平素からの備え	37
第1	社会福祉施設等入居者対策	37
1	自衛防災組織等の整備	37
2	教育・訓練の実施	37
3	施設の安全確保	37
第2	在宅要配慮者の対策	37
1	状況把握及び連絡体制の整備	37
2	啓発・訓練の実施	38
第3	外国人対策	38
1	外国人の状況把握等	38
2	外国人への国民保護に関する啓発	38
3	ボランティアの確保	38
第4章	物資及び資材の備蓄、整備	39
第1	市における備蓄	39
1	防災のための備蓄との関係	39
2	国民保護措置の実施のために必要な物資及び資材	39
3	県との連携	39
第2	市が管理する施設及び設備の整備及び点検等	40
1	施設及び設備の整備及び点検	40
2	ライフライン施設の機能の確保	40
3	復旧のための各種資料等の整備	40
第5章	国民保護に関する啓発	41
第1	国民保護措置に関する啓発	41
1	啓発の方法	41
2	防災に関する啓発との連携	41
3	学校における教育	41
第2	武力攻撃事態等において住民がとるべき行動等に関する啓発	41

第3編	武力攻撃事態等への対処	42
第1章	初動連絡体制の迅速な確立及び初動措置	42
第1節	事態認定前における緊急事態連絡室等の設置及び初動措置	42
1	緊急事態連絡室等の設置	42
2	初動措置の確保	43
3	関係機関への支援の要請	43
4	対策本部への移行に要する調整	43
第2節	武力攻撃等の兆候に関する連絡があった場合の対応	45
第2章	市対策本部の設置等	46
第1節	市対策本部の設置	46
1	設置の手順	46
2	市対策本部を設置すべき指定の要請	47
3	市対策本部の組織構成及び機能	47
4	各部課の主な任務	48
5	市対策本部における広報等	51
6	市現地対策本部の設置	51
7	現地調整所の設置	52
8	市対策本部長の権限	53
9	市対策本部の廃止	54
第2節	通信の確保	54
1	情報通信手段の確保	54
2	情報通信手段の機能確認	54
3	通信輻輳により生じる混信等の対策	54
第3章	関係機関相互の連携	55
第1節	国・県の対策本部との連携	55
1	国・県の対策本部との連携	55
2	国・県の現地対策本部との連携	55
第2節	知事、指定行政機関の長又は指定地方行政機関の長等への措置要請等	55
1	知事等への措置要請	55
2	知事に対する指定行政機関の長又は指定地方行政機関の長への措置要請	55
3	指定公共機関、指定地方公共機関への措置要請	55
第3節	自衛隊の部隊等の派遣要請の求め等	56
第4節	他の市町村長等に対する応援の要求、事務の委託	56
1	他の市町村長等への応援の要求	56
2	県への応援の要求	56
3	事務の一部の委託	56
第5節	指定行政機関の長等に対する職員の派遣要請	57
第6節	市の行う応援等	57
1	他の市町村に対して行う応援等	57
2	指定公共機関又は指定地方公共機関に対して行う応援等	57

第7章	ボランティア団体等に対する支援等	57
1	自主防災組織等に対する支援	57
2	ボランティア団体等に対する支援等	57
3	民間からの救援物資の受入れ	58
第8章	住民への協力要請	58
第4章	警報及び避難の指示等	59
第1章	警報の伝達等	59
1	警報の内容の伝達	59
2	警報の内容の伝達方法	60
3	緊急通報の伝達及び通知	61
4	避難の指示の想定事態別留意事項	61
第2章	避難住民の誘導等	64
1	避難の指示の通知・伝達	64
2	避難実施要領の策定	65
3	避難住民の誘導	73
第5章	救 援	76
第1章	救援の実施	76
1	救援の実施	76
2	救援の補助	76
第2章	関係機関との連携	76
1	県への要請等	76
2	他の市町村との連携	76
3	日本赤十字社との連携	77
4	救援物資の輸送の求め	77
第3章	救援の内容	77
1	救援の基準等	77
2	救援における県との連携	77
第6章	安否情報の収集・提供	78
第1章	安否情報の収集	79
1	安否情報の収集	79
2	安否情報収集の協力要請	79
3	安否情報の整理	79
第2章	県に対する報告	79
第3章	安否情報の照会に対する回答	79
1	安否情報の照会の受付	79
2	安否情報の回答	80
3	個人情報保護への配慮	80
第4章	日本赤十字社に対する協力	80
第7章	武力攻撃災害への対処	81
第1章	武力攻撃災害への対処	81
1	武力攻撃災害への対処の基本的考え方	81

1	武力攻撃災害への対処の基本的考え方	81
2	武力攻撃災害の兆候の通報	81
<b>第2</b>	<b>応急措置等</b>	<b>82</b>
1	退避の指示	82
2	警戒区域の設定	83
3	応急公用負担等	84
4	消防に関する措置等	85
<b>第3</b>	<b>生活関連等施設における災害への対処等</b>	<b>87</b>
1	生活関連等施設の安全確保	87
2	危険物質等に係る武力攻撃災害の防止及び防除	87
<b>第4</b>	<b>NBC攻撃による災害への対処等</b>	<b>89</b>
1	NBC攻撃による災害への対処	89
<b>第8章</b>	<b>被災情報の収集及び報告</b>	<b>92</b>
<b>第1</b>	<b>被災情報の収集及び報告</b>	<b>92</b>
<b>第9章</b>	<b>保健衛生の確保その他の措置</b>	<b>93</b>
<b>第1</b>	<b>保健衛生の確保</b>	<b>93</b>
1	保健衛生対策	93
2	防疫対策	93
3	食品衛生確保対策	93
4	飲料水衛生確保対策	93
5	栄養指導対策	93
<b>第2</b>	<b>廃棄物の処理</b>	<b>94</b>
1	廃棄物処理の特例	94
2	廃棄物処理対策	94
<b>第10章</b>	<b>市民生活の安定に関する措置</b>	<b>95</b>
<b>第1</b>	<b>生活関連物資等の価格安定</b>	<b>95</b>
<b>第2</b>	<b>避難住民等の生活安定等</b>	<b>95</b>
1	被災児童生徒等に対する教育	95
2	公的徴収金の免除等	95
<b>第3</b>	<b>生活基盤等の確保</b>	<b>95</b>
1	水の安定的な供給	95
2	公共的施設の適切な管理	95
<b>第11章</b>	<b>特殊標章等の交付及び管理</b>	<b>96</b>
<b>第1</b>	<b>特殊標章等</b>	<b>96</b>
1	特殊標章	96
2	身分証明書	96
3	識別対象	96
<b>第2</b>	<b>特殊標章等の交付及び管理</b>	<b>97</b>
1	市長	97
2	消防長	97
<b>第3</b>	<b>特殊標章等に係る普及啓発</b>	<b>97</b>

第4編	復旧等	98
第1章	応急の復旧	98
第1	基本的考え方	98
1	市が管理する施設及び設備の緊急点検	98
2	通信機器の応急復旧	98
3	県に対する応援要請	98
第2	公共的施設の応急の復旧	98
第2章	武力攻撃災害の復旧	99
第1	国における所要の法制の整備等	99
第2	市が管理する施設及び設備の復旧	99
第3章	国民保護措置に要した費用の支弁等	100
第1	国民保護措置に要した費用の支弁、国への負担金の請求	100
1	国に対する負担金の請求方法	100
2	関係書類の保管	100
第2	損失補償及び損害補償	100
1	損失補償	100
2	損害補償	100
第3	総合調整及び指示に係る損失の補てん	100
第5編	緊急対処事態への対処	101
第1	緊急対処事態	101
第2	緊急対処事態における警報の通知及び伝達	101

# 第1編 総論

## 第1章 市の責務、計画の位置づけ、構成等

住民の生命、身体及び財産を保護する責務にかんがみ、国民の保護のための措置を的確かつ迅速に実施するため、以下のとおり、市の責務を明らかにするとともに、市の国民の保護に関する計画（以下「市国民保護計画」という。）の趣旨、構成等について定める。

### 第1 市の責務及び市国民保護計画の位置づけ

#### 1 市の責務

武力攻撃事態等において、武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律（以下「国民保護法」という。）その他の法令、国民の保護に関する基本指針（平成17年3月閣議決定。以下「基本指針」という。）及び県の国民の保護に関する計画（以下「県国民保護計画」という。）を踏まえ、市国民保護計画に基づき、国民の協力を得つつ、他の機関と連携協力し、自ら国民の保護のための措置（以下「国民保護措置」という。）を的確かつ迅速に実施し、その区域において関係機関が実施する国民保護措置を総合的に推進する。

#### 2 市国民保護計画の位置づけ

国民保護法第35条の規定に基づき、市国民保護計画を作成する。

#### 3 市国民保護計画に定める事項

市国民保護計画においては、その区域に係る国民保護措置の総合的な推進に関する事項、市が実施する国民保護措置に関する事項等国民保護法第35条第2項各号に掲げる事項について定める。

### 第2 市国民保護計画の構成

市国民保護計画は、以下の各編により構成する。

第1編 総論

第2編 平素からの備えや予防

第3編 武力攻撃事態等への対処

第4編 復旧等

第5編 緊急対処事態における対処

### 第3 市国民保護計画の見直し、変更手続

#### 1 市国民保護計画の見直し

市国民保護計画については、今後、国における国民保護措置に係る研究成果や新たなシステムの構築、県国民保護計画の見直し、本市の新たな取組及び内容の具体化、組織等体制の変更及び経年変化への対応等を踏まえ、不断の見直しを行う。

市国民保護計画の見直しに当たっては、市国民保護協議会の意見を尊重するとともに、広く関係者の意見を求めるものとする。

#### 2 市国民保護計画の変更手続

市国民保護計画の変更に当たっては、計画作成時と同様、国民保護法第39条第3項の規定に基づき、市国民保護協議会に諮問の上、知事に協議し、市議会に報告し、公表するものとする。（ただし、武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律施行令（以下「国民保護法施行令」という。）で定める軽微な変更については、市国民保護協議会への諮問及び知事への協議は要しない。）

## 第2章 国民保護措置に関する基本方針

国民保護措置を的確かつ迅速に実施するに当たり、特に留意すべき事項について、以下のとおり、国民保護措置に関する基本方針として定める。

### 第1 基本的人権の尊重

国民保護措置の実施に当たっては、日本国憲法の保障する国民の自由と権利を尊重することとし、国民の自由と権利に制限が加えられるときであっても、その制限は必要最小限のものに限り、公正かつ適正な手続の下に行う。

### 第2 市民の権利利益の迅速な救済

国民保護措置の実施に伴う損失補償、国民保護措置に係る不服申立て又は訴訟その他の市民の権利利益の救済に係る手続を、できる限り迅速に処理するよう努める。

### 第3 市民に対する情報提供

武力攻撃事態等においては、市民に対し、国民保護措置に関する正確な情報を、適時に、かつ、適切な方法で提供する。

### 第4 関係機関相互の連携協力の確保

国、県、近隣市町村並びに関係指定公共機関及び関係指定地方公共機関と平素から相互の連携体制の整備に努める。

### 第5 市民の協力

国民保護法の規定により国民保護措置の実施のため必要があると認めるときは、市民に対し、必要な援助について協力を要請する。

この場合において、市民は、その自発的な意思により、必要な協力をするよう努めるものとする。

また、消防団及び自主防災組織の充実・活性化、ボランティアへの支援に努める。

### 第6 高齢者、障がい者等への配慮及び国際人道法の的確な実施

国民保護措置の実施に当たっては、高齢者、障がい者その他特に配慮を要する者の保護について留意する。

また、国民保護措置を実施するに当たっては、国際的な武力紛争において適用される国際人道法の的確な実施を確保する。

### 第7 指定公共機関及び指定地方公共機関の自主性の尊重

指定公共機関及び指定地方公共機関の国民保護措置の実施方法については、指定公共機関及び指定地方公共機関が武力攻撃事態等の状況に即して自主的に判断するものであることに留意する。

## **第8 国民保護措置に従事する者等の安全の確保**

国民保護措置に従事する者の安全の確保に十分に配慮するものとする。

また、要請に応じて国民保護措置に協力する者に対しては、その内容に応じて安全の確保に十分に配慮する。

## **第9 外国人への国民保護措置の適用**

憲法第3章に規定する国民の権利及び義務に関する規定が、その性質上外国人に適用できないものを除き、外国人にも適用されるものと解されており、日本に居住し、又は滞在している外国人についても、武力攻撃災害から保護すべきことに留意するものとする。

## **第10 地域防災計画の活用**

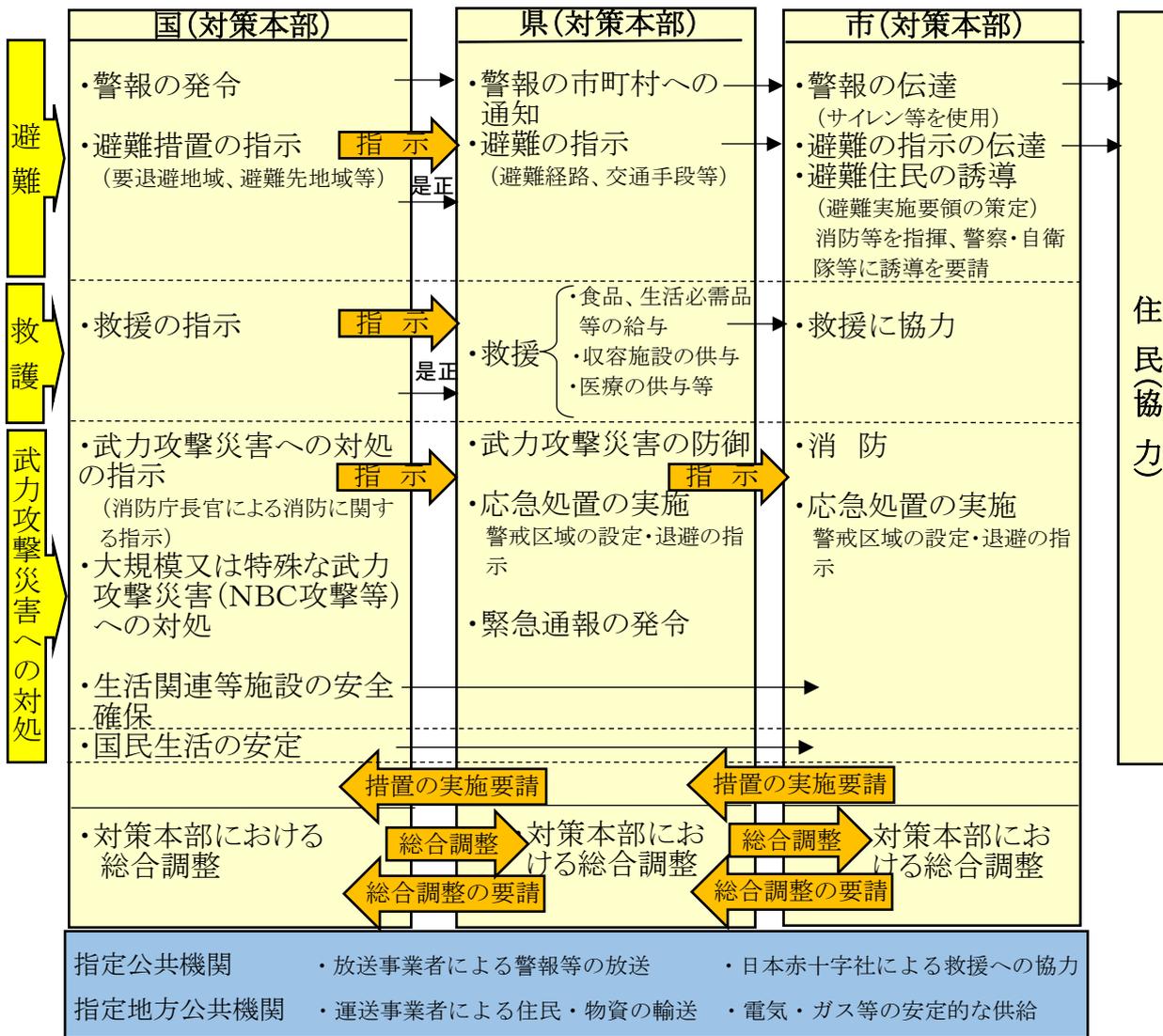
国民保護措置が阿波市地域防災計画における災害への対応と共通した事項が多いことから阿波市地域防災計画に基づく取り組みを活用する。

### 第3章 関係機関の事務又は業務の大綱等

国民保護措置の実施に当たり関係機関との円滑な連携を確保できるよう、国民保護法における市の役割を確認するとともに、関係機関の連絡窓口をあらかじめ把握しておく。

#### 第1 国民保護に関する措置の仕組み

#### 国民の保護に関する措置の仕組み



国、地方公共団体、指定公共機関等が相互に連携

## 第2 関係機関の事務又は業務の大綱

機関の名称		事務又は業務の大綱
行政機関	阿波市	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 市国民保護計画の作成</li> <li>2 市国民保護協議会の設置、運営</li> <li>3 市国民保護対策本部及び緊急対処事態対策本部の設置運営</li> <li>4 組織の整備、訓練</li> <li>5 警報の伝達、避難実施要領の策定、避難住民の誘導、関係機関の調整その他の住民の避難に関する措置の実施</li> <li>6 救援の実施、安否情報の収集及び提供その他の避難住民等の救援に関する措置の実施</li> <li>7 退避の指示、警戒区域の設定、消防、廃棄物の処理、被災情報の収集その他の武力攻撃災害への対処に関する措置の実施</li> <li>8 水の安定的な供給その他の国民生活の安定に関する措置の実施</li> <li>9 武力攻撃災害の復旧に関する措置の実施</li> </ol>
	徳島県	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 県国民保護計画の作成</li> <li>2 県国民保護協議会の設置、運営</li> <li>3 県国民保護対策本部及び県緊急対処事態対策本部の設置、運営</li> <li>4 組織の整備、訓練</li> <li>5 警報の通知</li> <li>6 住民に対する避難の指示、避難住民の誘導に関する措置、都道府県の区域を越える住民の避難に関する措置その他の住民の避難に関する措置の実施</li> <li>7 救援の実施、安否情報の収集及び提供その他避難住民等の救援に関する措置の実施</li> <li>8 武力攻撃災害の防除及び軽減、緊急通報の発令、退避の指示、警戒区域の設定、保健衛生の確保、被災情報の収集その他の武力攻撃災害への対処に関する措置の実施</li> <li>9 生活関連物資の価格の安定等のための措置その他の国民生活の安定に関する措置の実施</li> <li>10 交通規制の実施</li> <li>11 武力攻撃災害の復旧に関する措置の実施</li> </ol>
	徳島県県土整備部 東部県土整備局 吉野川庁舎	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 宮川内ダム施設の武力攻撃災害時の復旧</li> <li>2 国道、県道等の武力攻撃災害時の復旧</li> </ol>
指定行政機関	消防庁 (徳島中央広域連合) (中消防署・西消防署)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 武力攻撃災害時の消火、応急救助及び応援</li> <li>2 武力攻撃災害時における傷病者等の緊急輸送</li> <li>3 住民の避難誘導</li> </ol>
	自衛隊	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 危険区域の警戒、住民の防護</li> <li>2 住民の避難誘導、警護</li> <li>3 救援活動等</li> </ol>

機関の名称		事務又は業務の大綱
指定 地方 行政 機関	四国管区警察局 (阿波吉野川警察署)	1 警察の国民保護措置及び相互援助の指導・調整 2 警戒区域の設定及び避難の指示・誘導 3 県警察及び関係機関等からの情報収集並びに報告連絡 4 警察通信の確保
	中四国農政局 (徳島県拠点)	1 武力攻撃災害対策用食料及び備蓄物資の確保 2 政府所有米穀の売却及び武力攻撃災害時における応急供給 3 政府所有乾パンの緊急引渡し 4 農業関連施設の応急復旧
	森林管理局 (徳島森林管理署)	1 武力攻撃災害対策用復旧資材の調達・供給
	四国地方整備局 (徳島河川国道事務所)	1 武力攻撃災害時の直轄管理河川の復旧
	徳島地方气象台	1 武力攻撃災害の発生が予想される時及び武力攻撃災害発生時においての、気象状況の推移やその情報提供
	日本郵便株式会社 (四国支社)	1 郵便の確保
指定 公共 機関	日本赤十字社 (徳島県支部)	1 救援への協力 2 外国人の安否情報の収集、整理及び回答
	日本放送協会 (徳島放送局)	1 警報及び避難の指示（警報の解除及び避難の指示の解除を含む。）の内容並びに緊急通報の内容の放送
	西日本高速道路株式会社 (四国支社) (徳島高速道路事務所)	1 徳島自動車道の維持管理
	西日本電信電話株式会社 (徳島支店)	1 避難施設における電話その他の通信設備の臨時設置における協力 2 通信の確保及び国民保護措置の実施に必要な通信の優先的取り扱い
	四国電力株式会社 (鴨島営業所)	1 電気の安定的な供給
	NTTコミュニケーションズ株式会社	1 公衆電気通信施設の武力攻撃復旧 2 武力攻撃災害時における非常通話の確保及び通信疎通状況の広報
	株式会社NTTドコモ (四国)	1 携帯電話の通信施設に関する武力攻撃災害復旧 2 非常時におけるメール情報通信の確保と気象情報・安否情報等の伝達
	KDDI 株式会社 (四国総支社)	
ソフトバンク株式会社		
指定 地方 公共 機関	運送事業者	1 避難住民の運送及び緊急物資の運送 2 旅客及び貨物の運送の確保
	ガス事業者 (四国ガス株式会社) (社団法人徳島エルピーガス協会)	1 ガスの安定的な供給 2 武力攻撃災害時の応急措置及び復旧
	放送事業者 (四国放送株式会社) (株式会社エフエム徳島)	1 警報及び避難の指示（警報の解除及び避難の指示の解除を含む。）の内容並びに緊急通報の内容の放送 2 武力攻撃災害時における広報活動
	病院その他医療機関	1 医療の確保

## 第4章 市の地理的、社会的特徴

国民保護措置を適切かつ迅速に実施するため、その地理的、社会的特徴等について確認することとし、以下のとおり、国民保護措置の実施に当たり考慮しておくべき市の地理的、社会的特徴等について定める。

### 第1 地形

本市は吉野川北岸に位置し、北に高く、南に低くなっており、地形を大きくみると、北から南へ山地、台地、低地にわかれ、いずれも東西方向に分布している。

これは四国をほぼ東西方向に通る中央構造線とそれに平行な断層である父尾断層や土柱断層等の影響を受けたものである。

北部の香川県境には讃岐山脈が東西に連なっており、その南斜面からは、宮川内谷川や九頭宇谷川、日開谷川、大久保谷川、伊沢谷川等が南流して吉野川に注いでおり、途中の台地にはそれらの河川による開析扇状地や河岸段丘が形成されている。

また、下流域には複合扇状地や吉野川、日開谷川等の氾濫原、吉野川の川中島である善入寺島よりなっている。

こうした阿波市の地形特性の中で、市内には地理的・地質学的に特殊な複合扇状地、天井川、河岸段丘等の地形が点在しており、土柱は国の天然記念物に指定されている。

本市中南部の市街地は、緩やかな南斜面台地で起伏もなく比較的平坦な地形を呈する。このため、武力攻撃事態発生、特に弾道ミサイル着弾から掩護すべき地形に乏しく、また、特殊武器使用における広範囲への拡散が予測される。

これらから市民を保護するにあたり、情報の早期収集と迅速な市外への避難行動が必要である。また、避難に時間がない場合を想定し、自治会毎に退避場所（地形に掩護された場所）を設定することが必要である。

【阿波市の位置】



## 第2 気 候

本市の気候は、温暖で乾燥な瀬戸内気候区に属し、県下でも温暖で少雨地域に属している。

2011～2015年の5年間の年平均気温は14.9℃、平均年間降水量は1,791mmとなっている。

月別にみると、平均気温では8月が26.1℃と最も高く、1月が3.7℃と最も低くなっている。

また、降水量では9月が437.4mmと最も多く、1月が38.9mmと最も少なくなっており、1年を通じてみると、冬期に少なく、6月の梅雨の頃より10月に至る台風シーズンに多くなっている。

また、2001～2010年の10年間の月ごとの降水量は、8月が最も多く220.4mmであったのに対し、2011～2015年の5年間では9月が437.4mmであり大きく増えている。

1日最大降雨量は2011年9月に393.5mm、1時間最大降雨量は2013年8月に70.0mmを記録している。

武力攻撃事態発生時において、市民への被害を最小限にするため、気象情報等を迅速に収集し、必要な対応を行うことが必要である。

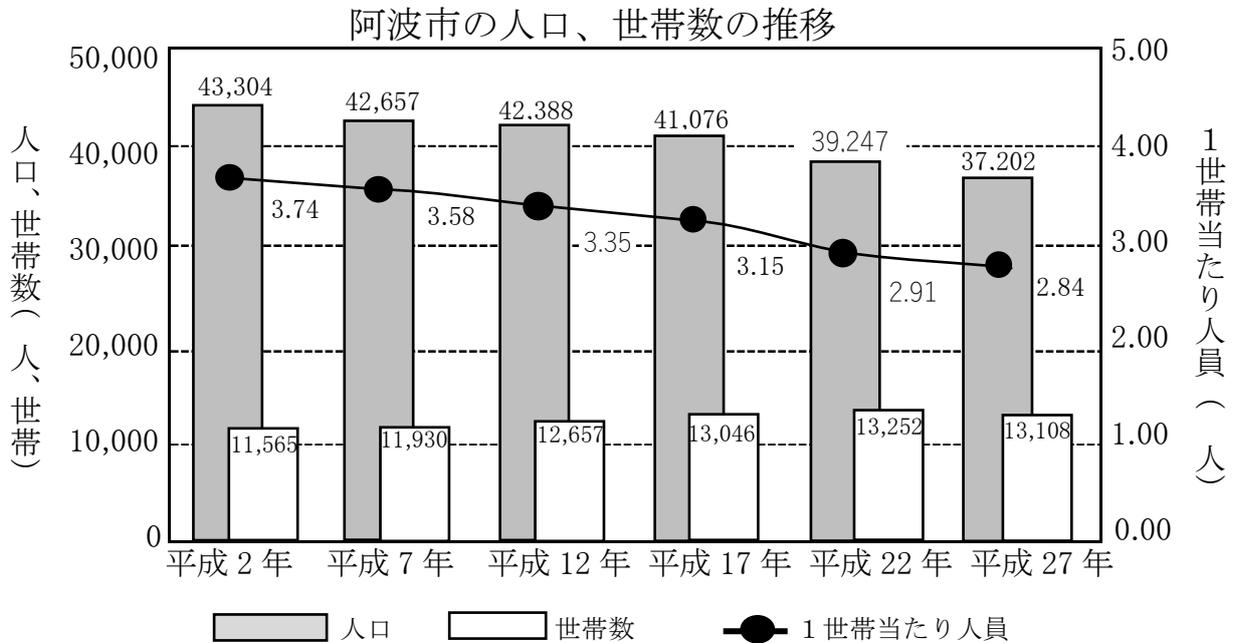
区 分 月	気 温			降水量 (mm)	平均風速 (m/s)	日 照
	平均 気温 (℃)	最高 気温 (℃)	最低 気温 (℃)			日照時間 (時間)
1月	3.7	8.1	-0.1	38.9	1.9	119.9
2月	4.6	9.3	0.6	59.7	1.7	114.4
3月	8.3	14.0	3.3	68.5	1.9	162.8
4月	13.2	19.3	7.8	69.0	1.8	182.2
5月	18.5	24.7	13.1	111.6	1.6	210.5
6月	21.7	26.3	18.1	205.5	1.3	109.8
7月	25.8	31.0	21.9	214.9	1.4	183.4
8月	26.1	31.4	22.4	291.3	1.3	181.8
9月	22.0	27.1	18.4	437.4	1.3	154.4
10月	16.9	22.0	12.8	154.8	1.3	157.3
11月	11.8	16.4	8.0	49.7	1.4	112.1
12月	5.8	10.1	2.4	89.8	1.8	103.1

資料：徳島気象台穴吹測候所観測値(2011～2015年の平均)

### 第3 人口の推移

阿波市の平成27年国勢調査の人口は37,202人で昭和60年以降減少傾向にあり、特に平成17年から22年にかけて少子化等の進行により約1,800人、平成22年から27年にかけてさらに約2,000人減少している。

また、世帯数は13,108世帯で、核家族化の進行により増加傾向にあるが、1世帯あたりの人員は年々減少傾向にあり、昭和60年の3.87人から平成27年は2.84人と減少している。



人口、世帯数の推移 (単位：人、世帯)

区 分		平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
人 口	吉野町	8,803	8,665	8,576	8,257	7,987	7,584
	土成町	8,461	8,284	8,306	8,318	8,105	7,807
	市場町	12,055	11,899	11,781	11,359	10,750	10,102
	阿波町	13,985	13,809	13,725	13,142	12,405	11,709
	阿波市全体	43,304	42,657	42,388	41,076	39,247	37,202
世 帯 数	吉野町	2,506	2,575	2,724	2,815	2,861	2,818
	土成町	2,118	2,196	2,346	2,461	2,540	2,583
	市場町	3,224	3,328	3,555	3,661	3,688	3,655
	阿波町	3,717	3,831	4,032	4,109	4,163	4,052
	阿波市全体	11,565	11,930	12,657	13,046	13,252	13,108

資料：国勢調査(平成27年は確定値)

#### 第4 世帯構成の推移

65歳以上の高齢者のいる世帯割合は58.1%と5割を超え、県平均を上回っている。  
 さらに、65歳以上のみ世帯の割合は30.3%、65歳以上の高齢単身世帯の割合は17.4%に達している。

武力攻撃事態発生時の高齢者の避難誘導や救援等について、検討を行う必要がある。

65歳以上の親族のいる世帯数及び割合

区 分		総世帯	65歳以上の 親族のいる世帯	65歳以上 のみの世帯	65歳以上の 単身世帯
吉野町	世帯数	3,401	1,822	1,524	661
	割合		53.6%	44.8%	19.4%
土成町	世帯数	2,999	1,784	1,317	479
	割合		59.5%	43.9%	16.0%
市場町	世帯数	4,280	2,480	1,355	777
	割合		58.0%	31.7%	18.2%
阿波町	世帯数	4,637	2,826	1,410	791
	割合		60.9%	30.4%	17.1%
阿波市全体	世帯数	15,317	8,912	5,606	2,708
	割合		58.2%	36.6%	17.7%

住民基本台帳(平成28年11月末現在)

#### 第5 要介護認定者数

平成28年11月末現在の第1号被保険者数は、12,866人で、そのうち要介護者認定者は2,557人、認定率は19.8%となっている。

また、介護サービス受給者数は2,221人で、受給率は86.8%となっている。

武力攻撃事態発生時の高齢者の避難誘導や救援等と併せて、検討を行う必要がある。

介護認定者数及び介護サービス受給者数

65歳以上人口 (1号保険者)	要介護認定状況		介護サービス受給状況	
	要介護認定者数	認定率	介護サービス 受給者数	受給率
12,866	2,557	19.8%	2,221	86.8%

※平成28年11月末現在

地区別・介護認定者数

区 分	吉野町	土成町	市場町	阿波町	計
要支援 1	28	37	27	69	161
要支援 2	79	61	185	111	336
要介護 1	106	91	96	129	422
要介護 2	146	138	133	169	586
要介護 3	90	73	97	125	385
要介護 4	79	64	92	122	357
要介護 5	59	49	76	110	294
合 計	587	513	606	835	2,541

※平成 29 年 6 月末現在

**第 6 道路の位置等**

道路は、東西に徳島自動車道が走り、それに並走して、県道鳴門池田線及び市道（通称：大規模農道）で、美馬市や上板町に繋がっており、また市の南部から北方面に延びる国道 3 1 8 号で吉野川市と香川県に繋がっている。

武力攻撃事態発生時においては、避難や緊急物資の輸送や救援にとって、道路が重要な役割を果たすことから、市内の道路の現況等について十分把握する必要がある。

## 第5章 市国民保護計画が対象とする事態

市国民保護計画においては、以下のとおり県国民保護計画において想定されている武力攻撃事態及び緊急処理事態を対象とする。

### 第1 武力攻撃事態

市国民保護計画においては、武力攻撃事態として、以下に掲げる4類型を対象として想定する。

- 1 着上陸侵攻
- 2 ゲリラや特殊部隊による攻撃
- 3 弾道ミサイル攻撃
- 4 航空攻撃

これらの4類型の特徴及び国民保護措置の実施にあたって留意すべき事項を整理すると、次のとおりとなる。

#### 【武力攻撃事態の類型】

区分	特 徴	留 意 点
着上陸侵攻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国民保護措置を実施すべき地域が広範囲で、比較的長期に及ぶ。</li> <li>・ 武力攻撃予測事態において住民避難を行うことが想定される。</li> <li>・ 船舶による上陸の場合は沿岸部が、航空機による場合は空港が侵攻目標となりやすい。</li> <li>・ 爆弾、砲弾等による家屋、施設等の破壊、火災等が考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前準備が可能で、戦闘が予想される地域から先行して避難させる。</li> <li>・ 広域避難が必要。</li> <li>・ 武力攻撃終結後の復旧が課題。</li> </ul>
ゲリラや特殊部隊による攻撃	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前のその活動を予測あるいは察知できず、突発的に被害が生じることが考えられる。</li> <li>・ 被害の範囲は比較的狭い範囲に限定されるが、攻撃目標より二次被害の発生が想定される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 攻撃当初は屋内に一時避難させ、安全の措置を講じつつ移動させる等、事態の状況に応じた措置が必要。</li> </ul>
弾道ミサイル攻撃	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 攻撃目標を特定することは極めて困難。</li> <li>・ 弾頭の種類を着弾前に特定することは困難であり、種類に応じて被害の様相及び対応が大きく異なる。</li> <li>・ 通常爆弾の場合、家屋、施設等の破壊、火災等被害は比較的局限される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発射後短時間で着弾するため、迅速な情報伝達と適切な対応により被害を局限化することが重要。</li> </ul>

区分	特 徴	留 意 点
航空攻撃	<ul style="list-style-type: none"> <li>・兆候を察知することは比較的容易であるが、攻撃目標を特定することは困難</li> <li>・都市部、ライフラインのインフラ施設が主要な目標となり得る。</li> <li>・攻撃の意図が達成されるまで繰り返し行われることも考えられる。</li> <li>・通常爆弾の場合、家屋、施設等の破壊、火災等が考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難措置を広範囲に指示する必要がある。</li> <li>・生活関連等施設の安全確保、武力攻撃災害発生・拡大の防止措置が必要。</li> </ul>

## 第2 緊急対処事態

市国民保護計画においては、緊急対処事態として、次に掲げる事態例を対象として想定されている。

### 【緊急対処事態の分類】

区分	◆危険性を内在する物質を有する施設等に対する攻撃が行われる事態	
	事 態 例	被害の概要
攻撃対象施設等による分類	他県の原子力事務所等の破壊	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大量の放射性物質等の放出により住民が被ばくする。</li> <li>・汚染された飲食物の摂取により住民が被ばくする。</li> </ul>
	可燃性ガス貯蔵施設等の爆破	<ul style="list-style-type: none"> <li>・爆発及び火災の発生により住民に被害が発生するとともに、建物、ライフライン等が被災し、社会経済活動に支障が生じる。</li> </ul>
	ダム等の破壊	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダムが破壊された場合には、下流に及ぼす被害は多大なものとなる。</li> </ul>
	◆多数の人が集合する施設、大量輸送機関等に対する攻撃が行われる事態	
	事 態 例	被害の概要
大規模集客施設等の爆破	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模集客施設等で爆破が行われた場合、爆破による人的被害が発生し、施設が崩壊した場合には被害はさらに多大なものとなる。</li> </ul>	

区分	◆多数の人を殺傷する特性を有する物質等による攻撃が行われる事態	
	事態例	被害の概要
攻撃手段による分類	ダーティーボム(爆発と放射性物質を組み合わせたもの)等の爆発による放射能の拡散	<ul style="list-style-type: none"> <li>・爆発による被害は、爆弾の破片及び飛び散った物体による被害並びに熱及び炎による被害等。</li> <li>・放射線によって正常な細胞機能が攪乱されると、後年、ガンを発症することもある。</li> <li>・小型核弾頭については、核兵器の特徴と同様である。</li> </ul>
	炭疽菌等生物剤の航空機等による大量散布	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物剤については、生物兵器の特徴と同様である。</li> </ul>
	水源地に対する毒素等の混入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毒素については、化学兵器の特徴と類似している。</li> </ul>
	市街地におけるサリン等化学剤の大量散布	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学剤については、化学兵器の特徴と同様である。</li> </ul>
	◆破壊の手段として交通機関を用いた攻撃等が行われる事態	
	事態例	被害の概要
	航空機等による多数の死者を伴う自爆テロ、弾道ミサイル等の飛来	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主な被害は施設の破壊等に伴う人的被害であり、施設の被害によって大きさが変わる。</li> <li>・攻撃目標の施設が破壊された場合、周辺への被害も予想される。</li> <li>・爆発、火災等の発生により住民に被害が発生するとともに、建物、ライフライン等が被災し、社会経済活動に支障が生じる。</li> </ul>

### 第3 NBC攻撃の場合

武力攻撃事態及び緊急対処事態において、特殊な対応が必要となるNBC攻撃の特徴等については、次のとおりである。

#### 【NBC攻撃の場合の対応】

区分	特徴	対応
核兵器等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱線、爆風及び初期核放射線が発生し、物質の燃焼、建造物の破壊、放射能汚染の被害を短時間にもたらし、残留放射線により被害範囲が拡大。</li> <li>※残留放射線・・・爆発時に生じた放射能をもった灰(放射性投下物)と初期核放射線を吸収した建築物や土壌から発する放射線に区分される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱線による熱傷や放射線障害等、核兵器特有の傷病に対する医療が必要となる。</li> </ul>

区分	特 徴	対 応
核兵器等	<ul style="list-style-type: none"> <li>放射線投下物が皮膚に付着することによる外部被ばくにより、あるいはこれを吸飲することや放射性投下物によって汚染された飲料水や食物を摂取することにより、放射線障害が発生する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難に当たっては風下を避け、手袋、帽子、雨ガッパ等によって放射性投下物による外部被ばくを抑制するほか、口及び鼻を汚染されていないタオル等で保護する。</li> <li>汚染された疑いのある水や食物の摂取を避ける。</li> <li>安定ヨウ素剤の服用等により内部被ばく低減に努める。</li> <li>汚染地域への立入制限を確実に行う。</li> <li>核兵器と同様の対応が必要となる。</li> <li>核攻撃等においては、避難住民等(輸送に使用する車両及びその乗務員を含む。)のスクリーニング及び除染その他放射性物質による汚染の拡大を防止するための必要な措置を講じる必要がある。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダーティーボムは核兵器に比して小規模であるが、爆薬による爆発の被害と放射能による被害をもたらす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>核兵器と同様の対応が必要となる。</li> </ul>
生物兵器	<ul style="list-style-type: none"> <li>人に知られることなく散布することが可能であり、また発症するまでの潜伏期間に感染者が移動することにより、生物剤が散布されたと判明した時には、既に被害が拡大している可能性がある。</li> <li>使用される生物剤の特性等により被害の範囲が異なるが、人を媒体とする生物剤の場合、二次感染により被害が拡大することが考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>厚生労働省を中心とした一元的情報収集、データ解析等サーベイランス(疾病監視)により、感染源及び汚染地域を特定し、感染源となった病原体の特性に応じた、医療活動、まん延防止を行うことが重要である。</li> </ul>

区分	特 徴	対 応
化学兵器	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般に化学剤は、地形、気象の影響を受けて、風下方向に拡散し、空気より重いサリン等の神経剤は下を這うように広がる。</li> <li>・特有のにおいがあるもの、無臭のもの等、その性質は化学剤の種類によって異なる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国、地方公共団体等関係機関の連携の下、原因物質の検知及び汚染地域の特定または予測をして、住民を安全な風上の高台に誘導する等、避難措置を適切に行う。</li> <li>・汚染者については可能な限り除染し、原因物質の特性に応じた救急医療を行う。</li> <li>・化学剤はそのままでは分解・消滅しないため、汚染された地域から原因物質を取り除く。</li> </ul>

## 第2編 平素からの備えや予防

### 第1章 組織・体制の整備等

#### 第1 市における組織・体制の整備

国民保護措置を的確かつ迅速に実施するため、国民保護措置の実施に必要な組織及び体制、職員の配置及びサービス基準等の整備を図る必要があることから、以下のとおり、危機管理課を担当課とし、各部局の平素の業務、職員の参集基準等について定める。

#### 1 市の各部課等における平素の業務

市の各部課等は、国民保護措置を的確かつ迅速に実施するため、その準備に係る業務を行う。

#### ※【市の各部課等における平素の業務】

部局名		平素の業務
企画 総務 部	危機管理課	○国民保護協議の運営に関する事
		○避難実施要領の策定に関する事
		○住民の避難誘導に関する事
		○国民保護措置についての訓練に関する事
		○住民に対する警報の内容の伝達及び緊急通報の内容の伝達に関する事
		○国、県等との連絡調整に関する事
		○特殊標章等の交付に関する事
	秘書人事課	○国民保護の広報活動及び報道機関との連絡に関する事
	企画総務課	○安否情報の収集体制の整備に関する事
	契約管財課	○物資及び資材の備蓄等に関する事
健康 福祉 部	健康推進課	○救護所の設置体制の整備に関する事
		○医療、医薬品等の供給体制の整備に関する事
	子育て支援課	○保育施設の復旧体制の整備に関する事
	社会福祉課	○要配慮者の把握及び安全確保並びに支援体制の整備に関する事
○福祉避難所の開設要請準備に関する事		

部局名		平素の業務
市民部	市民課	○住民基本台帳の整備に関すること
		○市内在住の外国人に関すること
	支所地域課	○指定避難所の運営体制の整備に関すること (鍵の常備を含む。)
	国保医療課	○武力攻撃災害ボランティアの受入れ体制の整備に関すること
環境衛生課	○廃棄物処理に関すること	
	○環境保全対策に関すること	
産業経済部	各 課	○被災者等への食料の確保体制整備に関すること
		○農林水産業施設の復旧体制整備に関すること
建設部	各 課	○ライフライン復旧体制整備に関すること
		○住宅の応急修理に関すること
		○武力攻撃災害ボランティア(住宅関係)受入体制整備に関する こと
水道課		○飲料水の供給体制の整備に関すること
教育委員会各課 給食センター		○児童・生徒の保護及び教育に関すること
		○教育施設の復旧体制の整備に関すること
		○武力攻撃災害時のおにぎりの調理体制整備に関すること
消防本部		○武力攻撃災害への対処に関すること(救急・救助を含む。)
		○住民の避難誘導に関すること
		○国民保護措置についての訓練に関すること
消防団		○要配慮者の把握

※国民保護に関する業務の総括、各部課等間の調整、企画立案等については、危機管理課国民保護担当責任者が行う。

## 2 市職員の参集基準等

### (1) 職員の迅速な参集体制の整備

武力攻撃災害が発生し、またはまさに発生しようとしている場合の初動対応に万全を期するため、武力攻撃事態等の対処に必要な職員が迅速に参集できる体制を整備する。

### (2) 24時間即応体制の確立

武力攻撃等が発生した場合において、事態の推移に応じて速やかに対応する必要があるため、常備消防機関との連携を図りつつ当直等の強化を行うなど、

速やかに市長及び国民保護担当職員に連絡が取れるよう24時間即応可能な体制を確保する。

(3) 市の体制及び職員の参集基準等

事態の状況に応じて適切な措置を講ずるため、下記の体制を整備するとともに、その参集基準を定める。

その際、市長の行う判断を常時補佐できる体制の整備に努める。

【職員参集基準】

体制	参集基準
①担当課体制	危機管理課職員が参集
②緊急事態連絡室体制	原則として、市国民保護対策本部体制に準じて職員の参集を行うが、具体的な参集基準は、個別の事態の状況に応じ、その都度判断
③市国民保護対策本部体制	全ての市職員が本庁又は出先機関等に参集

【事態の状況に応じた初動体制の確立】

事態の状況	体制の判断基準	体制
事態認定前	市の全部課等での対応は不要だが、情報収集等の対応が必要な場合	①
	市の全部課等での対応が必要な場合（現場からの情報により多数の人を殺傷する行為等の事案の発生を把握した場合）	②
事態認定後	市国民保護対策本部の通知がない場合 市の全部課等での対応は不要だが、設置、情報収集等の対応が必要な場合	①
	市の全部課等での対応が必要な場合（現場からの情報により多数の人を殺傷する行為等の事案の発生を把握した場合）	②
	市国民保護対策本部設置の通知を受けた場合	③

(4) 幹部職員等への連絡手段の確保

幹部職員及び国民保護担当職員への連絡は、勤務時間内外を問わず、災害時情報共有システム(すだちくんメール)により各職員の携帯電話に送信する。

このため各職員は常時、携帯電話を携行し、電話・メール等による連絡手段を確保する。

(5) 幹部職員等の参集が困難な場合の対応

幹部職員及び国民保護担当職員が、交通の途絶、職員の被災などにより参集が困難な場合等も想定し、あらかじめ、参集予定職員の次席の職員を代替職員として指定しておくなど、事態の状況に応じた職員の参集手段を確保する。

なお、市対策本部長、市対策副本部長及び市対策本部員の代替職員について

は、以下のとおりとする。

【市対策本部長、市対策副本部長及び市対策本部員の代替職員】

名 称	代替職員（第1順位）	代替職員（第2順位）	代替職員（第3順位）
市長	副市長	政策監	企画総務部長
副市長	政策監	企画総務部長	企画総務部次長
教育長	教育次長	教育総務課長	社会教育課長

(6) 職員の服務基準

(3)①～③の体制ごとに、参集した職員の行うべき所掌事務を定める。

(7) 交代要員等の確保

防災に関する体制を活用しつつ、市国民保護対策本部（以下「市対策本部」という。）を設置した場合においてその機能が確保されるよう、以下の項目について定める。

- ① 交代要員の確保その他職員の配置
- ② 食料、燃料等の備蓄
- ③ 自家発電設備の確保
- ④ 仮眠設備等の確保等

3 消防機関の体制

(1) 消防本部及び消防署における体制

消防本部及び消防署は、市における参集基準等と同様に、消防本部、消防署における初動体制を整備するとともに、職員の参集基準を定める。

その際、市は、消防本部及び消防署における24時間体制の状況を踏まえ、特に初動時における消防本部及び消防署との緊密な連携を図り、一体的な国民保護措置が実施できる体制を整備する。

(2) 消防団の充実・活性化の推進等

消防団が避難住民の誘導等に重要な役割を担うことにかんがみ、県と連携し、地域住民の消防団への参加促進、消防団に係る広報活動、全国の先進事例の情報提供、施設及び設備の整備の支援等の取組みを積極的に行い、消防団の充実・活性化を図る。

また、県と連携し、消防団に対する国民保護措置についての研修を実施するとともに、国民保護措置についての訓練に消防団を参加させるよう配慮する。

さらに、消防本部及び消防署における参集基準等を参考に、消防団員の参集基準を定める。

#### 4 国民の権利利益の救済に係る手続等

##### (1) 国民の権利利益の迅速な救済

武力攻撃事態等の認定があった場合には、国民保護措置の実施に伴う損失補償、国民保護措置に係る不服申立て又は訴訟その他の国民の権利利益の救済に係る手続を迅速に処理するため、国民からの問い合わせに対応するための総合的な窓口を開設し、手続項目ごとに、以下のとおり担当課を定める。

また、必要に応じ外部の専門家等の協力を得ることなどにより、国民の権利利益の救済のため迅速に対応する。

##### 【国民の権利利益の救済に係る手続項目一覧】

区 分	内 容	担当課
損失補償 (法第 159 条第 1 項)	特定物資の収容に関する事 (法第 81 条第 2 項)	契約管財課
	特定物資の保管命令に関する事 (法第 81 条第 3 項)	
	土地等の使用に関する事 (法第 82 条)	税務課
	応急公用負担に関する事 (法第 113 条第 1 項・5 項)	建設課
損害補償 (法第 160 条)	国民への協力要請によるもの防災対策 (法第 70 条第 1・3 項、80 条第 1 項、115 条 第 1 項、123 条第 1 項)	危機管理課
不服申立てに関する事 (法第 6 条、175 条)		企画総務課
訴訟に関する事 (法第 6 条、175 条)		

##### (2) 国民の権利利益に関する文書の保存

国民の権利利益の救済の手続に関連する文書（公用令書の写し、協力の要請日時、場所、協力者、要請者、内容等を記した書類等）を、市文書管理規程等の定めるところにより、適切に保存する。

また、国民の権利利益の救済を確実にを行うため、武力攻撃災害による当該文書の逸失等を防ぐために、安全な場所に確実に保管する等の配慮を行う。

これらの手続に関連する文書について、武力攻撃事態等が継続している場合及び国民保護措置に関して不服申立て又は訴訟が提起されている場合には保存期間を延長する。

## 第2 関係機関との連携体制の整備

国民保護措置を実施するに当たり、国、県、他の市町村、指定公共機関、指定地方公共機関その他の関係機関と相互に連携協力することが必要不可欠であるため、以下のとおり、関係機関との連携体制整備のあり方について定める。

### 1 基本的考え方

#### (1) 防災のための連携体制の活用

武力攻撃事態等への効果的かつ迅速な対応ができるよう、防災のための連携体制も活用し、関係機関との連携体制を整備する。

#### (2) 関係機関の計画との整合性の確保

国、県、他の市町村、指定公共機関及び指定地方公共機関その他の関係機関の連絡先を把握するとともに、関係機関が作成する国民保護計画及び国民保護業務計画との整合性の確保を図る。

#### (3) 関係機関相互の意思疎通

個別の課題に関して関係機関による意見交換の場を設けること等により、関係機関の意思疎通を図り、人的なネットワークを構築する。

この場合において、市国民保護協議会の部会を活用すること等により、関係機関の積極的な参加が得られるように留意する。

### 2 県との連携

#### (1) 県の連絡先の把握等

緊急時に連絡すべき県の連絡先及び担当部署（担当部局名、所在地、電話（FAX）番号、メールアドレス等）について把握するとともに、定期的に更新を行い、国民保護措置の実施の要請等が円滑に実施できるよう、県と必要な連携を図る。

#### (2) 県との情報共有

警報の内容、経路や運送手段等の避難、救援の方法等に関し、県との間で緊密な情報の共有を図る

#### (3) 市国民保護計画の県への協議

県との市国民保護計画の協議を通じて、県の行う国民保護措置と市の行う国民保護措置との整合性の確保を図る。

#### (4) 県警察との連携

市長は、自らが管理する道路について、武力攻撃事態において、道路の通行禁止措置等に関する情報を道路利用者に積極的に提供できるよう、県警察と必要な連携を図る。

### 3 隣接市町との連携

#### (1) 隣接市町との連携

隣接市町の連絡先、担当部署等に関する最新の情報を常に把握するとともに、隣接市町 相互の国民保護計画の内容について協議する機会を設けることや、防災に関し締結されている市町 間の相互応援協定等について必要な見直しを行うこと等により、武力攻撃災害の防御、避難の実施体制、物資及び資材の供給体制等における近接市町 相互間の連携を図る。

#### (2) 消防機関の連携体制の整備

消防機関の活動が円滑に行われるよう、隣接市町の消防機関との応援体制の整備を図るとともに、必要により既存の消防応援協定等の見直しを行うこと等により、消防機関相互の連携を図る。

また、消防機関のNBC対応可能部隊数やNBC対応資機材の保有状況を相互に把握し、相互応援体制の整備を図る。

### 4 指定公共機関等との連携

#### (1) 指定公共機関等の連絡先の把握

区域内の指定公共機関等との緊密な連携を図るとともに、指定公共機関等の連絡先、担当部署等について最新の情報を常に把握しておく。

#### (2) 医療機関との連携

事態発生時に医療機関の活動が速やかに行われるよう消防機関とともに、災害拠点病院、救命救急センター、医師会等との連絡体制を確認するとともに平素からの意見交換や訓練を通じて、緊急時の医療ネットワークと広域的な連携を図る。

また、特殊な災害への対応が迅速に行えるよう（財）日本中毒情報センター等の専門的な知見を有する機関との連携に努める。

#### (3) 関係機関との協定の締結等

関係機関から物資及び資材の供給並びに避難住民の運送等について必要な協力が得られるよう、防災のために締結されている協定の見直しを行うなど、防災に準じた必要な連携体制の整備を図る。

また、区域内の事業所における防災対策への取組みに支援を行うとともに、民間企業の有する広範な人的・物的ネットワークとの連携の確保を図る。

## 5 ボランティア団体等に対する支援

### (1) 自主防災組織等に対する支援

自主防災組織及び自治会のリーダー等に対する研修等を通じて国民保護措置の周知及び自主防災組織等の活性化を推進し、その充実を図るとともに、自主防災組織等相互間、消防団及び市等との間の連携が図られるよう配慮する。

また、国民保護措置についての訓練の実施を促進し、自主防災組織等が行う消火、救助、救援等のための施設及び設備の充実を図る。

### (2) 自主防災組織以外のボランティア団体等に対する支援

防災のための連携体制を踏まえ、日本赤十字社、社会福祉協議会その他のボランティア関係団体等との連携を図り、武力攻撃事態等においてボランティア活動が円滑に行われるよう、その活動環境の整備を図る。

## 第3 通信の確保

武力攻撃事態等において国民保護措置を的確かつ迅速に実施するためには、非常通信体制の整備等による通信の確保が重要であることから、以下のとおり、非常通信体制の整備等について定める。

### 1 非常通信体制の整備

国民保護措置の実施に関し、非常通信体制の整備、重要通信の確保に関する対策の推進を図るものとし、自然災害その他の非常時における通信の円滑な運用を図ること等を目的として、関係省庁、地方公共団体、主要な電気通信事業者等で構成された非常通信協議会との連携に十分配慮する。

### 2 非常通信体制の確保

武力攻撃災害発生時においても情報の収集、提供を確実に行うため、情報伝達ルートが多ルート化や停電等に備えて非常用電源の確保を図るなど、自然災害時における体制を活用し、情報収集、連絡体制の整備に努める。

### 3 情報通信機器等の活用

#### (1) 災害時情報共有システム（すだちくんメール）

県、市町村、指定地方公共機関等との情報の共有を図るため、全国屈指のICT環境を活用し、県において開発している災害情報共有基盤「災害時情報共有システム」を活用し、職員の緊急参集等、情報の速達に努める。

#### (2) 全国瞬時警報システム（J-ALERT）

消防庁が整備した全国瞬時警報システムを活用し、情報の早期取得に努める。

#### (3) 緊急情報ネットワークシステム（Em-Net）

内閣官房が整備した緊急情報の双方向通信システムである緊急情報ネットワークシステムを活用し、国からの国民保護関連情報の早期取得に努める。

## 第4 情報収集・提供等の体制整備

武力攻撃事態等において、国民保護措置に関する情報提供、警報の内容の通知及び伝達、被災情報の収集・報告、安否情報の収集・整理等を行うため、情報収集・提供等の体制整備のために必要な事項について、以下のとおり定める。

### 1 基本的考え方

#### (1) 情報収集・提供のための体制の整備

武力攻撃等の状況、国民保護措置の実施状況、被災情報その他の情報等を収集又は整理し、関係機関及び住民に対しこれらの情報の提供等を適時かつ適切に実施するための体制を整備する。

#### (2) 体制の整備に当たっての留意事項

体制の整備に際しては、防災における体制を踏まえ、効率的な情報の収集、整理及び提供や、武力攻撃災害により障害が発生した場合の通信の確保に留意する。

また、住民の安心・安全に関わる情報を迅速かつ効率的に伝達するため、屋外拡声器、音声告知器及びテレビ、ラジオ、携帯電話、インターネット等、あらゆる手段を講じて通信の確保に努めるとともに、非常通信体制の確保に当たっては、自然災害時において確保している通信手段を活用するとともに、以下の事項に十分留意し、その運営・管理、整備等を行う。

施設・設備面	・非常通信設備等の情報通信手段の施設について、非常通信の取扱いや機器の操作の習熟を含めた管理・運用体制の構築を図る。
	・武力攻撃災害による被害を受けた場合に備え、複数の情報伝達手段の整備（有線・無線系、地上系・衛星系等による伝送路の多ルート化等）、関連機器装置の二重化等の障害発生時における情報収集体制の整備を図る。
	・無線通信ネットワークの整備・拡充の推進及び相互接続等によるネットワーク間の連携を図る。
	・武力攻撃災害時において確実な利用ができるよう、国民保護措置の実施に必要な非常通信設備を定期的に総点検する。
運用面	・夜間・休日の場合等における体制を確保するとともに、平素から情報の収集・連絡体制の整備を図る。
	・武力攻撃災害による被害を受けた場合に備え、通信輻輳時及び途絶時並びに庁舎への電源供給が絶たれた場合を想定した、非常用電源を利用した関係機関との実践的通信訓練の実施を図る。
	・通信訓練を行うに当たっては、地理的条件や交通事情等を想定し、実施時間や電源の確保等の条件を設定した上で、地域住民への情報の伝達、避難先施設との間の通信の確保等に関する訓練を行うものとし、訓練終了後に評価を行い、必要に応じ体制等の改善を行う。

運用面	<ul style="list-style-type: none"> <li>無線通信系の通信輻輳時の混信等の対策に十分留意し、武力攻撃事態等非常時における運用計画を定めるとともに、関係機関との間で携帯電話等の電気通信事業用移動通信及び防災行政無線、消防救急無線等の業務用移動通信を活用した運用方法等についての十分な調整を図る。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気通信事業者により提供されている災害時優先電話等の効果的な活用を図る。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当職員の役割・責任の明確化等を図るとともに、担当職員が被害を受けた場合に備え、円滑に他の職員が代行できるような体制の構築を図る。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民に情報を提供するに当たっては、屋外拡声器、音声告知器及び広報車両等を活用するとともに、高齢者、障がい者、外国人その他の情報の伝達に際し配慮を要する者及びその他通常的手段では情報の入手が困難と考えられる者に対しても情報を伝達できるよう必要な検討を行い、体制の整備を図る。</li> </ul>

(3) 情報の共有

国民保護措置の実施のため必要な情報の収集、蓄積及び更新に努めるとともに、これらの情報が関係機関により円滑に利用されるよう、情報セキュリティー等に留意しながらデータベース化等に努める。

2 警報等の伝達に必要な準備

(1) 警報の伝達体制の整備

知事から警報の内容の通知があった場合の住民及び関係団体への伝達方法等についてあらかじめ定めておくとともに、住民及び関係団体に伝達方法等の理解が行き渡るよう事前に説明や周知を図る。この場合において、民生・児童委員や社会福祉協議会、国際交流協会等との協力体制を構築するなど、高齢者、障がい者、外国人等に対する伝達に配慮する。(その際、民生・児童委員や社会福祉協議会との十分な協議の上、その役割を考える必要がある。)

(2) 県警察との連携

武力攻撃事態等において、市民に対する警報の内容の伝達が的確かつ迅速に行われるよう、県警察との協力体制を構築する。

(3) 国民保護に係るサイレンの市民への周知

国民保護に係るサイレン音(「国民保護に係る警報のサイレンについて」平成17年7月6日付消防運第17号国民保護運用室長通知)については、訓練等の様々な機会を活用して住民に十分な周知を図る。

(4) 大規模集客施設等に対する警報の伝達のための準備

県から警報の内容の通知を受けたときに市長が迅速に警報の内容の伝達を行うこととなる区域内に所在する学校、病院、大規模集客施設、大規模集合住宅、官公庁、事業所その他の多数の者が利用又は居住する施設について、県との役割分担も考慮して定める。

(5) 民間事業者からの協力の確保

県と連携して、特に昼間人口の多い地域における「共助」の活動の実施が期待される民間事業者が、警報の内容の伝達や住民の避難誘導等を主体的に実施できるよう、各種の取組みを推進する。

その際、先進的な事業者の取組みをPRすること等により、協力が得られやすくなるような環境の整備に努める。

3 安否情報の収集、整理及び提供に必要な準備

(1) 安否情報の種類及び報告様式

避難住民及び武力攻撃災害により死亡し又は負傷した住民の安否情報（以下参照）に関して、原則として、武力攻撃事態等における安否情報の収集及び報告の方法並びに安否情報の照会及び回答の手続その他の必要な事項を定める省令（以下「安否情報省令」という。）第1条に規定する様式第1号及び第2号の安否情報収集様式により収集し、安否情報システムを用いて、県に報告する。

なお、安否情報の収集、整理及び提供に際し、消防庁が運用する武力攻撃事態における安否情報の収集・提供システムを利用し、効率的かつ安定的な安否情報の収集及び提供に努めるものとする。

【収集・報告すべき情報】

1 避難住民（負傷した住民も同様）

① 氏名

② 出生の年月日

③ 男女の別

④ 住所

⑤ 国籍（日本国籍を有しない者に限る。）

⑥ ①～⑤のほか、個人を識別するための情報（前各号のいずれかに掲げる情報が不明である場合において、当該情報に代えて個人を識別することができるものに限る。）

⑦ 居所

⑧ 負傷又は疾病の状況

⑨ ⑦及び⑧のほか、連絡先その他安否の確認に必要と認められる情報

2 死亡した住民

（上記①～⑥に加えて）

⑩ 死亡の日時、場所及び状況

⑪ 死体の所在

(2) 安否情報収集のための体制整備

収集した安否情報を円滑に整理、報告及び提供することができるよう、あらかじめ、市における安否情報の整理担当者及び安否情報の回答責任者等を定めるとともに、職員に対し、必要な研修・訓練を行う。また、県の安否情報収集体制（担当の配置や収集方法・収集先等）の確認を行う。

なお、安否情報は個人の情報であることに鑑み、その取扱いについては十分留意すべきであり、平素より職員に周知・徹底する。

(3) 安否情報の収集に協力を求める関係機関の把握

安否情報の収集を円滑に行うため、医療機関、諸学校、大規模事業所等安否情報を保有し、収集に協力を求める可能性のある関係機関について、既存の統計資料等に基づいてあらかじめ把握する。

4 被災情報の収集・報告に必要な準備

(1) 情報収集・連絡体制の整備

被災情報の収集、整理及び知事への報告等を適時かつ適切に実施するため、あらかじめ情報収集・連絡に当たる担当者を定めるとともに、必要な体制の整備を図る。

【被災情報の報告様式】

年 月 日に発生した〇〇〇による被害（第報）

年 月 日 時 分  
阿波市

1 武力攻撃災害が発生した日時、場所（又は地域）

(1) 発生日時平成年月日

(2) 発生場所〇〇市△△町A丁目B番C号（北緯度、東経度）

2 発生した武力攻撃災害の状況の概要

3 人的・物的被害状況

市町村名	人的被害				住家被害		その他
	死者	行方不明者	負傷者		全壊	半壊	
			重傷	軽傷			
	(人)	(人)	(人)	(人)	(棟)	(棟)	

※可能な場合、死者について、死亡地の市町村名、死亡の年月日、性別、年齢及び死亡時の概況を一人ずつ記入してください。

市町村名	年月日	性別	年齢	概況

## (2) 担当者の育成

あらかじめ定められた情報収集・連絡に当たる担当者に対し、情報収集・連絡に対する正確性の確保等の必要な知識や理解が得られるよう研修や訓練を通じ担当者の育成に努める。

## 第5 災害医療体制の承知等

武力攻撃災害の発生時には、多数の負傷者等の発生が予想され、特に、NBCによる攻撃を受けた際は、特殊な受入体制及び治療等も要求される。

このため、県、医療機関、消防機関等の関係機関が密接に連携し、的確な医療活動が行えるよう、災害医療体制の整備に努めるとともに県の行う災害医療体制を承知しておくことが必要である。

### 1 初期医療体制の整備

地域防災計画に準じて阿波市医師会と連携し、救護所の設置及び救護班を派遣する体制整備に努める。

また、救護所で対応できない重傷者等については、消防機関との連携を図り、県の医療機関に速やかに搬送できる体制を整備する。

### 2 県の行う災害医療体制の承知

#### (1) 後方医療体制の整備

救護所や救護班で対応できない重傷者及び中等症者を収容・治療するため市地域防災計画に規定する拠点病院への重篤患者の受入など、後方支援体制を整備する。

#### (2) 広域医療体制の整備

武力攻撃災害の広域性を考慮し、救護班の派遣、患者の受入、医薬品等の供給、連絡体制等、県内の医療救護体制を整備する。

また、国、他の都道府県、関西広域連合等と協力のうえ、広域的な医療救護体制を整備する。

#### (3) 傷病者搬送体制の整備

医療機関及び消防機関と連携し、救急車、ドクターカー、ドクターヘリ、消防防災ヘリ等を活用した傷病者の搬送体制を整備する。

#### (4) NBC攻撃に備えた体制整備

NBC攻撃に際しては、汚染・被爆の程度に応じた医療の実施や、感染症指定医療機関等への移送等の留意事項が発生することから、こうした事態に備えた体制整備に努める。

(5) 戦略的災害医療体制の整備・強化

上記の急性期における災害医療の取組みに加えPTSD(心的外傷ストレス障害)や長期避難生活などに起因する慢性期への対応も見据え、平時と災害時、災害時と平時とをシームレスに移行できる災害医療提供体制を医療関係者や防災関係者はもとより、地域の幅広い関係者との連携により構築する。

## 第6 研修及び訓練

市職員は、住民の生命、身体及び財産を保護する責務を有していることから、研修を通じて国民保護措置の実施に必要な知識の習得に努めるとともに、実践的な訓練を通じて武力攻撃事態等における対処能力の向上に努める必要がある。

このため、市における研修及び訓練のあり方について必要な事項を、以下のとおり定める。

### 1 研修

(1) 研修機関における研修の活用

国民保護の知見を有する職員を育成するため、消防大学校、県自治研修センター、県消防学校等の研修機関の研修課程を有効に活用し、職員の研修機会を確保する。

(2) 職員等の研修機会の確保

職員に対して、国、県等が作成する国民保護に関する教材や資料等も活用し、多様な方法により研修を行う。

また、県と連携し、消防団員及び自主防災組織のリーダー等に対して国民保護措置に関する研修等を行うとともに、国が作成するビデオ教材や国民保護ポータルサイト、eラーニング等も活用するなど多様な方法により研修を行う。

※【国民保護ポータルサイト】

<http://www.kokuminhogo.go.jp/>

※【総務省消防庁ホームページ】

<http://www.fdma.go.jp/>

(3) 外部有識者等による研修

職員等の研修の実施に当たっては、消防機関を活用するほか、県、自衛隊及び警察の職員、学識経験者等を講師に招くなど外部の人材についても積極的に活用する。

## 2 訓練

### (1) 市における訓練の実施

近隣市町村、県、国等関係機関と共同するなどして、国民保護措置についての訓練を実施し、武力攻撃事態等における対処能力の向上を図る。

訓練の実施に当たっては、具体的な事態を想定し、防災訓練におけるシナリオ作成等、既存のノウハウを活用するとともに、県警察、自衛隊等との連携による、NBC攻撃等により発生する武力攻撃災害への対応訓練、広域にわたる避難訓練、地下への避難訓練等武力攻撃事態等に特有な訓練等について人口密集地を含む様々な場所や想定で行うとともに、実際に資機材や様々な情報伝達手段を用いるなど実践的なものとするよう努める。

### (2) 訓練の形態及び項目

訓練を計画するに当たっては、実際に人・物等を動かす実動訓練、状況付与に基づいて参加者に意思決定を行わせる図上訓練等、実際の行動及び判断を伴う実践的な訓練を実施する。

また、防災訓練における実施項目を参考にしつつ、以下に示す訓練を実施する。

- ① 市対策本部を迅速に設置するための職員の参集訓練及び市対策本部設置運営訓練
- ② 警報・避難の指示等の内容の伝達訓練及び被災情報・安否情報に係る情報収集訓練
- ③ 避難誘導訓練及び救援訓練

### (3) 訓練に当たっての留意事項

- ① 国民保護措置と防災上の措置との間で相互に応用が可能な項目については、国民保護措置についての訓練と防災訓練とを有機的に連携させる。
- ② 国民保護措置についての訓練の実施においては、住民の避難誘導や救援等に当たり、自治会等の協力を求めるとともに、特に高齢者、障がい者その他、配慮を要する者への的確な対応が図られるよう留意する。
- ③ 訓練実施時は、第三者の参加を求め、客観的な評価を行うとともに、参加者等から意見を聴取するなど、教訓や課題を明らかにし、市国民保護計画の見直し作業等に反映する。
- ④ 自治会、自主防災組織などと連携し、住民に対し広く訓練への参加を呼びかけ、訓練の普及啓発に資するよう努め、訓練の開催時期、場所等は、住民の参加が容易となるよう配慮する。
- ⑤ 県と連携し、学校、病院、大規模集客施設、大規模集合住宅、官公庁、事業所その他の多数の者が利用又は居住する施設の管理者に対し、火災や地震等の計画及びマニュアル等に準じて警報の内容の伝達及び避難誘導を適切に行うため必要となる訓練の実施を促す。
- ⑥ 県警察と連携し、避難訓練時における交通規制等の実施について留意する。

## 第2章 避難、救援及び武力攻撃災害への対処に関する平素からの備え

避難、救援及び武力攻撃災害への対処に関する平素からの備えに関して必要な事項について、以下のとおり定める（通信の確保、情報収集・提供体制など既に記載しているものを除く。）。

### 第1 避難に関する基本的事項

#### 1 基礎的資料の収集

迅速に避難住民の誘導を行うことができるよう、住宅地図、道路網のリスト、避難施設のリスト等必要な基礎的資料を準備する。

※【市対策本部において集約・整理すべき基礎的資料】

- 住宅地図  
(※ 人口分布、世帯数、昼夜別の人口のデータ)
- 区域内の道路網のリスト  
(※ 避難経路として想定される高速道路、国道、県道、市（町村）道等の道路のリスト)
- 輸送力のリスト  
(※ 鉄道、バス、船舶等の運送事業者や公共交通機関の保有する輸送力のデータ)  
(※ 鉄道網やバス網、保有車両数などのデータ)
- 避難施設のリスト（データベース策定後は、当該データベース）  
(※ 避難住民の収容能力や屋内外の別についてのリスト)
- 備蓄物資、調達可能物資のリスト  
(※ 備蓄物資の所在地、数量、区域内の主要な民間事業者のリスト)
- 生活関連 施設等のリスト  
(※ 避難住民の誘導に影響を与えかねない一定規模以上のもの)
- 関係機関（国、県、民間事業者等）の連絡先一覧、協定  
(※ 特に、地図や各種のデータ等は、市対策本部におけるテレビの大画面上にディスプレイできるようにしておくことが望ましい。)
- 自治会、自主防災組織等の連絡先等一覧  
(※ 代表者及びその代理の者の自宅及び勤務先の住所、連絡先等)
- 消防機関のリスト  
(※ 消防本部・署の所在地等の一覧、消防団長の連絡先)  
(※ 消防機関の装備資機材のリスト)
- 避難行動要支援者名簿

## 2 隣接する市町との連携の確保

市町の区域を越える避難を行う場合に備えて、平素から、隣接する市町と想定される避難経路や相互の支援の在り方等について意見交換を行い、また、訓練を行うこと等により、緊密な連携を確保する。

## 3 民間事業者からの協力の確保

避難住民の誘導時における地域の民間事業者の協力の重要性にかんがみ、平素から、これら企業の協力が得られるよう、連携・協力の関係を構築しておく。

## 4 学校や事業所との連携

学校や大規模な事業所における避難に関して、時間的な余裕がない場合においては、事業所単位により集団で避難することを踏まえて、平素から、各事業所における避難の在り方について、意見交換や避難訓練等を通じて、対応を確認する。

## 第2 避難実施要領のパターンの作成

関係機関（教育委員会など市の各執行機関、消防機関、県、県警察、自衛隊等）と緊密な意見交換を行いつつ、消防庁が作成するマニュアルを参考に、季節の別（特に冬期間の避難方法）、観光客や昼間人口の存在、混雑や交通渋滞の発生状況等について配慮し、複数の避難実施要領のパターンをあらかじめ作成する。

## 第3 救援に関する基本的事項

### 1 県との調整

県から救援の一部の事務を市において行うこととされた場合や市が県の行う救援を補助する場合にかんがみて、市の行う救援の活動内容や県との役割分担等について、自然災害時における市の活動状況等を踏まえ、あらかじめ県と調整しておく。

### 2 基礎的資料の準備等

県と連携して、救援に関する事務を行うために必要な資料を準備するとともに、避難に関する平素の取組みと並行して、関係機関との連携体制を確保する。

## 第4 運送事業者の輸送力・輸送施設の把握等

県と連携して、運送事業者の輸送力の把握や輸送施設に関する情報の把握等を行うとともに、避難住民や緊急物資の運送を実施する体制を整備するよう努める。

### 1 運送事業者の輸送力及び輸送施設に関する情報の把握

県が保有する市の区域の輸送に係る運送事業者の輸送力及び輸送施設に関する情報を共有する。

※ 輸送力に関する情報

- ① 保有車輛等(鉄道、定期・路線バス、船舶、飛行機等)の数、定員
- ② 本社及び支社の所在地、連絡先、連絡方法など

※ 輸送施設に関する情報

- ① 道路(路線名、起点・終点、車線数、管理者の連絡先など)
- ② 鉄道(路線名、終始点駅名、路線図、管理者の連絡先など)
- ③ 港湾(港湾名、係留施設数、管理者の連絡先など)
- ④ 飛行場(飛行場名、滑走路の本数、管理者の連絡先など)

2 運送経路の把握等

武力攻撃事態等における避難住民や緊急物資の運送を円滑に行うため、県が保有する当該市町村の区域に係る運送経路の情報を共有する。

**第5 避難施設の指定への協力**

- 1 県が行う避難施設の指定に際しては、地域防災計画に示す避難所の情報を提供するとともに施設の収容人数、構造、保有施設等の必要な情報を提供するなど県に協力する。
- 2 県が指定した避難施設に関する情報を避難施設データベース等により、県と共有するとともに、県と連携して住民に周知する。

## 第6 生活関連等施設の把握等

### 1 生活関連等施設の把握等

市内に所在する生活関連等施設について、県を通じて把握するとともに、県との連絡態勢を整備する。

また、「生活関連等施設の安全確保の留意点について」（平成27年4月）に基づき、その管理に係る生活関連等施設の安全確保措置の実施のあり方について定める。

### 2 生活関連等施設の種類及び所管省庁

国民保護 法施行令	各号	施設の種類	所管省庁名	備考
第27条	1号	発電所、変電所	経済産業省	
	2号	ガス工作物	経済産業省	
	3号	取水施設、貯水施設、浄水施設、配水池	厚生労働省	
	4号	鉄道施設、軌道施設	国土交通省	
	5号	電気通信事業用交換設備	総務省	
	6号	放送用無線設備	総務省	
	7号	水域施設、係留施設	国土交通省	
	8号	滑走路等、旅客ターミナル施設、航空保安施設	国土交通省	
	9号	ダム	国土交通省 農林水産省	
第28条	1号	危険物	総務省消防庁	
	2号	毒劇物(毒物及び劇物取締法)	厚生労働省	
	3号	火薬類	経済産業省	
	4号	高压ガス	経済産業省	
	5号	核燃料物質(汚染物質を含む。)	文部科学省 経済産業省	
	6号	核原料物質	文部科学省 経済産業省	
	7号	放射性同位元素(汚染物質を含む。)	文部科学省	
	8号	毒劇薬(薬事法)	厚生労働省 農林水産省	
	9号	電気工作物内の高压ガス	経済産業省	
	10号	生物剤、毒素	各省庁 (主務大臣)	
	11号	毒性物質	経済産業省	

### 3 市が管理する公共施設等における警戒

管理に係る公共施設、公共交通機関等について、特に情勢が緊迫している場合等において、必要に応じ、生活関連等施設の対応も参考にして、県の措置に準じて警戒等の措置を実施する。この場合において、県警察等との連携を図る。

### 第3章 要配慮者(避難行動要支援者)支援に関する平素からの備え

高齢者、障がい者、乳幼児、外国人等の要配慮者に対し、武力攻撃災害時に迅速かつ的確な対応を図るため、要配慮者の状態に配慮した体制整備に必要な事項を次のとおり定める。

#### 第1 社会福祉施設等入居者の対策

##### 1 自衛防災組織等の整備

社会福祉施設等の管理者に対し、武力攻撃災害時の迅速、的確な対応を図るため、あらかじめ自衛防災組織等を整え、施設職員の任務分担、動員計画、緊急連絡体制を明確化するよう依頼する。

##### 2 教育・訓練の実施

社会福祉施設等の管理者に対し、国民保護措置時に施設の職員が適切な行動がとれるよう啓発活動を行い、定期的な訓練を実施するよう依頼する。

##### 3 施設の安全確保

社会福祉施設等の管理者に対し、定期的に施設、設備等を点検し必要な修繕等を行い、施設自体の安全性を高めるよう依頼する。

また、防災資機材に準じた資材や食料、生活必需品等の備蓄に努めるよう依頼する。

#### 第2 在宅要配慮者の対策

##### 1 状況把握及び連絡体制の整備

平常時より自主防災組織や民生・児童委員等と連携し要配慮者の状況を把握し、避難行動要支援者名簿を整備するなど、実態把握に努める。

個々の避難行動要支援者にとり適切な伝達手段等を検討し、民生・児童委員や地域住民等との連携による伝達など多様な伝達手段等の整備に努める。

また、福祉関係部局を中心とした横断的な「避難行動要支援者支援班」を迅速に設置できるよう職員の配置に留意する。

##### ※【避難行動要支援者名簿について】

武力攻撃やテロ発生時の避難誘導に当たっては、自然災害時と同様、高齢者、障がい者等の避難行動要支援者への配慮が重要であるが、平素から、自然災害時における取り組みとして行われる避難行動要支援者名簿を活用することが重要である。（「避難行動要支援者の避難行動支援に関する取組指針」平成25年8月参照。）避難行動要支援者名簿は、災害対策基本法第49条の10において作成が義務付けられており、避難行動要支援者の氏名や生年月日、住所、避難支援等を必要とする事由等を記載又は記録するものとされている。

また、災害発生時に避難行動要支援者の円滑かつ迅速な避難支援等の実施に結びつくため、避難行動支援者の名簿情報について、地域防災計画の定めるところにより、あらかじめ避難支援等の実施に必要な限度で、避難行動支援等の実施に携わる関係者（避難支援等関係者）に提供するところが求められている。

## 2 啓発・訓練の実施

要配慮者及びその関係者に対して、国民保護措置に関する知識の普及・啓発に努めるとともに、訓練の実施に当たっては要配慮者の特性に配慮し、地域において要配慮者を支援する体制の整備に努める。

## **第3 外国人対策**

### 1 外国人の状況把握等

外国人に対して武力攻撃災害時に円滑な支援ができるよう、避難所や避難経路等の案内板について、外国人にもわかりやすいシンボル化や外国語の併記などを図るよう努める。

### 2 外国人への国民保護に関する啓発

県と連携し、外国人に対する国民保護措置の知識の普及、啓発に努める。

### 3 ボランティアの確保

武力攻撃災害時にも外国人が円滑にコミュニケーションが図れるよう、外国語通訳や翻訳ボランティアなどの確保に努める。

## 第4章 物資及び資材の備蓄、整備

国民保護措置の実施に必要な物資及び資材の備蓄、整備について、以下のとおり定める。

### 第1 市における備蓄

#### 1 防災のための備蓄との関係

住民の避難や避難住民等の救援に必要な物資や資材については、従来の防災のために備えた物資や資材と共通するものが多いことから、可能であるものについては、原則として、国民保護措置のための備蓄と防災のための備蓄とを相互に兼ねるとともに、武力攻撃事態等において特に必要となる物資及び資材について、備蓄し、又は調達体制を整備する。

#### 2 国民保護措置の実施のために必要な物資及び資材

国民保護措置の実施のために特に必要となる化学防護服や放射線測定装置等の資機材については、国がその整備や整備の促進に努めることとされ、また、安定ヨウ素剤や天然痘ワクチン等の特殊な薬品等のうち国において備蓄・調達体制を整備することが合理的と考えられるものについては、国において必要に応じて備蓄・調達体制の整備等を行うこととされており、市としては、国及び県の整備の状況等も踏まえ、県と連携しつつ対応する。

#### 【国民保護措置のために特に必要な物資及び資材の例】

安定ヨウ素剤、天然痘ワクチン、化学防護服、放射線測定装置、放射性物質等による汚染の拡大を防止するための除染器具など

#### 3 県との連携

国民保護措置のために特に必要となる物資及び資材の備蓄・整備について、県と密接に連携して対応する。

また、武力攻撃事態等が長期にわたった場合においても、国民保護措置に必要な物資及び資材を調達することができるよう、他の市町村等や事業者等との間で、その供給に関する協定をあらかじめ締結するなど、必要な体制を整備する。

## 第2 市が管理する施設及び設備の整備及び点検等

### 1 施設及び設備の整備及び点検

国民保護措置の実施も念頭におきながら、その管理する施設及び設備について、整備し、又は点検する。

### 2 ライフライン施設の機能の確保

#### (1) 上水道

平素からの備えとして、耐震診断を基にした施設・管路の耐震化の推進、水源地の分散配置、予備水源池の確保及び給水区域の整理統合や連絡送水管布設等の整備を図るとともに、武力攻撃災害時においては、これらを活用した柔軟かつ持続的な給水の確保に努める。

また、給水不可能な地域においては、自衛隊等の支援を受け迅速かつ持続的な給水ができるように努める。

#### (2) 下水道

平素の備えとして、災害対策用機資材の確保や整備点検を行うとともに、武力攻撃災害時に小規模集合処理施設を分散配置、継続的な下水道の維持に努める。

#### (3) 電気（四国電力株式会社の業務計画）

平素からの備えとして、災害対策用機資材の確保や整備点検を行うとともに、武力攻撃災害時に電力需給の不均衡が発生した場合には、電力融通の実施、代替え電源の立ち上げ、需給調整契約の発動及び不均衡の緩和処置を講ずる。

#### (4) 電話（日本電信電話株式会社の業務計画）

平素からの備えとして、主要な伝送路は多ルート構成とし、主要な中継交換機の分散配置、通信ケーブルの地中化推進及び主要な電気通信設備について予備電源の確保を行えるよう努めるとともに、行政より協力要請を受けた時には、避難所への特設公衆電話の設置にも努める。

武力攻撃災害時等において、応急回線の作成、網措置、臨機の利用制限等の措置及び安否情報を円滑に伝達できる災害用伝言ダイヤル(171)や災害用伝言掲示板(W e b 171)等を速やかに提供できるように努める。

### 3 復旧のための各種資料等の整備等

武力攻撃災害による被害の復旧の的確かつ迅速な実施のため、地籍調査の成果、不動産登記その他土地及び建物に関する権利関係を証明する資料等について、既存のデータ等を活用しつつ整備し、その適切な保存を図り、バックアップ体制を整備するよう努める。

## 第5章 国民保護に関する啓発

武力攻撃災害による被害を最小限化するためには、住民が国民保護に関する正しい知識を身につけ、武力攻撃事態等において適切に行動する必要があることから、国民保護に関する啓発や武力攻撃事態等において住民がとるべき行動等に関する啓発のあり方について必要な事項を、以下のとおり定める。

### 第1 国民保護措置に関する啓発

#### 1 啓発の方法

国及び県と連携しつつ、住民に対し、広報誌、パンフレット、テレビ、インターネット等の様々な媒体を活用して、国民保護措置の重要性について継続的に啓発を行うとともに、住民向けの研修会、講演会等を実施する。

また、高齢者、障がい者、外国人等に対しては、点字や外国語を使用した広報媒体を使用するなど実態に応じた方法により啓発を行う。

その際、防災の取り組みを含め、功労のあった者の表彰などにより、国民保護に関する住民への浸透を図る。

#### 2 防災に関する啓発との連携

啓発の実施に当たっては、防災に関する啓発とも連携し、消防団及び自主防災組織の特性も活かしながら住民への啓発を行う。

#### 3 学校における教育

市教育委員会は、県教育委員会の協力を得て、児童生徒等の安全の確保及び災害対応能力育成のため、市立学校において、安全教育や自他の生命を尊重する精神、ボランティア精神の養成等のための教育を行う。

### 第2 武力攻撃事態等において住民がとるべき行動等に関する啓発

武力攻撃災害の兆候を発見した場合の市長等に対する通報義務、不審物等を発見した場合の管理者に対する通報等について、啓発資料等を活用して住民への周知を図る。

弾道ミサイル攻撃の場合や地域においてテロが発生した場合などに住民がとるべき対処についても、国が作成する各種資料（内閣官房作成の「武力攻撃やテロなどから身を守るために」など）を防災に関する行動マニュアルなどと併せて活用しながら、住民に対し周知するよう努める。

また、日本赤十字社、県、消防機関などとともに、傷病者の応急手当について普及に努める。（なお、「武力攻撃事態やテロから身を守るために」において応急措置等について記載しており、これらの資料を参照できる。）

# 第3編 武力攻撃事態等への対処

## 第1章 初動連絡体制の迅速な確立及び初動措置

多数の死傷者が発生したり、建造物が破壊される等の具体的な被害が発生した場合には、当初、その被害の原因が明らかではないことも多いと考えられ、武力攻撃事態等や緊急処理事態の認定が行われる前の段階においても、住民の生命、身体及び財産の保護のために、現場において初動的な被害への対処が必要となる。

また、他の市町村において攻撃が発生している場合や何らかの形で攻撃の兆候に関する情報が提供された場合においても、事案発生時に迅速に対応できるよう、即応体制を強化しておくことが必要となることも考えられる。

このため、かかる事態において初動体制を確立し、関係機関からの情報等を迅速に集約・分析して、その被害の態様に応じた応急活動を行っていくことの重要性にかんがみ、市の初動体制について、以下のとおり定める。

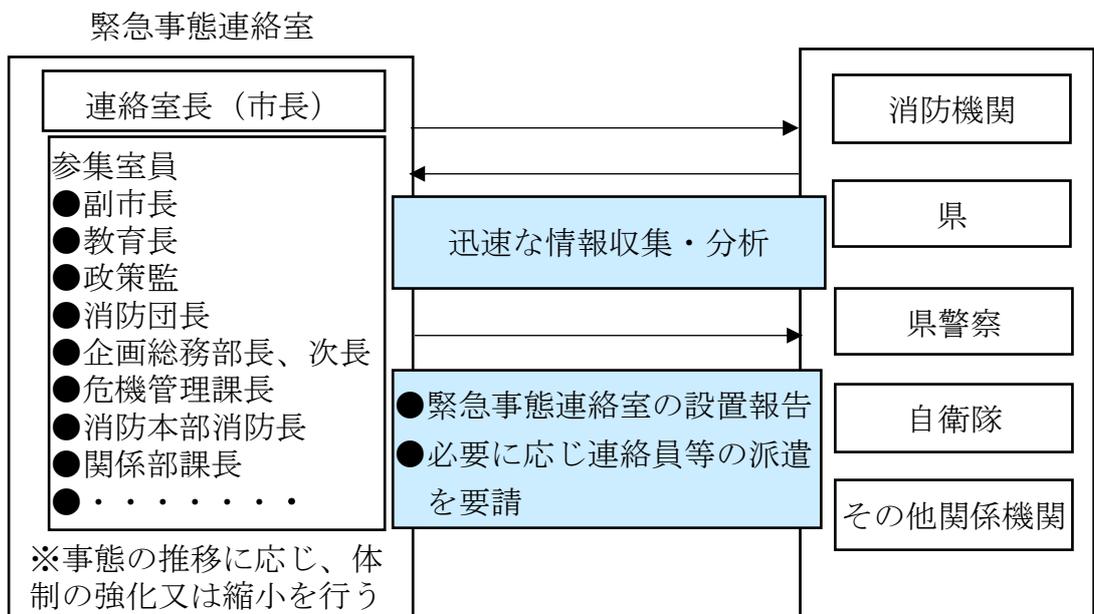
### 第1 事態認定前における緊急事態連絡室等の設置及び初動措置

#### 1 緊急事態連絡室等の設置

- (1) 市長は、現場からの情報により多数の人を殺傷する行為等の事案の発生を把握した場合においては、速やかに、県及び県警察に連絡を行うとともに、市としての確かつ迅速に対処するため、「緊急事態連絡室」を設置する。

「緊急事態連絡室」は、市対策本部員のうち、国民保護担当部課長など、事案発生時の対処に不可欠な少人数の要員により構成する。

#### ※【市緊急事態連絡室の構成等】



- ※ 住民からの通報、県からの連絡その他の情報により、市職員が当該事案の発生を把握した場合は、直ちにその旨を市長及び幹部職員等に報告するものとする。消防本部においても、通報を受けた場合の情報伝達の体制を確立するものとする。

- (2) 「緊急事態連絡室」は、消防機関及び消防機関以外の関係機関を通じて当該事案に係る情報収集に努め、国、県、関係する指定公共機関、指定地方公共機関等の関係機関に対して迅速に情報提供を行うとともに、緊急事態連絡室を設置した旨について、県に連絡を行う。

この場合、緊急事態連絡室は、迅速な情報の収集及び提供のため、現場における消防機関との通信を確保する。

## 2 初動措置の確保

「緊急事態連絡室」において、各種の連絡調整に当たるとともに、現場の消防機関による消防法に基づく火災警戒区域又は消防警戒区域の設定あるいは救助・救急の活動状況を踏まえ、必要により、災害対策基本法等に基づく避難の指示、警戒区域の設定、救急救助等の応急措置を行う。

市長（以下「緊急事態連絡室長」という。）は、国、県等から入手した情報を消防機関等へ提供するとともに、必要な指示を行う。

警察官職務執行法等に基づき、警察官が行う避難の指示、警戒区域の設定等が円滑になされるよう、緊密な連携を図る。

また、政府による事態認定がなされ、市に対し、市対策本部の設置の指定がない場合においては、緊急事態連絡室長は、必要に応じ国民保護法に基づき、退避の指示、警戒区域の設定、対策本部設置の要請などの措置等を行う。

## 3 関係機関への支援の要請

緊急事態連絡室長は、事案に伴い発生した災害への対処に関して、必要があると認めるときは、県や他の市町村等に対し支援を要請する。

## 4 対策本部への移行に要する調整

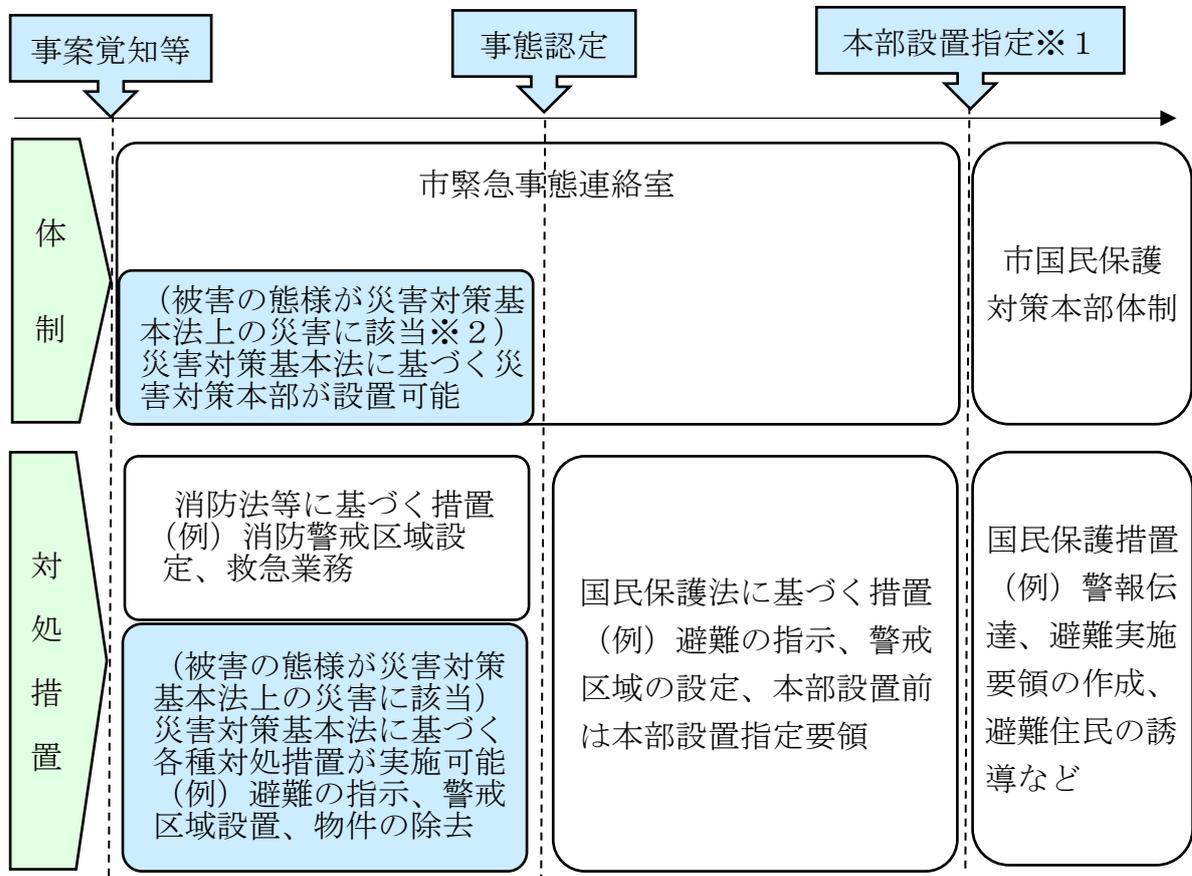
「緊急事態連絡室」を設置した後に政府において事態認定が行われ、市に対し、市対策本部を設置すべき市の指定の通知があった場合については、直ちに市対策本部を設置して新たな体制に移行するとともに、「緊急事態連絡室」は廃止する。

※【災害対策基本法との関係について】

災害対策基本法は、武力攻撃事態等及び緊急対処事態に対処することを想定した法律ではないことにかんがみ、多数の人を殺傷する行為等の事案に伴い発生した災害に対処するため、災害対策基本法に基づく災害対策本部が設置された場合において、その後、政府において事態認定が行われ、市対策本部を設置すべき市の指定の通知があった場合には、直ちに市対策本部を設置し、災害対策本部を廃止するものとする。

また、市長（以下、市対策本部設置後の事項については、「市対策本部長」という。）は、市対策本部に移行した旨を市関係部課等に対し周知徹底する。

市対策本部の設置前に災害対策基本法に基づく避難の指示等の措置を講じている場合には、既に講じた措置に代えて、改めて国民保護法に基づく所要の措置を講ずるなど必要な調整を行うものとする。



※1 事態認定と本部設置指定は、同時の場合も多いと思われるが、事態に応じて追加で本部設置指定する場合は、事態認定と本部設置指定のタイミングがずれることになる。

※2 災害対策基本法上災害とは、自然災害のほか、大規模な火災・爆発、放射性物質の大量放出、船舶等の事故等とされている。

## 第2 武力攻撃等の兆候に関する連絡があった場合の対応

国から県を通じて、警戒態勢の強化等を求める通知や連絡があった場合や武力攻撃事態等の認定が行われたが市に関して対策本部を設置すべき指定がなかった場合等において、市長が不測の事態に備えた即応体制を強化すべきと判断した場合には、担当課体制を立ち上げ、又は、緊急事態連絡室を設置して、即応体制の強化を図る。

この場合において、市長は、情報連絡体制の確認、職員の参集体制の確認、関係機関との通信・連絡体制の確認、生活関連等施設等の警戒状況の確認等を行い、当該市の区域において事案が発生した場合に迅速に対応できるよう必要に応じ全庁的な体制を構築する。

### ※【消防庁における体制】

消防庁においては、武力攻撃等の兆候に関する情報を入手した場合においては、官邸危機管理センターの対応状況も踏まえ、消防庁情報連絡室を設置するとともに、県に対し連絡することとされている。また、発生した災害の状況が不明であり、武力攻撃等の生起の可能性が高いと判断される場合等には、緊急事態連絡室を設置するとともに、県に連絡することとしている。

## 第2章 市対策本部の設置等

市対策本部を迅速に設置するため、手順や市対策本部の組織、機能等について、以下のとおり定める。

### 第1 市対策本部の設置

#### 1 設置の手順

市対策本部を設置する場合については、次の手順により行う。

##### (1) 市対策本部を設置すべき市の指定の通知

市長は、内閣総理大臣から、総務大臣（消防庁）及び県知事を通じて市対策本部を設置すべき市の指定の通知を受ける。

##### (2) 市長による市対策本部の設置

指定の通知を受けた市長は、直ちに市対策本部を設置する。

（※事前に緊急事態連絡室を設置していた場合は、市対策本部に切り替えるものとする（前述））

##### (3) 市対策本部員及び市対策本部職員の参集

市対策本部担当者は、市対策本部員、市対策本部職員等に対し、災害時情報共有システム（すだちくんメール）を活用し、対策本部に参集するよう連絡する。

##### (4) 市対策本部の開設

市対策本部担当者は、災害対策本部室に市対策本部を開設するとともに、市対策本部に必要な各種通信システムの起動、資機材の配置等必要な準備を開始する。（特に、関係機関が相互に電話、FAX、電子メール等を用いることにより、通信手段の状態を確認）

市対策本部長は、市対策本部を設置したときは、市議会に対策本部を設置した旨を連絡する。

##### (5) 交代要員等の確保

防災に関する体制を活用しつつ、職員の配置、食料、燃料等の備蓄、自家発電設備及び仮眠設備の確保等を行う。

(6) 本部の代替機能の確保

市対策本部が被災した場合等市対策本部を市庁舎内に設置できない場合に備え、市対策本部の予備施設をあらかじめ指定する。(第1順位、第2順位など)

なお、事態の状況に応じ、市対策本部長の判断により下記の順位を変更することを妨げるものではない。

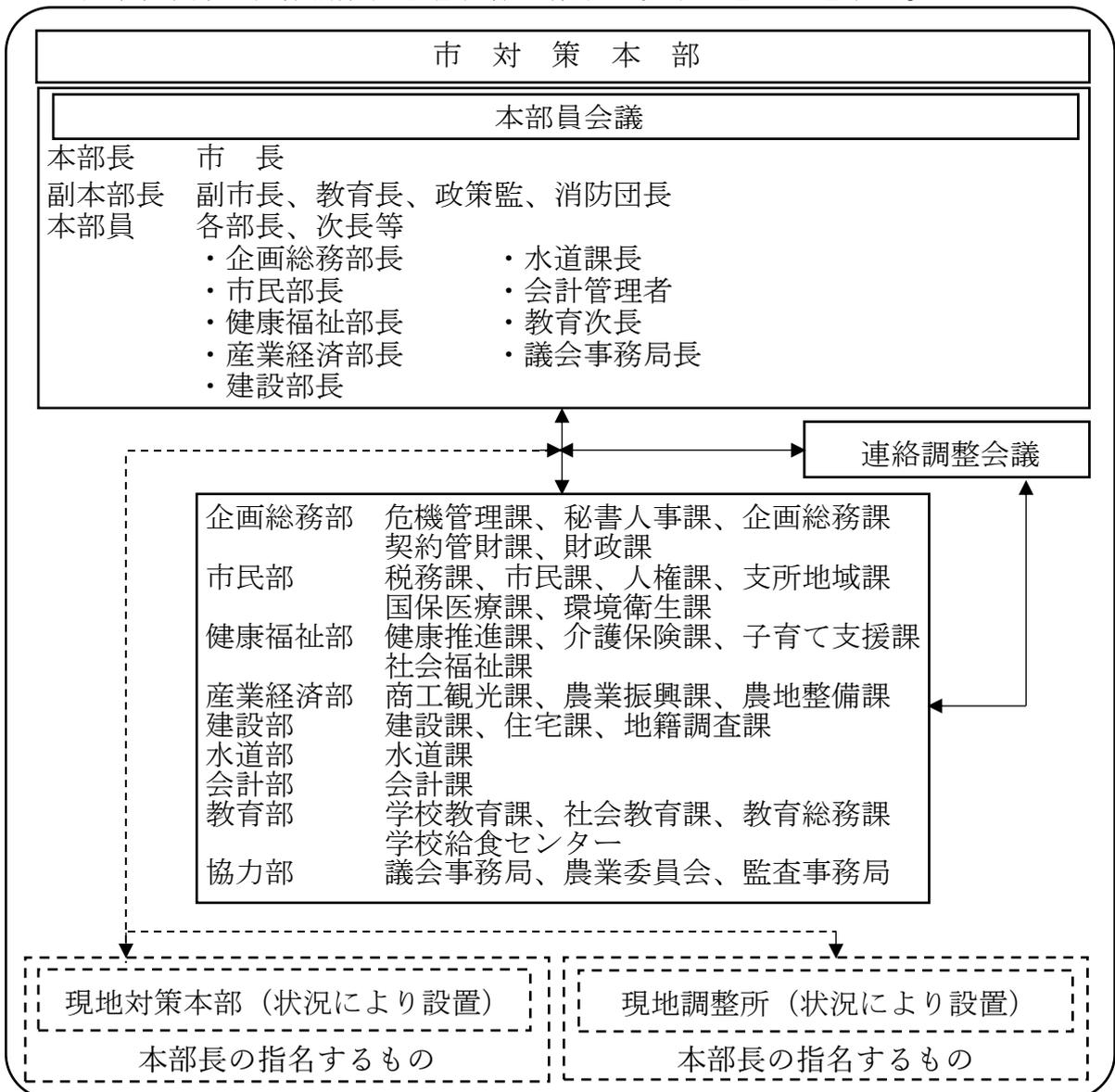
また、市区域外への避難が必要で、市の区域内に市対策本部を設置することができない場合には、知事と市対策本部の設置場所について協議を行う。

2 市対策本部を設置すべき指定の要請等

市長は、市対策本部を設置すべき指定が行われていない場合において、市における国民保護措置を総合的に推進するために必要があると認める場合には、知事を経由して内閣総理大臣に対し、市対策本部を設置すべき指定を行うよう要請する。

3 市対策本部の組織構成及び機能

市対策本部の組織構成及び各組織の機能は以下のとおりとする。



#### 4 各部課の主な任務

主 な 任 務		
各部課共通	○住民の避難誘導の動員	
	○関係官庁に対する報告に関する事	
企 画 総 務 部	○国民保護対策本部の設置及び廃止に関する事	
	○本部長の重要な意思決定に関する事	
	○職員の動員・配備に関する事	
	○県国民保護対策本部、県警察本部、自衛隊等関係機関との連絡調整に関する事	
	○国、県等との連絡調整に関する事	
	○避難実施要領の策定に関する事	
	○住民に対する警報の内容伝達及び緊急通報の内容の通知に関する事	
	○特殊標章等の交付に関する事	
	秘書人事課	○本部長命令の示達に関する事
		○対策本部の庶務に関する事
		○対策本部として行う新聞発表、放送等の広報活動及び報道機関との連絡に関する事
		○武力攻撃災害に関する写真等による記録に関する事
	企画総務課	○電話対応
		○被害状況及び応急対策の実施状況の取りまとめ等の武力攻撃災害情報処理に関する事
		○安否情報に関する事
		○気象予報に関する事
○武力攻撃災害時の広聴及び相談に関する事		
契約管財課	○指定避難所の開閉及び管理運営に関する事	
	○避難者の収容に関する事	
	○被害状況及び応急対策の実施状況の記録等に関する事	
	○物資及び物資運搬車両等の調達・確保に関する事	
	○市有建物の復旧に関する事	
財政課	○武力攻撃災害等の予算に関する事	

主 な 任 務		
市民部	税務課	○被害家屋の判定基準及び家屋被害状況の調査に関すること
	市民課 人権課	○被災者台帳の作成に関すること
		○外国人に関する連絡及び調整に関すること
		○遺体の安置、埋・火葬に関にすること
	支所地域課	○電話対応
		○指定避難所の開閉及び運営に関すること
		○避難者の収容に関すること
		○支所被害状況及び応急対策の実施状況の取りまとめ記録等に関すること
	国保医療課	○支援部隊等受入れ撤収に関すること
		○相互応援協定に基づく応援要請・受入体制整備に関すること
		○他の市町村等からの武力攻撃災害復旧活動に対する応援の調整に関すること
		○国民保護法に基づく救助に関する連絡・調整及び指導に関すること
		○武力攻撃災害救助の実施状況の取りまとめ及び報告に関すること
		○武力攻撃災害ボランティアの受入れ及び連絡・調整に関すること
	環境衛生課	○被災地の防疫活動に関すること
○一般廃棄物の収集、処理、処分に関すること		
○災害廃棄物の撤去、処理、処分に関すること		
○死亡獣畜の収集、処理に関すること		
○環境保全対策に関すること		
○道路、みぞ等の環境整備に関すること		
健康福祉部	健康推進課 介護保険課	○救護班の編成、救護所の設置その他の医療助産の調達に関すること
		○指定避難所における避難者の健康対策に関すること
		○医療、医薬品等の供給に関すること
	子育て支援課	○保育施設の防災及び復旧に関すること
		○乳幼児の保護に関すること

主 な 任 務		
健康福祉部	社会福祉課	○要配慮者の情報提供に関すること
		○要配慮者の避難に関すること
		○福祉避難所の開設要請に関すること
		○福祉避難所への避難者の収容に関すること
		○災害救助の資料その他災害救助の実施状況の取りまとめ及び報告に関すること
		○被災者に対する見舞金に関すること
		○義援金品の配分に関すること
		○武力攻撃災害ボランティアの受入れ及び連絡・調整に関すること
		○その他武力攻撃災害救助に関し他の所管に属さないこと
産業経済部	商工観光課 農業振興課 農地整備課	○被災者等への食料の確保及び配給に関すること
		○救援物資の受入れ及び配布に関すること
		○農林水産業施設の復旧に関すること
		○農林水産業の武力攻撃災害復旧資金の融資に関すること
		○農産物、家畜等の武力攻撃災害対策に関すること
建設部	建設課 住宅課 地籍調査課	○武力攻撃災害応急工事の契約に関すること
		○河川、道路、橋りょう、宅地等の復旧に関すること
		○国民保護法に基づく障害物の除去に関すること
		○排水施設等の復旧に関すること
		○緊急輸送路の確保に関すること
		○ライフライン復旧の連絡・調整に関すること
		○住宅の応急修理に関すること
		○武力攻撃災害ボランティア（住宅関係）に関すること
○被害家屋の判定基準及び家屋被害状況の調査に関すること		
会計部	会計課	○義援金品の受入・保管に関すること
		○武力攻撃災害の復旧活動の応援に関すること
水道部	水道課	○飲料水の供給に関すること
		○給水区域への給水の確保に関すること
教育部	学校教育課 社会教育課 教育総務課 学校給食センター	○児童・生徒の保護及び応急教育に関すること
		○教育施設の復旧に関すること
		○被災者等への食料の確保及び供給に関すること
		○指定避難所の開閉及び管理運営に関すること
		○避難者の収容に関すること

主 な 任 務		
協 力 部	議 会 事 務 局	○市議会議員への連絡及び安否確認に関すること
		○電話対応
		○指定避難所の開閉及び管理運営に関すること
		○避難者の収容に関すること
	農 業 委 員 会 事 務 局 監 査 事 務 局	○電話対応
		○指定避難所の開閉及び管理運営に関すること
○避難者の収容に関すること		
消 防 本 部	○武力攻撃災害への対処に関すること（救急・救助を含む。）	
	○住民の避難誘導に関すること	
消 防 団	○住民の避難誘導に関すること	

## 5 市対策本部における広報等

武力攻撃事態等において、情報の錯綜等による混乱を防ぐために、住民に適時適切な情報提供や行政相談を行うため、市対策本部における広報広聴体制を整備する。

### (1) 広報責任者の設置

武力攻撃事態等において住民に正確かつ積極的に情報提供を行うため、秘書人事課において広報を一元的に行う。

### (2) 広報手段

広報誌、テレビ・ラジオ放送、記者会見、問い合わせ窓の開設、インターネットホームページ等のほか屋外拡声器及び音声告知器等、様々な広報手段を活用して、住民等に迅速に提供できる体制を整備する。

### (3) 留意事項

- ① 広報の内容は、事実に基づく正確な情報であることとし、また、広報の時機を逸することのないよう迅速に対応すること。
- ② 市対策本部において重要な方針を決定した場合など広報する情報の重要性等に応じて、市対策本部長自ら記者会見を行うこと。
- ③ 県と連携した広報体制を構築すること。

## 6 市現地対策本部の設置

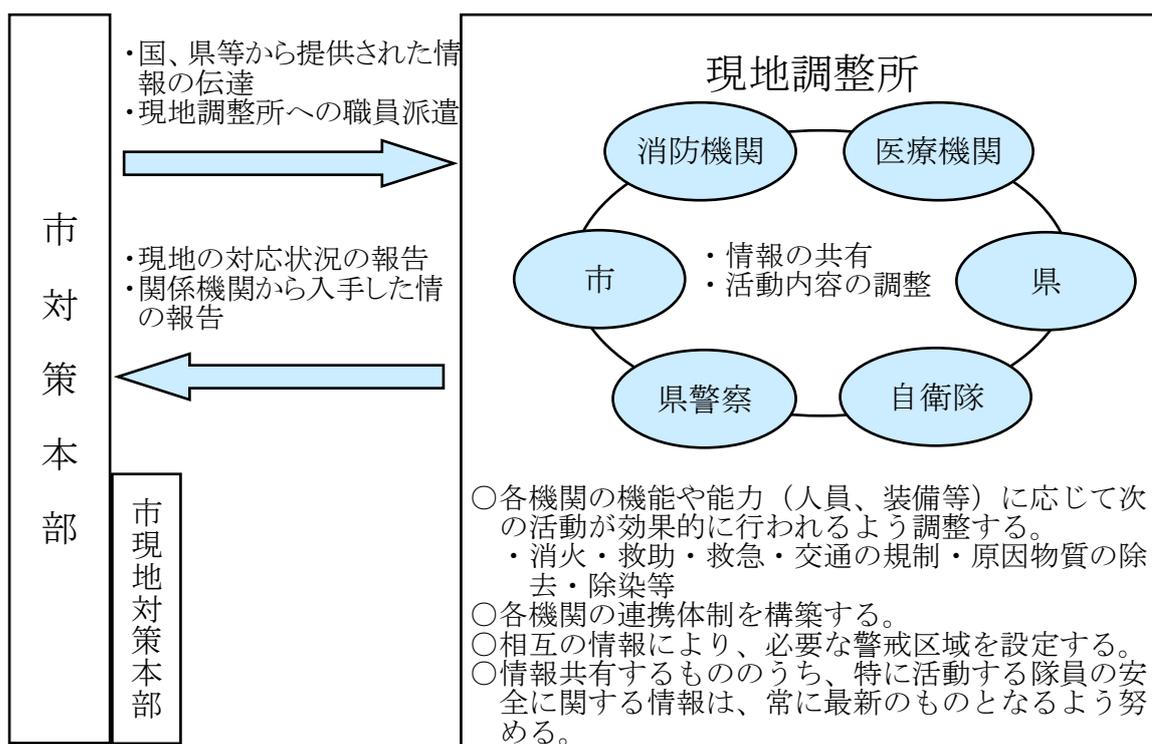
市対策本部長は、被災現地における国民保護措置の的確かつ迅速な実施並びに国、県等の対策本部との連絡及び調整等のため現地における対策が必要であると認めるときは、市対策本部の事務の一部を行うため、市現地対策本部を設置する。

市現地対策本部長や市現地対策本部員は、市対策副本部長、市対策本部員、その他の職員のうちから市対策本部長が指名する者をもって充てる。

## 7 現地調整所の設置

市対策本部長は、武力攻撃による災害が発生した場合、その被害の軽減及び現地において措置に当たる要員の安全を確保するため、現場における関係機関（県、消防機関、県警察、自衛隊、医療機関等）の活動を円滑に調整する必要があると認めるときは、現地調整所を設置し、（又は関係機関により現地調整所が設置されている場合は職員を派遣し、）関係機関との情報共有及び活動調整を行う。

### ※【現地調整所の組織編成】



### ※【現地調整所の性格について】

- (1) 現地調整所は、現場に到着した関係機関が原則として各々の付与された権限の範囲内において情報共有や活動調整を行い、現場における連携した対応を可能とするために設置するものである（例えば、典型的な場面として、避難実施要領に基づく避難誘導の実施に関して、関係機関による連携した活動が行われるように現地調整所で調整を行うことが考えられる。）。
- (2) 現地調整所は、事態発生現場において現場の活動の便宜のために機動的に設置することから、あらかじめ決められた一定の施設や場所に置かれるのではなく、むしろ、現場の活動上の便宜から最も適した場所に、テント等を用いて設置することが一般である。

- (3) 現地調整所においては、現場レベルにおける各機関の代表者が、定時又は随時に会合を開くことで、連携の強化を図ることが必要である。

現地調整所の設置により、消防機関による消火活動及び救助・救急活動の実施及び退避の指示、警戒区域の設定等の権限行使を行う際に、その判断に資する情報収集を行うことにより、現場での関係機関全体の活動を踏まえた国民保護措置の実施や権限を行使することが可能となる。

また、現地調整所における最新の情報について、各現場で活動する職員で共有させ、その活動上の安全の確保に生かすことが可能となる。

- (4) 現地調整所については、必要と判断した場合には、国民保護措置を総合的に推進する役割を担う市が積極的に設置することが必要であるが、他の対処に当たる機関が既に設置している場合には、市の職員を積極的に参画させることが必要である。(このため、現場に先着した関係機関が先に設置することもあり得るが、その場合においても、関係機関による連携が円滑に行われるよう、主体的に調整に当たることが必要である。)

(注) 現地調整所で調整する関係機関のメンバーをあらかじめ定めることは、困難であるが、国民保護協議会や訓練を通じて、その運用の手順等について、意見交換を行うことが重要である。

## 8 市対策本部長の権限

市対策本部長は、その区域における国民保護措置を総合的に推進するため、各種の国民保護措置の実施に当たっては、次に掲げる権限を適切に行使して、国民保護措置の的確かつ迅速な実施を図る。

- (1) 市の区域内の国民保護措置に関する総合調整

市対策本部長は、市の区域に係る国民保護措置を的確かつ迅速に実施するため必要があると認めるときは、市が実施する国民保護措置に関する総合調整を行う。

- (2) 県対策本部長に対する総合調整の要請

市対策本部長は、県対策本部長に対して、県並びに指定公共機関及び指定地方公共機関が実施する国民保護措置に関して所要の総合調整を行うよう要請する。

また、市対策本部長は、県対策本部長に対して、国の対策本部長が指定行政機関及び指定公共機関が実施する国民保護措置に関する総合調整を行うよう要請することを求める。

この場合において、市対策本部長は、総合調整を要請する理由、総合調整に係る機関等、要請の趣旨を明らかにする。

- (3) 情報の提供の求め

市対策本部長は、県対策本部長に対し、市の区域に係る国民保護措置の実施に関し総合調整を行うため必要があると認めるときは、必要な情報の提供を求める。

- (4) 国民保護措置に係る実施状況の報告又は資料の求め  
市対策本部長は、総合調整を行うに際して、当該総合調整の関係機関に対し、市の区域に係る国民保護措置の実施の状況について報告又は資料の提出を求める。
- (5) 市教育委員会に対する措置の実施の求め  
市対策本部長は、市教育委員会に対し、市の区域に係る国民保護措置を実施するため必要な限度において、必要な措置を講ずるよう求める。  
この場合において、市対策本部長は、措置の実施を要請する理由、要請する措置の内容等、当該求めの趣旨を明らかにして行う。
- 9 市対策本部の廃止  
市対策本部長は、内閣総理大臣から、総務大臣（消防庁）及び県知事を経由して市対策本部を設置すべき指定の解除の通知を受けたときは、遅滞なく、市対策本部を廃止する。

## **第2 通信の確保**

- 1 情報通信手段の確保  
携帯電話、移動系防災行政無線、インターネット、LGWAN（総合行政ネットワーク）、簡易業務無線等により、市対策本部と市現地対策本部、現地調整所、要避難地域、避難先地域等との間で国民保護措置の実施に必要な情報通信手段を確保する。
- 2 情報通信手段の機能確認  
必要に応じ、情報通信手段の機能確認を行うとともに、支障が生じた情報通信施設の応急復旧作業を行うこととし、そのための要員を直ちに現場に配置する。  
また、直ちに総務省にその状況を連絡する。
- 3 通信輻輳により生じる混信等の対策  
武力攻撃事態等における通信輻輳により生ずる混信等の対策のため、必要に応じ、通信運用の指揮要員等を避難先地域等に配置し、自ら運用する無線局等の通信統制等を行うなど通信を確保するための措置を講ずるよう努める。

### 第3章 関係機関相互の連携

国民保護措置を的確かつ迅速に実施するため、国、県、他の市町村、指定公共機関及び指定地方公共機関その他関係機関と相互に密接に連携することとし、それぞれの関係機関と市との連携を円滑に進めるために必要な事項について、以下のとおり定める。

#### 第1 国・県の対策本部との連携

##### 1 国・県の対策本部との連携

県の対策本部及び、県を通じ国の対策本部と各種の調整や情報共有を行うこと等により密接な連携を図る。

##### 2 国・県の現地対策本部との連携

国・県の現地対策本部が設置された場合は、連絡員を派遣すること等により、当該本部と緊密な連携を図る。

また、運営が効率的であると判断される場合には、必要に応じて、県・国と調整の上、共同で現地対策本部を設置し、適宜情報交換等、共同で現地対策本部の運用を行うとともに、国の現地対策本部長が武力攻撃事態等合同対策協議会を開催する場合には、当該協議会へ参加し、国民保護措置に関する情報の交換や相互協力に努める。

#### 第2 知事、指定行政機関の長、指定地方行政機関の長等への措置要請等

##### 1 知事等への措置要請

市の区域における国民保護措置を的確かつ迅速に実施するため必要があると認めるときは、知事その他県の執行機関（以下「知事等」という。）に対し、その所掌事務に係る国民保護措置の実施に関し必要な要請を行う。

この場合において、要請する理由、活動内容等をできる限り具体的に明らかにして行う。

##### 2 知事に対する指定行政機関の長又は指定地方行政機関の長への措置要請

市の区域における国民保護措置の求めを的確かつ迅速に実施するため特に必要があると認めるときは、知事等に対し、指定行政機関の長又は指定地方行政機関の長への要請を行うよう求める。

##### 3 指定公共機関、指定地方公共機関への措置要請

国民保護措置を的確かつ迅速に実施するため必要があると認めるときは、関係する指定公共機関又は指定地方公共機関に対し、その業務に係る国民保護措置の実施に関し必要な要請を行う。

この場合において、当該機関の業務内容に照らし、要請する理由や活動内容等をできる限り明らかにする。

### 第3 自衛隊の部隊等の派遣要請の求め等

- 1 市対策本部長は、国民保護措置を円滑に実施するため必要があると認めるときは、知事に対し、自衛隊の部隊等の派遣の要請を行うよう求める。(国民保護等派遣)

また、通信の途絶等により知事に対する自衛隊の部隊等の派遣の要請の求めができない場合は、努めて当該区域を担当区域とする地方協力本部長又は市の協議会委員たる隊員を通じて、陸上自衛隊にあつては当該区域を担当区域とする方面総監、海上自衛隊にあつては当該区域を警備区域とする地方総監、航空自衛隊にあつては当該区域を担当区域とする航空方面隊司令官等を介し、防衛大臣に連絡する。

- 2 市対策本部長は、国民保護等派遣を命ぜられた部隊のほか、防衛出動及び治安出動(内閣総理大臣の命令に基づく出動(自衛隊法第78条)及び知事の要請に基づく出動(自衛隊法第81条))により出動した部隊とも、市対策本部及び現地調整所において緊密な意思疎通を図る。

### 第4 他の市町村長等に対する応援の要求、事務の委託

- 1 他の市町村長等への応援の要求

- (1) 市対策本部長は、必要があると認めるときは、応援を求める理由、活動内容等を具体的に明らかにしたうえで、他の市町村長等に対して応援を求める。
- (2) 応援を求める市町村との間であらかじめ相互応援協定等が締結されている場合には、その相互応援協定等に基づき応援を求める。

- 2 県への応援の要求

市対策本部長は、必要があると認めるときは、知事等に対し応援を求める。この場合、応援を求める理由、活動内容等を具体的に明らかにする。

- 3 事務の一部の委託

- (1) 国民保護措置の実施のため、事務の全部又は一部を他の地方公共団体に委託するときは、平素からの調整内容を踏まえ、以下の事項を明らかにして委託を行う。
  - ・委託事務の範囲並びに委託事務の管理及び執行の方法
  - ・委託事務に要する経費の支弁の方法その他必要な事項
- (2) 他の地方公共団体に対する事務の委託を行った場合、上記事項を公示するとともに、県に届け出る。

また、事務の委託又は委託に係る事務の変更若しくは事務の廃止を行った場合は、市長はその内容を速やかに議会に報告する。

## 第5 指定行政機関の長等に対する職員の派遣要請

- 1 国民保護措置の実施のため必要があるときは、指定行政機関の長若しくは指定地方行政機関の長又は特定指定公共機関（指定公共機関である特定独立行政法人をいう。）に対し、当該機関の職員の派遣の要請を行う。  
また、必要があるときは、地方自治法の規定に基づき、他の地方公共団体に対し、当該地方公共団体の職員の派遣を求める。
- 2 1の要請を行うときは、県を経由して行う。  
ただし、人命の救助等のために緊急を要する場合は、直接要請を行う。  
また、当該要請等を行っても必要な職員の派遣が行われない場合などにおいて、国民保護措置の実施のため必要があるときは、県を経由して総務大臣に対し、1の職員の派遣について、あつせんを求める。

## 第6 市の行う応援等

- 1 他の市町村に対して行う応援等
  - (1) 他の市町村から応援の求めがあった場合には、求められた応援を実施することができない場合や、他の機関が実施する国民保護措置と競合する場合など、正当な理由のある場合を除き、必要な応援を行う。
  - (2) 他の市町村から国民保護措置に係る事務の委託を受けた場合、市長は、所定の事項を議会に報告するとともに、公示を行い、県に届け出る。
- 2 指定公共機関又は指定地方公共機関に対して行う応援等  
指定公共機関又は指定地方公共機関の行う国民保護措置の実施について労務、施設、設備又は物資の確保についての応援を求められた場合には、求められた応援を実施することができない場合や、他の機関が実施する国民保護措置と競合する場合など、正当な理由のある場合を除き、必要な応援を行う。

## 第7 ボランティア団体等に対する支援等

- 1 自主防災組織等に対する支援  
自主防災組織による警報の内容の伝達、自主防災組織や自治会長等の地域のリーダーとなる住民による避難住民の誘導等の実施に関する協力について、その安全を十分に確保し、適切な情報の提供や、活動に対する資材の提供等により、自主防災組織に対する必要な支援を行う。
- 2 ボランティア活動への支援等  
武力攻撃事態等におけるボランティア活動に際しては、その安全を十分に確保する必要があることから、武力攻撃事態等の状況を踏まえ、その可否を判断する。  
また、安全の確保が十分であると判断した場合には、県と連携して、ボランティア関係団体等と相互に協力し、被災地又は避難先地域におけるニーズや活動状

況の把握、ボランティアへの情報提供、ボランティアの生活環境への配慮、避難所等に臨時に設置されるボランティア・センター等における登録・派遣調整等の受入体制の確保等に努め、その技能等の効果的な活用を図る。

### 3 民間からの救援物資の受入れ

県や関係機関等と連携し、市民、企業等からの救援物資について、受入れを希望するものを把握し、また、救援物資の受入れ、仕分け、避難所への配送等の体制の整備等を図る。

## **第8 住民への協力要請**

国民保護法の規定により、次に掲げる措置を行うために必要があると認める場合には、住民に対し、必要な援助についての協力を要請する。この場合において、要請を受けて協力する者の安全の確保に十分に配慮する。

- 1 避難住民の誘導
- 2 避難住民等の救援
- 3 消火、負傷者の搬送、被災者の救助その他の武力攻撃災害への対処に関する措置
- 4 保健衛生の確保

## 第4章 警報及び避難の指示等

### 第1 警報の伝達等

武力攻撃事態等において、住民の生命、身体及び財産を保護するため、警報の内容の迅速かつ的確な伝達及び通知を行うことが極めて重要であることから、警報の伝達及び通知等に必要な事項について、以下のとおり定める。

#### 1 警報の内容の伝達等

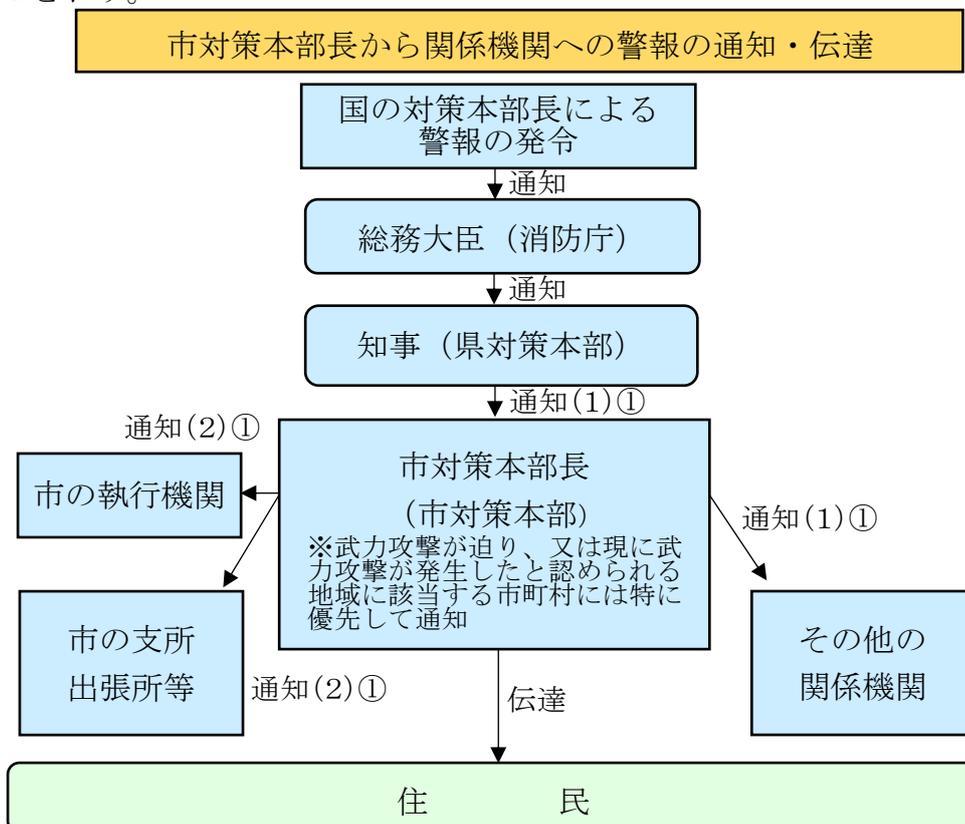
##### (1) 警報の内容の伝達

- ① 県から警報の内容の通知を受けた場合には、あらかじめ定められた伝達方法（伝達先、手段、伝達順位）により、速やかに住民及び関係のある国公私の団体（消防団、自治会、社会福祉協議会、農業協同組合、森林組合、商工会、病院、学校など）に警報の内容を伝達する。

##### (2) 警報の内容の通知

- ① 市の他の執行機関その他の関係機関（教育委員会、保育園など）に対し、警報の内容を通知する。
- ② 警報が発令された旨の報道発表については速やかに行うとともに、市のホームページに警報の内容を掲載する。

※ 市対策本部長から関係機関への警報の通知・伝達の仕組みを図示すれば、下記のとおり。



※市対策本部長は、ホームページに警報の内容を掲載

※警報の伝達に当たっては、防災行政無線のほか拡声器を活用することなどにより行う。

## 2 警報の内容の伝達方法

(1) 警報の内容の伝達方法については、当面の間は、現在市が保有する伝達手段に基づき、原則として以下の要領により行う。

① 「武力攻撃が迫り、又は現に武力攻撃が発生したと認められる地域」に市が含まれる場合

原則として、国が定めたサイレンを最大音量で吹鳴して住民に注意喚起した後、屋外拡声器及び音声告知器により武力攻撃事態等において警報が発令された事実等を周知する。

② 「武力攻撃が迫り、又は現に武力攻撃が発生したと認められる地域」に市が含まれない場合

ア 原則として、サイレンは使用せず、CATV等やホームページへの掲載をはじめとする手段により、周知を図る。

イ なお、市長が特に必要と認める場合には、サイレンを使用して住民に周知を図る。

また、広報車の使用、消防団や自主防災組織による伝達、自治会等への協力依頼などの屋外拡声器及び音声告知器による伝達以外の方法も活用する。

③ 弾道ミサイル攻撃のように対処に時間的余裕がない事態については、全国瞬時警報システム(J-ALERT)により国から緊急情報を受けたときは、屋外拡声器及び音声告知器により、迅速に住民へ警報を伝達する。

(2) 市対策本部長は、消防機関と連携し、あるいは自主防災組織等の自発的な協力を得ることなどにより、各世帯等に警報の内容を伝達することができるよう、体制を整備する。

この場合において、消防本部は、保有する車両・装備を有効に活用し、巡回等による伝達を行うとともに、消防団は、平素からの地域との密接なつながりを活かし、自主防災組織、自治会や避難行動要支援者等への個別の伝達を行うなど、それぞれの特性を活かした効率的な伝達が行われるように配慮する。

また、県警察の交番、駐在所、パトカー等の勤務員による拡声機や標示を活用した警報の内容の伝達が的確かつ迅速に行われるよう、県警察と緊密な連携を図る。

(3) 警報の内容の伝達においては、特に、高齢者、障がい者、外国人等に対する伝達に配慮するものとし、具体的には、避難行動要支援者について、防災・福祉部局との連携の下で避難行動要支援者名簿を活用するなど、避難行動要支援者に迅速に正しい情報が伝達され、避難などに備えられるような体制の整備に努める。

(4) 警報の解除の伝達については、武力攻撃予測事態及び武力攻撃事態の双方において、原則として、サイレンは使用しないこととする。

(その他は警報の発令の場合と同様とする。)

### 3 緊急通報の伝達及び通知

緊急通報の住民や関係機関への伝達・通知方法については、原則として警報の伝達・通知方法と同様とする。

### 4 避難の指示の想定事態別留意事項

#### (1) 弾道ミサイル攻撃の場合

① 弾道ミサイル攻撃においては、実際に弾道ミサイルが発射されたとの警報が発令されたときは、住民は屋内に避難することが基本である。

(実際に弾道ミサイルが発射されたとの警報が発令されたときは、できるだけ近傍のコンクリート造り等の堅ろうな施設や建築物の地階等の地下施設に避難することとなる。)

② 以下の措置の流れを前提として、避難実施要領の内容は、あらかじめ出される避難措置の指示及び避難の指示に基づき、弾道ミサイルが発射された段階で迅速に個人が対応できるよう、その取るべき行動を周知することが主な内容となる。

(弾道ミサイル攻撃の場合の措置の流れ)

ア 国対策本部長は、弾道ミサイルの発射が差し迫っているとの警報を発令、避難措置を指示

国対策本部長

警報の発令、避難措置の指示

(その他、記者会見等による国民への情報提供)

知 事

避難の指示

市対策本部長

避難指示の伝達

避難実施要領の策定

イ 実際に弾道ミサイルが発射されたときは、国対策本部長がその都度警報を発令

※ 弾道ミサイル攻撃については、発射の兆候を事前に察知した場合でも、発射された段階で攻撃目標を特定することは極めて困難であり、また、弾道ミサイルの主体（国又は国に準じる者）の意図等により攻撃目標は変化するとともに、その保有する弾道ミサイルの精度により、実際の着弾地点は変わってくる。

このため、弾道ミサイル発射時に市民が適切な行動をとることができるよう、全国瞬時警報システム（J-ALERT）による情報伝達及び弾道ミサイル落下時の行動について平素から周知に努めるとともに、弾道ミサイルが発射された場合には、すべての地域に着弾の可能性があるものとして、対応を考える必要がある。

また、急襲的に航空攻撃が行われる場合についても、弾道ミサイルの場合と同様の対応をとるものとする。

(2) ゲリラ・特殊部隊による攻撃の場合

- ① ゲリラ・特殊部隊による攻撃においても、国対策本部長の避難措置の指示及び知事による避難の指示を踏まえて、避難実施要領を策定し、迅速に避難住民の誘導を実施することが基本である。

なお、急襲的な攻撃に際しては、避難措置の指示を待たずに、退避の指示、警戒区域の設定等を行う必要が生じるが、

その際にも、事後的に避難措置の指示が出されることが基本である。

- ② その際、ゲリラ・特殊部隊による攻撃からの避難は、多くの場合は、攻撃の排除活動と並行して行われることが多いことから、警報の内容等とともに、現場における自衛隊等及び県警察からの情報や助言等を踏まえて、最終的には、住民を要避難地域の外に避難させることとなる。その際、武力攻撃がまきに行われており、住民に危害が及ぶおそれがある地域については、攻撃当初は一時的に屋内に避難させ、移動の安全が確保された後、適当な避難先に移動させることが必要となる。

- ③ 以上から、避難実施要領の策定に当たっては、各執行機関、消防機関、県、県警察、自衛隊等の関係機関の意見を聴き、それらの機関からの情報や助言を踏まえて、避難の方法を策定することが必要であり、また、事態の変化等に機敏に対応するため、現場における関係機関の情報を共有し、関係機関からの助言に基づいた確かな措置を実施できるよう、現地調整所を設けて活動調整に当たることとする。

※ 避難に比較的時間に余裕がある場合の対応

「一時避難場所までの移動」～「一時避難場所からのバス等の運送手段を用いた移動」、といった手順が一般には考えられる。

※ 昼間の市街地において突発的に事案が発生した場合の対応

当初の段階では、個々人がその判断により危険回避のための行動を取るとともに、県警察、消防機関、自衛隊等からの情報や助言に基づき、各地域における屋内避難や移動による避難を決定することとなる。

特に、この場合、初動時には、住民や滞在者の自主的な避難に頼らざるを得ないことから、平素から、住民が緊急時にいかに対応すべきかについて問題意識を持ってもらうことが必要である。

※ ゲリラ・特殊部隊による攻撃については、相手の攻撃の意図や目的により、攻撃の態様も様々であるが、少人数のグループにより行われるため、使用可能な武器も限定され、被害の範囲も一般には狭い範囲に限定される。

特に、最小限の攻撃で最大の心理的又は物理的効果を生じさせることが考えられることから、市の中心部、危険物質等の取扱所などは、攻撃を受ける可能性が一般に高く、注意が必要である。

(3) 着上陸侵攻の場合

大規模な着上陸侵攻やその前提となる反復した航空攻撃等の本格的な侵略事態に伴う避難については、事前の準備が可能である一方、国民保護措置を実施すべき地域が広範囲となり、県の区域を越える避難に伴う我が国全体としての調整等が必要となり、国の総合的な方針を待って対応することが必要となる。

このため、着上陸侵攻に伴う避難は、国の総合的な方針に基づき避難を行うことを基本として対応する。

(4) 航空攻撃の場合

急襲的な航空攻撃が行われる場合、弾道ミサイルの場合と同様の対応をとる。

(5) N B C 攻撃の場合

国及び県の避難の指示に基づき、柔軟に対応することが必要となる。

## 第2 避難住民の誘導等

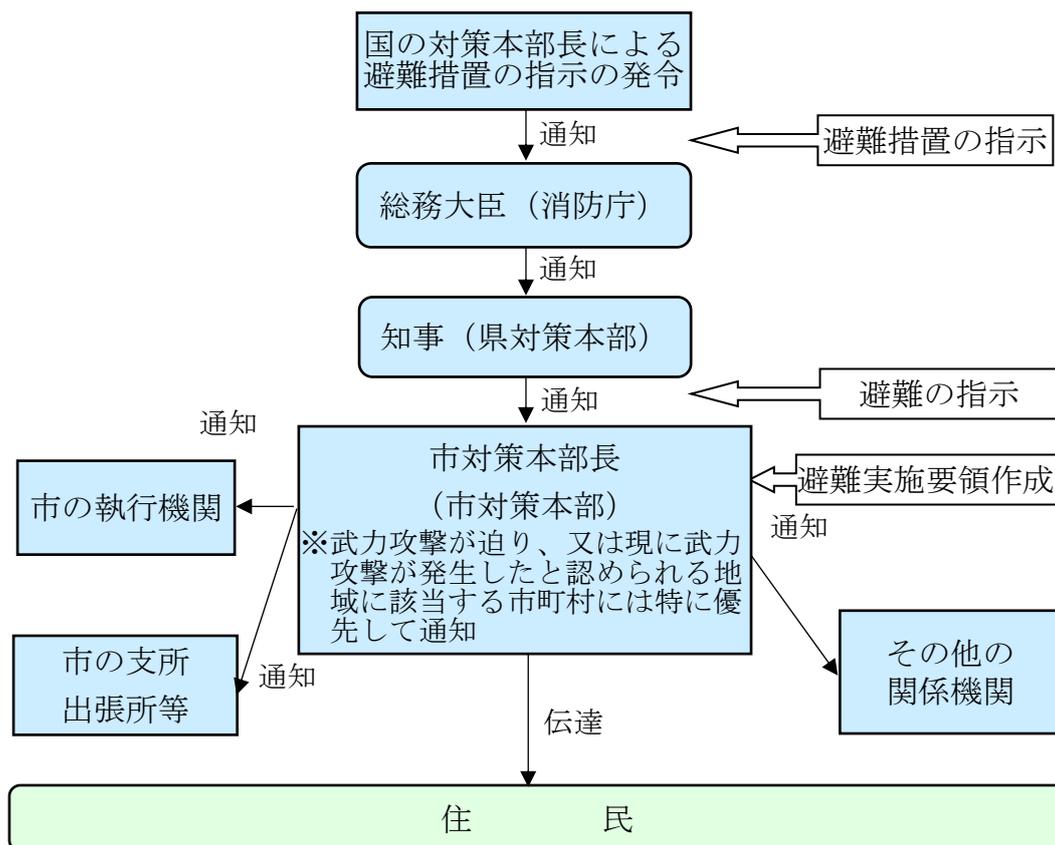
県の避難の指示に基づいて、避難実施要領を作成し、避難住民の誘導を行うこととなる。市が住民の生命、身体、財産を守るための責務の中でも非常に重要なプロセスであることから、避難の指示の住民等への通知・伝達及び避難住民の誘導について、以下のとおり定める。

### 1 避難の指示の通知・伝達

- (1) 市対策本部長は、知事が避難の指示を迅速かつ的確に避難の指示を行えるよう、事態の状況を踏まえ、被災情報や現場における事態に関する情報、避難住民数、避難誘導の能力等の状況について、収集した情報を迅速に県に提供する。
- (2) 市対策本部長は、知事による避難の指示が行われた場合には、警報の内容の伝達に準じて、その内容を、住民に対して迅速に伝達する。

※ 避難の指示の流れについては下図のとおり。

#### 市対策本部長から関係機関への避難の指示の通知・伝達



※市対策本部長は、避難の指示受領後、速やかに避難実施要領を作成し、上記と同様に通知・伝達を行う。

## 2 避難実施要領の策定

### (1) 避難実施要領の策定の考え方

市対策本部長は、避難の指示の通知を受けた場合は、直ちに、あらかじめ策定した避難実施要領のパターンを参考にしつつ、避難の指示の内容に応じた避難実施要領の案を作成するとともに、当該案について、各執行機関、消防機関、県、県警察、自衛隊等の関係機関の意見を聴いた上で、迅速に避難実施要領を策定する。

その際、避難実施要領の通知・伝達が避難の指示の通知後速やかに行えるようその迅速な作成に留意する。

避難の指示の内容が修正された場合又は事態の状況が変化した場合には、直ちに、避難実施要領の内容を修正する。

### (2) 避難実施要領に定める事項（法第61条第2項）

- ① 避難の経路、避難の手段その他避難の方法に関する事項
- ② 避難住民の誘導の実施方法、避難住民の誘導に係る関係職員の配置その他避難住民の誘導に関する事項
- ③ その他避難の実施に関し必要な事項

### (3) 避難実施要領の策定の際における考慮事項

避難実施要領の策定に際しては、以下の点に考慮する。

- ① 避難の指示の内容の確認  
(地域毎の避難の時期、優先度、避難の形態)
- ② 事態の状況の把握（警報の内容や被災情報の分析）  
(特に、避難の指示以前に自主的な避難が行われる状況も勘案)
- ③ 避難住民の概数把握
- ④ 誘導の手段の把握  
(屋内避難、徒歩による移動避難、長距離避難（運送事業者である指定地方公共機関等による運送))
- ⑤ 輸送手段の確保の調整（輸送手段が必要な場合）  
(県との役割分担、運送事業者との連絡網、一時避難場所の選定)
- ⑥ 避難行動要支援者の避難方法の決定  
(避難行動要支援者名簿、避難行動要支援者支援班の設置)
- ⑦ 避難経路や交通規制の調整  
(具体的な避難経路、県警察との避難経路の選定・自家用車等の使用に係る調整、道路の状況に係る道路管理者との調整)
- ⑧ 職員の配置  
(各地域への職員の割り当て、現地派遣職員の選定)
- ⑨ 関係機関との調整  
(現地調整所の設置、連絡手段の確保)
- ⑩ 自衛隊の行動と避難経路や避難手段の調整  
(県対策本部との調整、国の対策本部長による利用指針を踏まえた対応)

(4) 避難実施要領策定の留意事項

① 要避難地域及び避難住民の誘導の実施単位

避難が必要な地域の住所を可能な限り明示するとともに、自治会、町内会、事業所等地域の実情に応じた適切な避難の実施単位を記載する。

例) △地区 1-1、1-3 の住民は、「△自治会」、△地区 1-2 の住民は「○自治会」を避難の単位とする。

② 避難先

避難先の住所及び施設名を可能な限り具体的に記載する。

例) □地区 2-3 にある○○中学校体育館

③ 一時集合場所及び集合方法

避難住民の誘導や輸送の拠点となるような、一時集合場所等の住所及び場所名を可能な限り具体的に明示するとともに、集合場所への交通手段を記載する。

例) 集合場所：△地区 2-1 の△小学校グラウンドに集合する。

集合に当たっては、原則として徒歩により行う。

必要に応じて、自転車等を使用するものとし、避難行動要支援者については自動車等の使用を可とする。

④ 集合時間

避難誘導の際の交通手段の出発時刻や誘導避難を開始する時間を可能な限り具体的に記述する。

例) バスの発車時刻：○月○日 15:20、15:40、16:00

⑤ 集合に当たっての留意事項

集合後の町内会や近隣住民間での安否確認、避難行動要支援者への配慮事項等、集合に当たっての避難住民の留意すべき事項を記載する。

例) 集合に当たっては、高齢者、障がい者等、避難行動要支援者の所在を確認して避難を促すとともに、集合後は、避難の単位ごとに不在確認を行い、残留者の有無を確認する。

⑥ 避難の手段及び避難の経路

集合後に実施する避難誘導の交通手段を明示するとともに、避難誘導の開始時期及び避難経路等、避難誘導の詳細を可能な限り具体的に記述する。

例) 集合後は、○○線○○駅より、○月○日 15:30 より 30 分間隔で運行する□市□駅行きの列車で避難を行う。

□市□駅に到着後は、□市及び△市職員の誘導に従って、徒歩で□市立□□中学校体育館に避難する。

⑦ 市職員、消防職員、消防団員の配置等

避難住民の避難誘導が、迅速かつ円滑に行えるよう、関係市町村職員、消防職員、消防団員を避難誘導員として配置及び担当業務を明示するとともに、その連絡先等を記載する。

- ⑧ 高齢者、障がい者その他特に配慮を要する者への対応  
高齢者、障がい者、傷病者、乳幼児等、自ら避難することが困難な避難行動要支援者の避難誘導を円滑に実施するために、これらの者への対応方法を記載する。  
例) 誘導に際しては、高齢者、障がい者、傷病者、乳幼児等、自ら避難することが困難な避難行動要支援者を優先的に避難させるものとする。  
また、民生委員、自主防災組織及び自治会等に、避難誘導の実施について協力してもらえよう呼びかける。
- ⑨ 要避難地域における残留者の確認  
要避難地域に残留者ができないよう、残留者の確認方法を記載する。  
例) 避難の実施時間の後、速やかに、残留者の有無を確認する。  
避難が遅れている者に対しては、早急な避難を行うよう説得する。  
避難誘導中にリストを作成する。
- ⑩ 避難誘導中の食料等の支援  
避難誘導中に避難住民へ、食料、水、医療、情報等を的確かつ迅速に提供できるよう、それら支援内容を記載する。  
例) 避難誘導要員は、○月○日 18:00 に避難住民に対して、食料、水を供給する。  
集合場所及び避難施設においては、救護所を設置し、適切な医療を提供する。
- ⑪ 避難住民の携行品、服装  
避難住民の誘導を円滑に実施できるような必要最低限の携行品、服装について記載する。  
例) 携行品は、数日分の飲料水や食料品、生活用品、救急医薬品、ラジオ、懐中電灯等必要なものを入れた非常持ち出し品だけとし、身軽に動けるようにする。  
服装は、身軽で動きやすいものとし、帽子や頭巾で頭を保護し、靴は底の丈夫な履きなれた運動靴を履くようにする。  
なお、NBC災害の場合には、マスク、手袋及びハンカチを持参し、皮膚の露出を避ける服装とする。
- ⑫ 避難誘導から離脱してしまった際の緊急連絡先等  
問題が発生した際の緊急連絡先を記述する。  
例) 緊急連絡先：△市対策本部 TEL〇〇-〇〇-〇〇  
担当〇〇〇〇

(5) 避難実施要領の一例

避難実施要領（一例）

阿波市長  
〇月〇日〇〇時現在

1 徳島県からの避難の指示の概要

- (1) 避難指示の発令時間  
〇〇年〇〇月〇〇日（曜日）〇〇時〇〇分
- (2) 避難指示の内容
  - ① 要避難地域  
県道〇〇線以北の〇〇地区、〇〇地区及び〇〇地区
  - ② 避難先地域
    - ア 避難行動要支援者以外  
〇〇小学校体育館、〇〇中学校体育館
    - イ 避難行動要支援者  
福祉避難所〇〇
  - ③ 主要避難経路  
国道〇〇線～県道〇〇線～市道〇〇線
  - ④ 交通手段  
大型バス又は福祉車両
  - ⑤ 避難完了時間  
〇〇年〇〇月〇〇日（曜日）〇〇時〇〇分
  - ⑥ 避難の単位  
努めて自治会単位で避難すること
  - ⑦ 避難にあたり警察、消防、自衛隊の支援を受ける。

2 事態の状況、関係機関の措置

- (1) 事態の状況
  - ① 発生時期  
〇〇年〇〇月〇〇日（曜日）〇〇時〇〇分
  - ② 発生場所  
〇〇〇〇
  - ③ 実行主体  
国籍不明のテログループ
  - ④ 事案の概要と被害状況  
〇〇年〇〇月〇〇日（曜日）〇〇時〇〇分、テログループが〇〇施設に立てこもり、インターネットで犯行を予告、テログループは、〇〇剤と爆薬を所持している模様
  - ⑤ 今後の予測・影響と措置
    - ア 速やかに、要避難地域を特定し、全住民を避難させる必要がある。
    - イ テログループの拘束、制圧等に時間を要することから1日程度避難施設にとどまることも考慮する必要がある。
  - ⑥ 気象状況  
天候：晴れ 気温：10℃ 風向：北西 風速：2.0/s
- (2) 避難住民の誘導
  - ① 要避難地域  
〇〇町〇〇地区、〇〇地区及び〇〇地区  
別紙第1「要避難地域」

② 避難区分及び避難先

ア 避難行動要支援者以外

〇〇小学校体育館、〇〇中学校体育館

別紙第2「避難所及び経路図（避難行動要支援者以外）」

イ 避難行動要支援者

福祉避難所〇〇

別紙第3「避難所及び経路図（避難行動要支援者）」

③ 避難誘導の方針

ア 要避難地域の全住民に対し、警察・自衛隊が地域ごとに安全を確保するまで屋内避難を継続させること。

イ 警察・自衛隊が警備体制を構築した上で、屋外避難を開始する。

④ 避難開始日時

ア 屋内避難 〇〇年〇〇月〇〇日（曜日）〇〇時〇〇分～

イ 屋外避難 〇〇年〇〇月〇〇日（曜日）〇〇時〇〇分～

⑤ 避難完了予定日時

〇〇年〇〇月〇〇日（曜日）〇〇時〇〇分

(3) 関係機関の措置等

①警察：交通規制の実施、警備体制の確保

②消防署：避難行動要支援者等の救急搬送、病院入院患者の輸送

③消防団：避難の呼びかけ

④自衛隊：警備の実施

3 事態の特性上、留意すべき事項

(1) 事態の特性

テログループは、〇〇剤と爆薬を所持しており、速やかに避難させる必要がある。

(2) 地域の特性

地域の結びつきが強く、自治会単位の行動が期待できる。

(3) 時期の特性

厳寒期であり、防寒のため避難者には防寒着の着用を伝達する。

4 要避難地域、要避難者数、避難手段、避難施設等

(1) 要避難地域

別紙第1「要避難地域」

(2) 避難経路

① 避難に使用する経路

別紙第2「避難所及び経路図（避難行動要支援者以外）」及び別紙第3「避難所及び経路図（避難行動要支援者）」による。

② 交通規制

ア 実施主体

〇〇警察署

イ 規制場所

別紙第2「避難所及び経路図（避難行動要支援者以外）」及び別紙第3「避難所及び経路図（避難行動要支援者）」に示す区間

ウ 人数

50人

③ 警備体制

- ア 実施主体  
〇〇警察署および自衛隊
- イ 規制場所  
〇〇施設を中心に半径200m
- ウ 人数  
100人

(3) 避難輸送方法

- ① 大型バス、福祉車両により避難する。  
別紙第4「避難要領（避難行動要支援者以外）」、別紙第5「避難要領（避難行動要支援者）」による。
- ② 誘導員の配置場所及び人数
  - ア 集合場所
    - 〇〇小学校 10人
    - 〇〇中学校 5人
  - イ 避難所
    - 〇〇小学校 10人
    - 〇〇中学校 5人
    - 福祉避難所〇〇 3人

(4) 残留者の確認方法

- ① 確認者  
消防団
- ② 時期  
〇〇年〇〇月〇〇日（曜日）〇〇時〇〇分～
- ③ 場所  
要避難対象地域
- ④ 方法  
車両による広報及び個別訪問（音声告知器、屋外拡声器併用）
- ⑤ 措置  
残留者に対し避難するよう求める。
- ⑥ 終了予定日時  
〇〇年〇〇月〇〇日（曜日）〇〇時〇〇分～

5 避難時の留意事項（住民）

(1) 自宅から避難する場合の留意事項

- ① 基本事項
  - 避難時は、動きやすい服装で避難すること。
  - 避難時は、金銭・貴重品、パスポートや運転免許証等身分を証明するもの、最小限の着替えや日用品、非常持ち出し品等を携行するものとする。
  - 隣近所に声を掛け合い相互に助け合って避難すること。
- ② 時期の特性
  - 厳寒期であり、防寒のため避難者には防寒着等の準備が必要である。

6 誘導に際しての留意事項（職員）

- (1) テログループが潜伏している可能性があるため、警察及び自衛隊の警備のもと、細心の注意を払って誘導にあたること。
- (2) 職員は冷静沈着に、毅然たる態度を保つこと

- (3) 防災活動服、腕章等により、誘導員であることの立場や役割を明確にし、その活動に理解を求めること。
- (4) 住民の避難に際し、混乱防止のため、住民に対する迅速な情報提供と混乱による危険性を警告し、冷静かつ秩序正しい行動を呼びかけること。

## 7 伝達方法

- (1) 避難実施要領の住民への伝達方法  
音声告知器及び屋外拡声器を用いて対象地域に避難実施要領の内容を伝達するとともにあらかじめ指定している自治会長等にFAX等により送付する
- (2) 避難実施要領の伝達先
  - ① 徳島県
  - ② 阿波吉野川警察署
  - ③ 徳島県中央広域連合消防本部
  - ④ 阿波市消防団
  - ⑤ 自衛隊

## 8 緊急連絡先

阿波市対策本部 担当〇〇〇〇  
TEL ×××-×××-×××  
FAX ×××-×××-×××

## (6) 国の対策本部長による利用指針の調整

自衛隊の行動と国民保護措置の実施について、道路等における利用のニーズが競合する場合には、市対策本部長は、国の対策本部長による「利用指針」の策定に係る調整が開始されるように、県を通じて、国の対策本部に早急に現場の状況等を連絡する。

この場合において、市対策本部長は、県を通じた国の対策本部長による意見聴取（武力攻撃事態等における特定公共施設等の利用に関する法律第6条第3項等）及び国の対策本部長からの情報提供の求め（同法第6条第4項等）に適切に対応できるよう、避難の現状、施設の利用の必要性や緊急性等について、市の意見や関連する情報をまとめる。

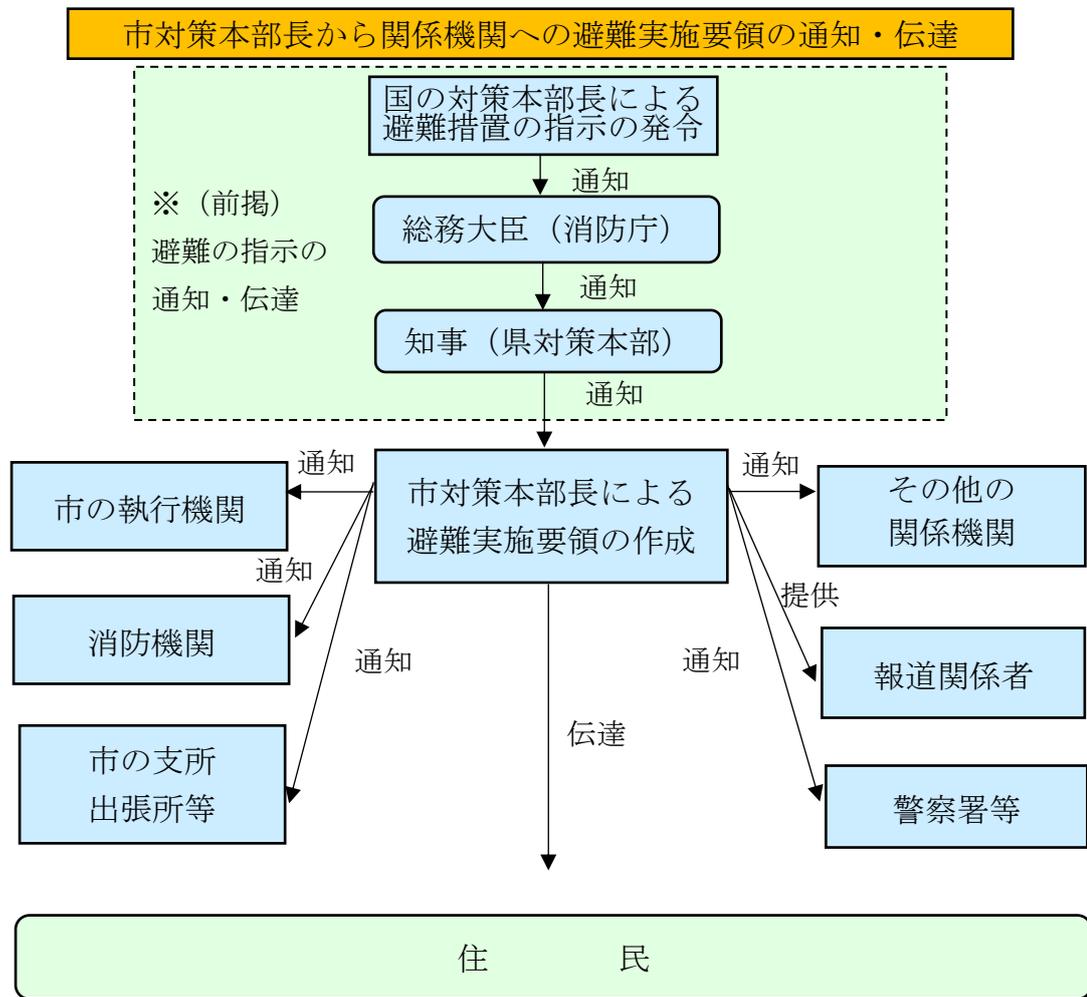
(7) 避難実施要領の内容の伝達等

市対策本部長は、避難実施要領を策定後、直ちに、その内容を、住民及び関係のある公私の団体に伝達する。

その際、住民に対しては、迅速な対応が取れるよう、各地域の住民に関係する情報を的確に伝達するように努める。

また、市対策本部長は、直ちに、その内容を市の他の執行機関、市の区域を管轄する消防長、警察署長及び自衛隊地方協力本部長並びにその他の関係機関に通知する。

さらに、市対策本部長は、報道関係者に対して、避難実施要領の内容を提供する。



### 3 避難住民の誘導

#### (1) 市による避難住民の誘導

市対策本部長は、避難実施要領で定めるところにより、市の職員並びに消防長及び消防団長を指揮し、避難住民を誘導する。

その際、避難実施要領の内容に沿って、自治会、学校、事業所等を単位として誘導を行う。ただし、緊急の場合には、この限りではない。

また、市対策本部長は、避難実施要領に沿って、避難経路の要所要所に職員を配置して、各種の連絡調整に当たらせるとともに、行政機関の車両や案内板を配置して、誘導の円滑化を図る。

また、職員には、住民に対する避難誘導活動への理解や協力を得られるよう、毅然とした態度での活動を徹底させ、防災服、腕章、旗、特殊標章等を携行させる。(特に、市街地等の人的関係が希薄な地域や昼間人口が多い地域では、重要である。)

なお、夜間では、暗闇の中における視界の低下により人々の不安も一層高まる傾向にあることから、避難誘導員が、避難経路の要所要所において、夜間照明(投光器具、車のヘッドライト等)を配備するなど住民の不安軽減のため必要な措置を講ずる。

#### (2) 大規模集客施設等における避難

大規模集客施設や旅客輸送関連施設の施設管理者等と連携し、施設の特性に応じ、当該施設等に滞在する者等についても、避難等の国民保護措置が円滑に実施できるよう必要な対策をとる。

#### (3) 消防機関の活動

消防本部及び消防署は、消火活動及び救助・救急活動の状況を勘案しつつ、市対策本部長の定める避難実施要領に基づき、要所に消防車両等を配置し、車載の拡声器を活用する等効果的な誘導を実施するとともに、自力歩行困難な避難行動要支援者の人員輸送車両等による運送を行う等保有する装備を有効活用した避難住民の誘導を行う。

消防団は、消火活動及び救助・救急活動について、消防本部又は消防署と連携しつつ、自主防災組織、自治会等と連携した避難住民の誘導を行うとともに、避難行動要支援者に関する情報の確認や要避難地域内残留者の確認等を担当する等地域とのつながりを活かした活動を行う。

#### (4) 避難誘導を行う関係機関との連携

市対策本部長は、避難実施要領の内容を踏まえ、市の職員及び消防機関のみでは十分な対応が困難であると認めるときは、警察署長又は国民保護措置の実施を命ぜられた自衛隊の部隊等の長に対して、警察官又は自衛官(以下、「警察官等」という。)による避難住民の誘導を要請する。

また、警察官等が避難住民の誘導を行う場合に警察署長等から協議を受けた際は、市対策本部長は、その時点における事態の状況や避難誘導の状況に照らして、交通規制等関係機関による必要な措置が円滑に行われるよう所要の調整を行う。これらの誘導における現場での調整を円滑に行い、事態の変化に迅速に対応できるよう、市対策本部長は、事態の規模・状況に応じて現地調整所を設け、関係機関との情報共有や活動調整を行う。

(5) 自主防災組織等に対する協力の要請

市対策本部長は、避難住民の誘導に当たっては、自主防災組織や自治会長等の地域においてリーダーとなる住民に対して、避難住民の誘導に必要な援助について、協力を要請する。

(6) 誘導時における食品の供給等の実施や情報の提供

市対策本部長は、避難住民の誘導に際しては、県と連携して、食品の供給、飲料水の供給、医療の提供その他の便宜を図る。

市対策本部長は、避難住民の心理を勘案し、避難住民に対して、必要な情報を適時適切に提供する。

その際、避難住民の不安の軽減のために、可能な限り、事態の状況等とともに、行政側の対応についての情報を提供する。

(7) 高齢者、障がい者等への配慮

市対策本部長は、高齢者、障がい者等の避難を万全に行うため、避難行動要支援者支援班を設置し、社会福祉協議会、民生・児童委員、介護保険制度関係者、障がい者施設団体等と協力して、避難行動要支援者への連絡、運送手段の確保を的確に行うものとする。（「避難行動要支援者名簿」を活用しながら対応を行う。その際、民生・児童委員と社会福祉協議会との十分な協議の上、その役割を考える必要がある。）（ゲリラ・特殊部隊による攻撃等に際しては、被害が局部的、限定的なものにとどまることも多いことから、時間的余裕がなく、移動により攻撃に巻き込まれる可能性が高い場合は、屋内への避難を現実的な避難方法として検討せざるを得ない場合もあり得る。）

(8) 残留者等への対応

避難の指示に従わずに要避難地域にとどまる者に対しては、事態の状況等に関する情報に基づき丁寧な説明を行い、残留者の説得に努めるとともに、避難に伴う混雑等により危険な事態が発生する場合には、必要な警告や指示を行う。

(9) 避難所等における安全確保等

県警察が行う被災地、避難所等における犯罪の予防のための活動に必要な協力をを行うとともに、県警察と協力し、住民等からの相談に対応するなど、住民等の不安の軽減に努める。

また、避難所内での禁煙等に努め、安全確保に取り組む。

(10) 動物の保護等に関する配慮

「動物の保護等に関して地方公共団体が配慮すべき事項についての基本的考え方について（平成17年8月31日付け環境省自然環境局総務課動物愛護管理室及び農林水産省生産局畜産部畜産企画課通知）」を踏まえ、以下の事項等について、所要の措置を講ずるよう努める。

- ・危険動物等の逸走対策
- ・要避難地域等において飼養又は保管されていた家庭動物等の保護等

(11) 通行禁止措置の周知

市対策本部長は、道路の通行禁止等の措置を行ったときは、県警察と協力して、直ちに、住民等に周知徹底を図るよう努める。

(12) 県に対する要請等

市対策本部長は、避難住民の誘導に際して食料、飲料水、医療等が不足する場合には、知事に対して、必要な支援の要請を行う。

その際、特に、県による救護班等の応急医療体制との連携に注意する。

また、避難住民の誘導に係る資源配分について他の市町村と競合するなど広域的な調整が必要な場合は、知事に対して、所要の調整を行うよう要請する。

市対策本部長は、知事から、避難住民の誘導に関して、是正の指示があったときは、その指示の内容を踏まえて、適切な措置を講ずる。

(13) 避難住民の運送の求め等

市対策本部長は、避難住民の運送が必要な場合において、県との調整により、運送事業者である指定公共機関又は指定地方公共機関に対して、避難住民の運送を求める。

市対策本部長は、運送事業者である指定公共機関又は指定地方公共機関が正当な理由なく運送の求めに応じないと認めるときは、指定公共機関にあつては、県を通じて国の対策本部長に対し、指定地方公共機関にあつては、県対策本部長に、その旨を通知する。

(14) 避難住民の復帰のための措置

市対策本部長は、避難の指示が解除された時は、避難住民の復帰に関する要領を作成し、避難住民を復帰させるため必要な措置を講じる。

## 第5章 救 援

### 第1 救援の実施

#### 1 救援の実施

市対策本部長は、知事から実施すべき措置の内容及び期間の通知があったときは、次に掲げる措置のうちで実施することとされた救援に関する措置を関係機関の協力を得て行う。

- (1) 収容施設の供与
- (2) 食品・飲料水及び生活必需品等の供給又は貸与
- (3) 医療の提供及び助産
- (4) 被災者の捜索及び救出
- (5) 埋葬及び火葬
- (6) 電話その他の通信設備の提供
- (7) 武力攻撃災害を受けた住宅の応急修理
- (8) 学用品の提供
- (9) 死体の捜索及び処理
- (10) 武力攻撃災害によって住居又はその周辺に運び込まれた土石、竹木等で、日常生活に著しい支障を及ぼしているものの除去

#### 2 救援の補助

市対策本部長は、上記で実施することとされた措置を除き、知事が実施する措置の補助を行う。

#### ※【着上陸侵攻への対応】

大規模な着上陸侵攻やその前提となる反復した航空機攻撃等の本格的な侵略事態における救援については、避難措置の指示の場合と同様、国の総合的な方針を踏まえて行うことが基本である。

このため、平素から、大規模な着上陸侵攻にかかる救援を想定した具体的な対応を決めておくことは困難である。

### 第2 関係機関との連携

#### 1 県への要請等

市対策本部長は、事務の委任を受けた場合において、救援を実施するために必要と判断したときは、知事に対して国及び他の県に支援を求めるよう、具体的な支援内容を示して要請する。

#### 2 他の市町村との連携

市対策本部長は、事務の委任を受けた場合において、救援を実施するために必要と判断したときは、知事に対し、県内の他の市町村との調整を行うよう要請する。

### 3 日本赤十字社との連携

市対策本部長は、事務の委任を受けた場合において、知事が日本赤十字社に委託した救援の措置又はその応援の内容を踏まえ、日本赤十字社と連携しながら救援の措置を実施する。

### 4 緊急物資の運送の求め

市対策本部長は、運送事業者である指定公共機関又は指定地方公共機関に対し、緊急物資の運送を求める場合は、避難住民の運送の求めに準じて行う。

## 第3 救援の内容

### 1 救援の基準等

市対策本部長は、事務の委任を受けた場合は、「武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律による救援の程度及び方法の基準」（平成25年内閣府省告示第229号。以下「救援の程度及び基準」という。）及び県国民保護計画の内容に基づき救援の措置を行う。

市対策本部長は、「救援の程度及び基準」によっては救援の適切な実施が困難であると判断する場合には、知事に対し、内閣総理大臣に特別な基準の設定についての意見を申し出るよう要請する。

### 2 救援における県との連携

市対策本部長は、知事が集約し、所有している資料の提供を求めるなどにより平素から準備した基礎的な資料を参考にしつつ、市対策本部内に集約された情報をもとに、救援に関する措置を実施する。

また、県と連携して、NBC攻撃による特殊な医療活動の実施に留意する。



## 第1 安否情報の収集

### 1 安否情報の収集

避難所において安否情報の収集を行うほか、平素から把握している市が管理する医療機関、諸学校等からの情報収集、県警察への照会などにより安否情報の収集を行う。

また、安否情報の収集は、避難所において、避難住民から任意で収集した情報のほか、住民基本台帳等、市が平素から行政事務の円滑な遂行のために保有する情報等を活用して行う。

### 2 安否情報収集の協力要請

安否情報を保有する運送機関、医療機関、報道機関等の関係機関に対し、必要な範囲において、安否情報の提供への協力を行うよう要請する場合は、当該協力は各機関の業務の範囲内で行われるものであり、当該協力は各機関の自主的な判断に基づくものであることに留意する。

### 3 安否情報の整理

自ら収集した安否情報について、できる限り重複を排除し、情報の正確性の確保を図るよう努める。

この場合において、重複している情報や必ずしも真偽が定かでない情報についても、その旨がわかるように整理をしておく。

## 第2 県に対する報告

県への報告に当たっては、原則として、安否情報システムにより報告することとするが、同システムによる報告ができない場合は、安否情報省令第2条に規定する様式第3号に必要事項を記載した書面（電磁的記録を含む。）を、電子メールで県に送付する。

ただし、事態が急迫してこれらの方法によることができない場合は、口頭や電話などでの報告を行う。

## 第3 安否情報の照会に対する回答

### 1 安否情報の照会の受付

(1) 安否情報の照会窓口、電話及びFAX番号、メールアドレスについて、市対策本部を設置すると同時に住民に周知する。

(2) 住民からの安否情報の照会については、原則として市対策本部に設置する対応窓口にて、安否情報省令に規定する様式第4号に必要事項を記載した書面を提出することにより受け付ける。

ただし、安否情報の照会を緊急に行う必要がある場合や照会をしようとする者が遠隔地に居住している場合など、書面の提出によることができない場合は、口頭や電話、電子メールなどでの照会も受け付ける。

## 2 安否情報の回答

- (1) 当該照会に係る者の安否情報を保有及び整理している場合には、安否情報の照会を行う者の身分証明書により本人確認等を行うこと等により、当該照会が不当な目的によるものではなく、また、照会に対する回答により知り得た事項を不当な目的に使用されるおそれがないと認めるときは、安否情報省令第4条に規定する様式第5号により、当該照会に係る者が避難住民に該当するか否か及び武力攻撃災害により死亡し、又は負傷しているか否かの別を回答する。
- (2) 照会に係る者の同意があるとき又は公益上特に必要があると認めるときは、照会をしようとする者が必要とする安否情報に応じ、必要と考えられる安否情報項目を様式第5号により回答する。
- (3) 安否情報の回答を行った場合には、当該回答を行った担当者、回答の相手の氏名や連絡先等を把握する。

## 3 個人の情報の保護への配慮

- (1) 安否情報は個人の情報であることにかんがみ、その取扱いについては十分留意すべきことを職員に周知徹底するなど、安否情報データの管理を徹底する。
- (2) 安否情報の回答に当たっては、必要最小限の情報の回答にとどめるものとし、負傷又は疾病の状況の詳細、死亡の状況等個人情報の保護の観点から特に留意が必要な情報については、安否情報回答責任者が判断する。

### **第4 日本赤十字社に対する協力**

日本赤十字社県支部の要請があったときは、当該要請に応じ、その保有する外国人に関する安否情報を提供する。

当該安否情報の提供に当たっても、第3、2項3項と同様に、個人の情報の保護に配慮しつつ、情報の提供を行う。

## 第7章 武力攻撃災害への対処

### 第1 武力攻撃災害への対処

武力攻撃災害への対処においては、災害現場における通常に対応とともに、特殊な武力攻撃災害への対応、活動時の安全の確保に留意しながら他の機関との連携のもとで活動を行う必要があり、武力攻撃災害への対処に関して基本的な事項を、以下のとおり定める。

#### 1 武力攻撃災害への対処の基本的考え方

##### (1) 武力攻撃災害への対処

市対策本部長は、国や県等の関係機関と協力して、市の区域に係る武力攻撃災害への対処のために必要な措置を講ずる。

##### (2) 知事への措置要請

市対策本部長は、武力攻撃災害への対処に関する措置を講ずる場合において、武力攻撃により多数の死者が発生した場合や、NBC攻撃による災害が発生し、国民保護措置を講ずるため高度な専門知識、訓練を受けた人員、特殊な装備等が必要となる場合など、市対策本部長が武力攻撃災害を防除し、及び軽減することが困難であると認めるときは、知事に対し、必要な措置の実施を要請する。

##### (3) 対処に当たる職員の安全の確保

武力攻撃災害への対処措置に従事する職員について、必要な情報の提供や防護服の着用等の安全の確保のための措置を講ずる。

#### 2 武力攻撃災害の兆候の通報

##### (1) 市対策本部長への通報

消防職員は、武力攻撃に伴って発生する火災や堤防の決壊、毒素等による動物の大量死、不発弾の発見などの武力攻撃災害の兆候を発見した者から通報を受けたときは、速やかに、その旨を市対策本部長に通報する。

##### (2) 知事への通知

市対策本部長は、武力攻撃災害の兆候を発見した者、消防職員、警察官から通報を受けた場合において、武力攻撃災害が発生するおそれがあり、これに対処する必要があると認めるときは、速やかにその旨を知事に通知する。

## 第2 応急措置等

武力攻撃災害が発生した場合において、特に必要があると認めるときは、自らの判断に基づき、退避の指示や警戒区域の設定を行うことが必要であり、それぞれの措置の実施に必要な事項について、以下のとおり定める。

### 1 退避の指示

#### (1) 退避の指示

市対策本部長は、武力攻撃災害が発生し、又は発生するおそれがある場合において、特に必要があると認めるときは、住民に対し退避の指示を行う。

この場合において、退避の指示に際し、必要により現地調整所を設けて（又は、関係機関により設置されている場合には、職員を早急に派遣し）、関係機関との情報の共有や活動内容の調整を行う。

#### ※ 【退避の指示について】

退避の指示は、武力攻撃災害に伴う目の危険を一時的に避けるため、特に必要がある場合に地域の実情に精通している市対策本部長が独自の判断で住民を一時的に退避させるものである。

ゲリラや特殊部隊による攻撃の場合には、住民に危険が及ぶことを防止するため、県の対策本部長による避難の指示を待ついとまがない場合もあることから、市対策本部長は、被害発生現場からの情報を受けて、その緊急性等を勘案して付近の住民に退避の指示をする。

#### ※ 【退避の指示（一例）】

- 「〇〇町××、△△町〇〇」地区の住民については、外での移動に危険が生じるため、近隣の堅牢な建物や地下街など屋内に一時退避すること。
- 「〇〇町××、△△町〇〇」地区の住民については、〇〇地区の△△（一時）避難場所へ退避すること。

#### ※ 【屋内退避の指示について】

市対策本部長は、住民に退避の指示を行う場合において、その場から移動するよりも、屋内に留まる方がより危険性が少ないと考えられるときには、「屋内への退避」を指示する。「屋内への退避」は、次のような場合に行うものとする。

- NBC攻撃と判断されるような場合において、住民が何ら防護手段なく移動するよりも、屋内の外気から接触が少ない場所に留まる方がより危険性が少ないと考えられるとき。
- 敵のゲリラや特殊部隊が隠密に行動し、その行動の実態等についての情報がない場合において、屋外で移動するよりも屋内に留まる方が不要の攻撃に巻き込まれるおそれが少ないと考えられるとき。

(2) 退避の指示に伴う措置等

- ① 退避の指示を行ったときは、CATV、広報車等により速やかに住民に伝達するとともに、放送事業者に対してその内容を連絡する。

また、退避の指示の内容等について、知事に通知を行う。退避の必要がなくなったとして、指示を解除した場合も同様に伝達等を行う。

- ② 市対策本部長は、知事、警察官又は自衛官から退避の指示をした旨の通知を受けた場合は、退避の指示を行った理由、指示の内容等について情報の共有を図り、退避の実施に伴い必要な活動について調整を行う。

(3) 安全の確保等

- ① 市対策本部長は、退避の指示を住民に伝達する市の職員に対して、二次被害が生じないよう国及び県からの情報や市で把握した武力攻撃災害の状況、関係機関の活動状況等についての最新情報を共有するほか、消防機関、県警察等と現地調整所等において連携を密にし、活動時の安全の確保に配慮する。

- ② 市の職員及び消防団員が退避の指示に係る地域において活動する際には、市対策本部長は、必要に応じて県警察、自衛隊の意見を聞くなど安全確認を行った上で活動させるとともに、各職員が最新の情報を入手できるよう緊急の連絡手段を確保し、また、地域からの退避方法等の確認を行う。

- ③ 市対策本部長は、退避の指示を行う市の職員に対して、武力攻撃事態等においては、必ず特殊標章等を交付し、着用させる。

2 警戒区域の設定

(1) 警戒区域の設定

市対策本部長は、武力攻撃災害が発生し、又はまさに発生しようとしている場合において、住民からの通報内容、関係機関からの情報提供、現地調整所等における関係機関の助言等から判断し、住民の生命又は身体に対する危険を防止するため特に必要があると認めるときは、警戒区域の設定を行う。

※ 【警戒区域の設定について】

警戒区域の設定は、武力攻撃災害に伴う目の危険を避けるため、特に必要がある場合において、退避の指示と同様に、地域の実情に精通している市対策本部長が独自の判断で一時的な立入制限区域を設けるものである。

警戒区域は、一定の区域をロープ等で明示し、当該区域内への立入制限等への違反については、罰則を科して履行を担保する点で退避の指示とは異なるものである。

(2) 警戒区域の設定に伴う措置等

- ① 市対策本部長は、警戒区域の設定に際しては、市対策本部に集約された情報のほか、現地調整所における県警察、自衛隊からの助言を踏まえて、その範囲等を決定する。

また、事態の状況の変化等を踏まえて、警戒区域の範囲の変更等を行う。

NBC攻撃等により汚染された可能性のある地域については、専門的な知見や装備等を有する機関に対して、必要な情報の提供を求め、その助言を踏まえて区域を設定する。

- ② 市対策本部長は、警戒区域の設定に当たっては、ロープ、標示板等で区域を明示し、広報車等を活用し、住民に広報・周知する。また、放送事業者に対してその内容を連絡する。

武力攻撃災害への対処に関する措置を講ずる者以外の者に対し、当該区域への立入りを制限し、若しくは禁止し、又は当該区域からの退去を命ずる。

- ③ 警戒区域内では、交通の要所に職員を配置し、県警察、消防機関等と連携して、車両及び住民が立ち入らないよう必要な措置を講ずるとともに、不測の事態に迅速に対応できるよう現地調整所等における関係機関との情報共有にもとづき、緊急時の連絡体制を確保する。
- ④ 市対策本部長は、知事、警察官又は自衛官から警戒区域の設定を行った旨の通知を受けた場合は、警戒区域を設定する理由、設定範囲等について情報の共有を図り、警戒区域設定に伴い必要な活動について調整を行う。

### (3) 安全の確保

市対策本部長は、警戒区域の設定を行った場合についても、退避の指示の場合と同様、区域内で活動する職員の安全の確保を図る。

## 3 応急公用負担等

### (1) 市対策本部長の事前措置

市対策本部長は、武力攻撃災害が発生するおそれがあるときは、武力攻撃災害を拡大させるおそれがあると認められる設備又は物件の占有者、所有者又は管理者に対し、災害拡大防止のために必要な限度において、当該設備又は物件の除去、保安その他必要な措置を講ずべきことを指示する。

### (2) 応急公用負担

市対策本部長は、武力攻撃災害への対処に関する措置を講ずるため緊急の必要があると認めるときは、次に掲げる措置を講ずる。

- ① 他人の土地、建物その他の工作物の一時使用又は土石、竹木その他の物件の使用若しくは収用
- ② 武力攻撃災害を受けた現場の工作物又は物件で当該武力攻撃災害への対処に関する措置の実施の支障となるものの除去その他必要な措置（工作物等を除去したときは、保管）

#### 4 消防に関する措置等

##### (1) 市が行う措置

市対策本部長は、消防機関による武力攻撃災害への対処措置が適切に行われるよう、武力攻撃等や被害情報の早急な把握に努めるとともに、県警察等と連携し、効率的かつ安全な活動が行われるよう必要な措置を講じる。

##### (2) 消防機関の活動

消防機関は、その施設及び人員を活用して、国民保護法のほか、消防組織法、消防法その他の法令に基づき、武力攻撃災害から住民を保護するため、消防職員等の活動上の安全確保に配慮しつつ、消火活動及び救助・救急活動等を行い、武力攻撃災害を防除し、及び軽減する。

この場合において、消防本部及び消防署は、その装備・資機材・人員・技能等を活用し武力攻撃災害への対処を行うとともに、消防団は、消防長又は消防署長の所轄の下で、消防団が保有する装備・資機材等の活動能力に応じ地域の実状に即した活動を行う。

##### (3) 消防相互応援協定等に基づく応援要請

市対策本部長は、市の区域内の消防力のみをもってしては対処できないと判断した場合は、知事又は他の市町村長に対し、相互応援協定等に基づく消防の応援要請を行う。

##### (4) 緊急消防援助隊等の応援要請

市対策本部長は、(3)による消防の応援のみでは十分な対応が取れないと判断した場合又は武力攻撃災害の規模等に照らし緊急を要するなど必要と判断した場合は、緊急消防援助隊の編成及び施設の整備等に係る基本的な事項に関する計画及び緊急消防援助隊運用要綱に基づき、知事を通じ又は、必要に応じ、直接に消防庁長官に対し、緊急消防援助隊等による消火活動及び救助・救急活動の応援等を要請する。

##### (5) 消防の応援の受入れ体制の確立

市対策本部長は、消防に関する応援要請を行ったとき及び消防庁長官の指示により緊急消防援助隊の出動に関する指示が行われた場合、これらの消防部隊の応援が円滑かつ適切に行なわれるよう、県知事と連携し、出動部隊に関する情報を収集するとともに、進出拠点等に関する調整や指揮体制の確立を図るなど消防の応援の受入れに関して必要な事項の調整を行う。

(6) 消防の相互応援に関する出動

市対策本部長は、他の被災市町村の長から相互応援協定等に基づく応援要請があった場合及び消防庁長官による緊急消防援助隊等の出動指示があった場合に伴う消防の応援を迅速かつ円滑に実施するために、武力攻撃災害の発生状況を考慮し、県知事との連絡体制を確保するとともに、消防長と連携し、出動可能な消防部隊の把握を行うなど、消防の応援出動等のための必要な措置を行う。

(7) 医療機関との連携

市対策本部長は、消防機関とともに、搬送先の選定、搬送先への被害情報の提供、トリアージの実施等について医療機関と緊密な連携のとれた活動を行う。

(8) 安全の確保

- ① 市対策本部長は、消火活動及び救助・救急活動等を行う要員に対し、二次被害を生じることがないように、国対策本部及び県対策本部からの情報を市対策本部に集約し、全ての最新情報を提供するとともに、県警察等との連携した活動体制を確立するなど、安全の確保のための必要な措置を行う。
- ② その際、市対策本部長は、必要により現地に職員を派遣し、消防機関、県警察、自衛隊等と共に現地調整所を設けて、各機関の情報の共有、連絡調整にあたらせるとともに、市対策本部との連絡を確保させるなど安全の確保のための必要な措置を行う。
- ③ 被災地以外の市長は、知事又は消防庁長官から消防の応援等の指示を受けたときは、武力攻撃の状況及び予測、武力攻撃災害の状況、災害の種別、防護可能な資機材、設備、薬剤等に関する情報を収集するとともに、出動する要員に対し情報の提供及び支援を行う。
- ④ 消防団は、施設・装備・資機材及び通常の活動体制を考慮し、災害現場においては、消防本部と連携し、その活動支援を行うなど団員に危険が及ばない範囲に限定して活動する。
- ⑤ 市対策本部長、消防長及び消防団長は、特に現場で活動する市職員、消防職員及び消防団員等に対し、必ず特殊標章等を交付し着用させるものとする。

### 第3 生活関連等施設における災害への対処等

生活関連等施設などの特殊な対応が必要となる施設について、国の方針に基づき必要な対処が行えるよう、国、県その他の関係機関と連携した市の対処に関して、以下のとおり定める。

#### 1 生活関連等施設の安全確保

##### (1) 生活関連等施設の状況の把握

市対策本部を設置した場合には、市内に所在する生活関連等施設の安全に関する情報、各施設における対応状況等の必要な情報を収集する。

##### (2) 消防機関による支援

消防機関は、生活関連等施設の管理者から支援の求めがあったときは、指導、助言、連絡体制の強化、資機材の提供、職員の派遣など、可能な限り必要な支援を行う。

また、自ら必要があると認めるときも、同様とする。

##### (3) 市が管理する施設の安全の確保

市対策本部長は、市が管理する生活関連等施設について、当該施設の管理者としての立場から、安全確保のために必要な措置を行う。

この場合において、市対策本部長は、必要に応じ、県警察、消防機関その他の行政機関に対し、支援を求める。

また、このほか、生活関連等施設以外の市が管理する施設についても、生活関連等施設における対応を参考にして、可能な範囲で警備の強化等の措置を講ずる。

(一部事務組合を構成して生活関連等施設を管理している場合、市は、他の構成市町村及び当該一部事務組合と連携して、警備の強化等の措置を講じる。)

#### 2 危険物質等に係る武力攻撃災害の防止及び防除

##### (1) 危険物質等に関する措置命令

市対策本部長は、危険物質等に係る武力攻撃災害の発生を防止するため緊急の必要があると認めるときは、危険物質等の取扱者に対し、武力攻撃災害発生防止のための必要な措置を講ずべきことを命ずる。

なお、避難住民の運送などの措置において当該物質等が必要となる場合は、関係機関と市対策本部で所要の調整を行う。

※ 危険物質等について市長が命ずることができる対象及び措置

【対 象】

- ① 消防本部等所在市の区域に設置される消防法第2条第7項の危険物の製造所、貯蔵所若しくは取扱所（移送取扱所を除く。）又は一の消防本部等所在市の区域のみに設置される移送取扱所において貯蔵し、又は取り扱うもの（国民保護法施行令第29条）
- ② 毒物及び劇物取締法第2条第1項の毒物及び同上第2項の劇物（同法第3条第3項の毒物劇物営業者、同法第3条の2第1項の特定毒物研究者並びに当該毒物及び劇物を業務上取り扱う者が取り扱うものに限る。）を毒物及び劇物取締法第4条第1項の登録を受けた者が取り扱うもの（地域保健法第5条第1項の政令により市又は特別区が登録の権限を有する場合）

【措 置】

- ① 危険物質等の取扱所の全部又は一部の使用の一時停止又は制限（危険物については、消防法第12条の3、毒物劇物については、国民保護法第103条第3項第1号）
- ② 危険物質等の製造、引渡し、貯蔵、移動、運搬又は消費の一時禁止又は制限（国民保護法第103条第3項第2号）
- ③ 危険物質等の所在場所の変更又はその廃棄（国民保護法第103条第3項第3号）

(2) 警備の強化及び危険物質等の管理状況報告

市長は、危険物質等の取扱者に対し、必要があると認めるときは、警備の強化を求める。

また、市長は、(1)の①から③の措置を講ずるために必要があると認める場合は、危険物質等の取扱者から危険物質等の管理の状況について報告を求める。

## 第4 NBC攻撃による災害への対処等

NBC攻撃による災害への対処については、国の方針に基づき必要な措置を講ずる。このため、NBC攻撃による災害への対処に当たり必要な事項について、以下のとおり定める。

### 1 NBC攻撃による災害への対処

NBC攻撃による汚染が生じた場合の対処について、国による基本的な方針を踏まえた対応を行うことを基本としつつ、特に、対処の現場における初動的な応急措置を講ずる。

#### (1) 応急措置の実施

市対策本部長は、NBC攻撃が行われた場合においては、その被害の現場における状況に照らして、現場及びその影響を受けることが予想される地域の住民に対して、退避を指示し、又は警戒区域を設定する。

また、保有する装備・資機材等により対応可能な範囲内で関係機関とともに、県警察の行う措置に協力する。

#### (2) 国の方針に基づく措置の実施

内閣総理大臣が、関係大臣を指揮して、汚染拡大防止のための措置を講ずる場合においては、内閣総理大臣の基本的な方針及びそれに基づく各省庁における活動内容について、県を通じて国から必要な情報を入手するとともに、当該方針に基づいて、所要の措置を講ずる。

#### (3) 関係機関との連携

市対策本部長は、NBC攻撃が行われた場合は、市対策本部において、消防機関、県警察、自衛隊、医療関係機関等から被害に関する情報や関係機関の有する専門的知見、対処能力等に関する情報を共有し、必要な対応を行う。

その際、必要により現地調整所を設置し（又は職員を参画させ）、現場における関係機関の活動調整の円滑化を図るとともに、市対策本部長は、現地調整所の職員から最新の情報についての報告を受けて、当該情報をもとに、県に対して必要な資機材や応援等の要請を行う。

#### (4) 汚染原因に応じた対応

NBC攻撃のそれぞれの汚染原因に応じて、国及び県との連携の下、それぞれ次の点に留意して措置を講ずる。

##### ① 核攻撃等の場合

核攻撃等による災害が発生した場合、国の対策本部による汚染範囲の特定を補助するため、汚染の範囲特定に資する被災情報を県に直ちに報告する。

##### ② 生物剤による攻撃の場合

措置に当たる要員に防護服を着用させる（広域連合消防本部装備保有）と

ともに、関係機関が行う汚染の原因物質の特定等に資する情報収集などの活動を行う。

また、県警察、保健所等の関係機関と連携して、保健所による消毒等の措置を行う。

③ 化学剤による攻撃の場合

措置に当たる要員に防護服を着用させるとともに、関係機関が行う原因物質の特定、汚染地域の範囲の特定、被災者の救助及び除染等に資する情報収集などの活動を行う。

※ 【生物剤を用いた攻撃の場合における対応】

天然痘等の生物剤は、人に知られることなく散布することが可能であり、また、発症するまでの潜伏期間に感染者が移動することにより、生物剤が散布されたと判明したときには既に被害が拡大している可能性がある。生物剤を用いた攻撃については、こうした特殊性にかんがみ、特に留意が必要である。

このため、危機管理課においては、生物剤を用いた攻撃の特殊性に留意しつつ、生物剤の散布等による攻撃の状況について、通常の被害の状況等の把握の方法とは異なる点にかんがみ、健康推進課等と緊密な連絡を取り合い、厚生労働省を中心とした一元的情報収集、データ解析等サーベイランス（疾病監視）による感染源及び汚染地域への作業に協力することとする。

(5) 市対策本部長及び関係消防本部の管理者若しくは長の権限

市対策本部長又は関係消防本部の管理者若しくは長は、知事より汚染の拡大を防止するため協力の要請があったときは、措置の実施に当たり、県警察等関係機関と調整しつつ、次の表に掲げる権限を行使する。

区 分	対象物件等	措 置
1号	飲食物、衣類、寝具その他の物件	占有者に対し、以下を命ずる。 ・移動の制限 ・移動の禁止 ・廃棄
2号	生活の用に供する水	管理者に対し、以下を命ずる。 ・使用の制限又は禁止 ・給水の制限又は禁止
3号	死体	・移動の制限 ・移動の禁止
4号	飲食物、衣類、寝具その他の物件	・廃棄
5号	建物	・立入りの制限 ・立入りの禁止 ・封鎖
6号	場所	・交通の制限 ・交通の遮断

市対策本部長又は関係消防本部の管理者若しくは長は、前記表中の第1号から第4号までに掲げる権限を行使するときは、当該措置の名あて人に対し、次の表に掲げる事項を通知する。

ただし、差し迫った必要があるときは、当該措置を講じた後、相当の期間内に、同事項を当該措置の名あて人（上記表中の占有者、管理者等）に通知する。

前記表中第5号及び第6号に掲げる権限を行使するときは、適当な場所に次の表に掲げる事項を掲示する。

ただし、差し迫った必要があるときは、その職員が現場で指示を行う。

1.	当該措置を講ずる旨
2.	当該措置を講ずる理由
3.	当該措置の対象となる物件、生活の用に供する水又は死体（上記表中第5号及び第6号に掲げる権限を行使する場合にあっては、当該措置の対象となる建物又は場所）
4.	当該措置を講ずる時期
5.	当該措置の内容

(6) 要員の安全の確保

市対策本部長又は関係消防本部の管理者若しくは長は、NBC攻撃を受けた場合、武力攻撃災害の状況等の情報を現地調整所や県から積極的な収集に努め、当該情報を速やかに提供するなどにより、応急対策を講ずる要員の安全の確保に配慮する。

## 第8章 被災情報の収集及び報告

被災情報を収集するとともに、知事に報告することとされていることから、被災情報の収集及び報告に当たり必要な事項について、以下のとおり定める。

### 第1 被災情報の収集及び報告

- 1 電話、市防災行政無線及び災害時情報共有システム、その他の通信手段により、武力攻撃災害が発生した日時及び場所又は地域、発生した武力攻撃災害の状況の概要、人的及び物的被害の状況等の被災情報について収集する。
- 2 情報収集に当たっては消防機関、県警察等との連絡を密にするとともに、特に消防機関は、機動的な情報収集活動を行うため、必要に応じ消防車両等を活用した情報の収集を行う。
- 3 被災情報の収集に当たっては、県及び消防庁に対し火災・災害等即報要領（昭和59年10月15日付け消防災第267号消防庁長官通知）に基づき、電子メール、FAX等により直ちに被災情報の第一報を報告する。
- 4 第一報を消防庁に報告した後も、随時被災情報の収集に努めるとともに、収集した情報についてあらかじめ定めた様式に従い、電子メール、FAX等により県が指定する時間に県に対し報告する。  
なお、新たに重大な被害が発生した場合など、市対策本部長が必要と判断した場合には、直ちに、火災・災害等即報要領に基づき、県及び消防庁に報告する。

## 第9章 保健衛生の確保その他の措置

避難所等の保健衛生の確保を図り、武力攻撃災害により発生した廃棄物の処理を適切かつ迅速に行うことが重要であることから、保健衛生の確保その他の措置に必要な事項について、以下のとおり定める。

### 第1 保健衛生の確保

避難先地域における避難住民等についての状況等を把握し、その状況に応じて、地域防災計画に準じて、次に掲げる措置を実施する。

#### 1 保健衛生対策

避難先地域において、県と連携し医師等保健医療関係者による健康相談、指導等を実施する。

この場合において、高齢者、障がい者その他特に配慮を要する者の心身双方の健康状態には特段の配慮を行う。

#### 2 防疫対策

避難住民等が生活環境の悪化、病原体に対する抵抗力の低下による感染症等の発生を防ぐため、県等と連携し感染症予防のための啓発、健康診断及び消毒等の措置を実施する。

#### 3 食品衛生確保対策

避難先地域における食中毒等の防止をするため、県と連携し、食品等の衛生確保のための措置を実施する。

#### 4 飲料水衛生確保対策

(1) 避難先地域における感染症等の防止をするため、県と連携し、飲料水確保、飲料水の衛生確保のための措置及び飲料水に関して保健衛生上留意すべき事項等についての住民に対して情報提供を実施する。

(2) 地域防災計画の定めに準じて、水道水の供給体制を整備する。

(3) 水道施設の被害状況の把握を行うとともに、供給能力が不足する、または不足すると予想される場合については、県に対して水道用水の緊急応援にかかる要請を行う。

#### 5 栄養指導対策

避難先地域の住民の健康維持のため、栄養管理、栄養相談及び指導を県と連携し実施する。

## 第2 廃棄物の処理

### 1 廃棄物処理の特例

- (1) 環境大臣が指定する特例地域においては、県と連携し廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づく廃棄物処理業の許可を受けていない者に対して、必要に応じ、環境大臣が定める特例基準に定めるところにより、廃棄物の収集、運搬又は処分を業として行わせる。
- (2) (1)により廃棄物の収集、運搬又は処分を業として行う者により特例基準に適合しない廃棄物の収集、運搬又は処分が行われたことが判明したときは、速やかにその者に対し、期限を定めて廃棄物の収集、運搬又は処分の方法の変更その他の必要な措置を講ずべきことを指示するなど、特例基準に従うよう指導する。

### 2 廃棄物処理対策

- (1) 地域防災計画の定めに準じて、「震災廃棄物対策指針」（平成10年厚生省生活衛生局作成）等を参考としつつ、廃棄物処理体制を整備する。
- (2) 廃棄物関連施設などの被害状況の把握を行うとともに、処理能力が不足する、または不足すると予想される場合については、県に対して他の市町村との応援等にかかる要請を行う。

## 第10章 市民生活の安定に関する措置

武力攻撃事態等においては、市民生活の安定に関する措置について、以下のとおり定める。

### 第1 生活関連物資等の価格安定

武力攻撃事態等において、物価の安定を図り、国民生活との関連性が高い物資若しくは役務又は国民経済上重要な物資若しくは役務（以下「生活関連物資等」という。）の適切な供給を図るとともに、価格の高騰や買占め及び売惜しみを防止するために県等の関係機関が実施する措置に協力する。

### 第2 避難住民等の生活安定等

#### 1 被災児童生徒等に対する教育

市教育委員会は、県教育委員会と連携し、被災した児童生徒等に対する教育に支障が生じないようにするため、避難先での学習機会の確保、教科書の供給、授業料の減免、被災による生活困窮家庭の児童生徒に対する就学援助等を行うとともに、避難住民等が被災地に復帰する際の必要に応じた学校施設等の応急復旧等を関係機関と連携し、適切な措置を講ずる。

#### 2 公的徴収金の減免等

避難住民等の負担軽減のため、法律及び条例の定めるところにより、市税に関する申告、申請及び請求等の書類、納付または納入に関する期間の延期並びに市税（延滞金を含む）の徴収猶予及び減免の措置を災害の状況に応じて実施する。

### 第3 生活基盤等の確保

#### 1 水の安定的な供給

水道事業者として、消毒その他衛生上の措置、被害状況に応じた送水停止等、武力攻撃事態等において水を安定的かつ適切に供給するために必要な措置を講ずる。

#### 2 公共的施設の適切な管理

道路等の管理者として、当該公共的施設を適切に管理する。

## 第11章 特殊標章等の交付及び管理

ジュネーヴ諸条約及び第一追加議定書に規定する特殊標章及び身分証明書（以下「特殊標章等」という。）を交付及び管理することとなるため、これらの標章等の適切な交付及び管理に必要な事項について、以下のとおり定める。

### ※ 特殊標章等の意義について

1949年8月12日のジュネーヴ諸条約の国際的な武力紛争の犠牲者の保護に関する追加議定書（第一追加議定書）において規定される国際的な特殊標章等は、国民保護措置に係る職務、業務又は協力（以下この章において「職務等」という。）を行う者及びこれらの者が行う職務等に使用される場所若しくは車両、船舶、航空機等（以下この章において「場所等」という。）を識別するために使用することができ、それらは、ジュネーヴ諸条約及び第一追加議定書の規定に従って保護される。

### 第1 特殊標章等

#### 1 特殊標章

第一追加議定書第66条3に規定される国際的な特殊標章  
（オレンジ色地に青の正三角形）

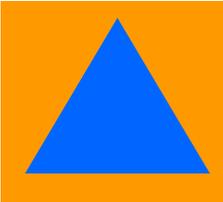
#### 2 身分証明書

第一追加議定書第66条3に規定される身分証明書  
（様式のひな型は下記のとおり。）

#### 3 識別対象

国民保護措置に係る職務等を行う者、国民保護措置に係る協力等のために使用される場所等。

<p style="text-align: center;">表面</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;"> <p style="font-size: 8px;">この証明書を交付等 する許可権者の名を記 載するための余地</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <p><b>身分証明書</b> IDENTITY CARD</p> <p>国民保護措置に係る職務等を行う者用 for civil defence personnel</p> </div> <p>氏名/Name: .....</p> <p>生年月日/Date of birth: .....</p> <p style="font-size: 8px;">この証明書の所持者は、次の資格において、1949年8月12日のジュネーヴ諸条約及び1949年8月12日のジュネーヴ諸条約の国際的な武力紛争の犠牲者の保護に関する追加議定書（議定書I）によって保護される。 The holder of this card is protected by the Geneva Conventions of 12 August 1949 and by the Protocol Additional to the Geneva Conventions of 12 August 1949, and relating to the Protection of Victims of International Armed Conflicts (Protocol I) in his capacity as</p> <p>交付等の年月日/Date of issue: ..... 発行機関/Issuing authority: .....</p> <p>有効期限の満了日/Date of expiry: .....</p> </div>	<p style="text-align: center;">裏面</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; font-size: 8px;">身長の寸法/Height: .....</td> <td style="width: 33%; font-size: 8px;">目の色/Eyes: .....</td> <td style="width: 33%; font-size: 8px;">頭髮の色/Hair: .....</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="font-size: 8px;">その他の特徴又は情報/Other distinguishing marks or information:</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="font-size: 8px;">署名/Signature: .....</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="font-size: 8px;">.....</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="font-size: 8px;">.....</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center; font-size: 8px;">所持者の写真 PHOTO OF HOLDER</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="font-size: 8px;">印/Stamp: .....</td> <td style="font-size: 8px;">所持者の署名/Signature of holder: .....</td> </tr> </table> </div>	身長の寸法/Height: .....	目の色/Eyes: .....	頭髮の色/Hair: .....	その他の特徴又は情報/Other distinguishing marks or information:			署名/Signature: .....			.....			.....			所持者の写真 PHOTO OF HOLDER			印/Stamp: .....		所持者の署名/Signature of holder: .....
身長の寸法/Height: .....	目の色/Eyes: .....	頭髮の色/Hair: .....																				
その他の特徴又は情報/Other distinguishing marks or information:																						
署名/Signature: .....																						
.....																						
.....																						
所持者の写真 PHOTO OF HOLDER																						
印/Stamp: .....		所持者の署名/Signature of holder: .....																				



（オレンジ色地に青の正三角形）

（日本工業規格A7（横74ミリメートル、縦105ミリメートル）  
（身分証明書のひな型）

## 第2 特殊標章等の交付及び管理

市長及び消防長は、「赤十字標章等及び特殊標章等に係る事務の運用に関するガイドライン（平成17年8月2日閣副安危第321号内閣官房副長官補（安全保障・危機管理担当）付内閣参事官（事態法制担当）通知）」に基づき、具体的な交付要綱を作成した上で、それぞれ以下に示す職員等に対し、特殊標章等を交付及び使用させる。

（「市町村の特殊標章及び身分証明書に関する交付要綱（例）」及び「消防本部の特殊標章及び身分証明書に関する交付要綱（例）」（平成17年10月27日消防国第30号国民保護室長通知）を参考。）

### 1 市長

- (1) 市の職員（消防長の所轄の消防職員並びに水防管理者の所轄の水防団長及び水防団員を除く。）で国民保護措置に係る職務を行うもの
- (2) 消防団長及び消防団員
- (3) 市長の委託により国民保護措置に係る業務を行う者
- (4) 市長が実施する国民保護措置の実施に必要な援助について協力をする者

### 2 消防長

- (1) 消防長の所轄の消防職員で国民保護措置に係る職務を行うもの
- (2) 消防長の委託により国民保護措置に係る業務を行う者
- (3) 消防長が実施する国民保護措置の実施に必要な援助について協力をする者

## 第3 特殊標章等に係る普及啓発

国、県及びその他関係機関と協力しつつ、特殊標章等及び赤十字標章等の意義及びその使用に当たっての濫用防止について、教育や学習の場などの様々な機会を通じて啓発に努める。

## 第4編 復旧等

### 第1章 応急の復旧

管理する施設及び設備について、武力攻撃災害による被害が発生したときは、一時的な修繕や補修など応急の復旧のため必要な措置を講じることとし、応急の復旧に関して必要な事項について、以下のとおり定める。

#### 第1 基本的考え方

- 1 市が管理する施設及び設備の緊急点検等  
武力攻撃災害が発生した場合には、安全の確保をした上でその管理する施設及び設備の被害状況について緊急点検を実施するとともに、被害の拡大防止及び被災者の生活確保を最優先に応急の復旧を行う。
- 2 通信機器の応急の復旧  
武力攻撃災害の発生により、防災行政無線等関係機関との通信機器に被害が発生した場合には、予備機への切替等を行うとともに、保守要員により速やかな復旧措置を講ずる。  
また、復旧措置を講じてもなお障害がある場合は、他の通信手段により関係機関との連絡を行うものとし、直ちに総務省にその状況を連絡する。
- 3 県に対する支援要請  
応急の復旧のための措置を講ずるに当たり必要があると認める場合には、県に対し、それぞれ必要な人員や資機材の提供、技術的助言その他必要な措置に関し支援を求める。

#### 第2 公共的施設の応急の復旧

- 1 武力攻撃災害が発生した場合には、市が管理するライフライン施設について、速やかに被害の状況を把握するとともに、被害の状況に応じて、応急の復旧のための措置を講ずる。
- 2 武力攻撃災害が発生した場合には、その管理する道路等及びその所有する施設について、速やかに被害の状況を把握し、その状況を県に報告するとともに、被害の状況に応じて、障害物の除去その他避難住民の運送等の輸送の確保に必要な応急の復旧のための措置を講ずる。

## 第2章 武力攻撃災害の復旧

管理する施設及び設備について、武力攻撃災害による被害が発生したときは、武力攻撃災害の復旧を行うこととし、武力攻撃災害の復旧に関して必要な事項について、以下のとおり定める。

### 第1 国における所要の法制の整備等

武力攻撃災害が発生したときは、国において財政上の措置その他本格的な復旧に向けた所要の法制が整備されるとともに、特に、大規模な武力攻撃災害が発生したときは、本格的な復旧に向けての国全体としての方向性について速やかに検討することとされており、武力攻撃災害の復旧について、国が示す方針にしたがって県と連携して実施する。

### 第2 市が管理する施設及び設備の復旧

武力攻撃災害により市の管理する施設及び設備が被災した場合は、被災の状況、周辺地域の状況等を勘案しつつ迅速な復旧を行う。

また、必要があると判断するときは、地域の実情等を勘案し、県と連携して、当面の復旧の方向を定める。

### 第3章 国民保護措置に要した費用の支弁等

国民保護措置の実施に要した費用については、原則として国が負担することとされており、国民保護措置に要した費用の支弁等に関する手続等に必要な事項について、以下のとおり定める。

#### 第1 国民保護措置に要した費用の支弁、国への負担金の請求

##### 1 国に対する負担金の請求方法

国民保護措置の実施に要した費用で市が支弁したのものについては、国民保護法により原則として国が負担することとされていることから、別途国が定めるところにより、国に対し負担金の請求を行う。

##### 2 関係書類の保管

武力攻撃事態等において、国民保護措置の実施に要する費用の支出に当たっては、その支出額を証明する書類等を保管する。

#### 第2 損失補償及び損害補償

##### 1 損失補償

国民保護法に基づく土地等の一部使用等の行政処分を行った結果、通常生ずべき損失については、国民保護法施行令に定める手続等に従い、補償を行う。

##### 2 損害補償

国民保護措置の実施について援助を要請し、その要請を受けて協力をした者がそのために死傷したときは、国民保護法施行令に定める手続等に従い損害補償を行う。

#### 第3 総合調整及び指示に係る損失の補てん

県の対策本部長が総合調整を行い、又は避難住民の誘導若しくは避難住民の運送に係る指示をした場合において、当該総合調整又は指示に基づく措置の実施に当たって損失を受けたときは、国民保護法施行令に定める手続に従い、県に対して損失の請求を行う。

ただし、市の責めに帰すべき事由により損失が生じたときは、この限りではない。

## 第5編 緊急対処事態への対処

### 第1 緊急対処事態

市国民保護計画が対象として想定する緊急対処事態については、第1編第5章2に掲げるとおりである。

緊急対処事態は、原則として、武力攻撃事態等におけるゲリラや特殊部隊による攻撃等と類似の事態が想定されるため、緊急対処事態対策本部の設置や緊急対処保護措置の実施などの緊急対処事態への対処については、警報の通知及び伝達を除き、原則として武力攻撃事態等への対処に準じて行う。

### 第2 緊急対処事態における警報の通知及び伝達

緊急対処事態においては、国の対策本部長により、攻撃の被害又はその影響の及ぶ範囲を勘案して、警報の内容の通知・伝達の対象となる地域の範囲が決定されることを踏まえ、緊急対処事態における警報については、その内容を通知及び伝達の対象となる地域を管轄する機関及び当該地域に所在する施設の管理者等に対し通知及び伝達を行う。

緊急対処事態における警報の内容の通知及び伝達については、上記によるほか、武力攻撃事態等における警報の内容の通知及び伝達に準じて、これを行う。

# 阿波市国民保護計画

平成20年 2月 作成

平成30年 3月 修正

発 行 阿波市国民保護協議会

阿波市市場町切幡字古田 201 番地 1

T E L 0883-36-8700

F A X 0883-36-8760

編 集 危機管理課

